

平成25年度入学生用

履 修 要 項

(*syllabus*)

児 童 教 育 学 科

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

《 目 次 》

学修の手引き P1 ～ P4

平成25年度入学生 教育課程 P5 ～ P8

[一般教養科目] (共通) P9 ～ P40

[専 門 科 目]

1年次用(平成25年度) P41 ～ P84

2年次用(平成26年度) P85 ～ P135

《 卷 末 》

※「履修科目・修得単位記入一覧表」

[注 記]

※平成26年度(2年次)の履修科目について、

一部「担当者・履修内容等」の変更があります。

なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

1
年
前
期

1
年
後
期

2
年
前
期

2
年
後
期

修
得
単
位
記
入
表

(4) 授業科目の **必修・選択** の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

- ① 必修科目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ③ 選択科目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

(5) 授業科目の **開講学期** について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまりその授業科目の単位数は、当該授業科目が開講される学期の欄に記入されています。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

(6) **履修届** について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

(1) 卒業要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各コースともに **62単位以上を修得した者**を卒業と認めることになっています。

卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

学 科	一般教養科目			専 門 科 目			計
	必修	選択必修	選 択	教科に関する科目	教職等に関する科	必修	
児童教育学科	4	4	8	4	29	13	62

卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、16単位以上を修得すること。

- ① 必修科目 … 「WE LOVE 鹿児島！」の2単位、「キャリアガイダンス」の4単位は、全員修得すること。
- ② 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれか一つを選択し、同じ科目のⅠ・Ⅱを合わせて4単位を修得すること。
- ③ 選択科目 … 上記以外の一般教養科目の中から、8単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。

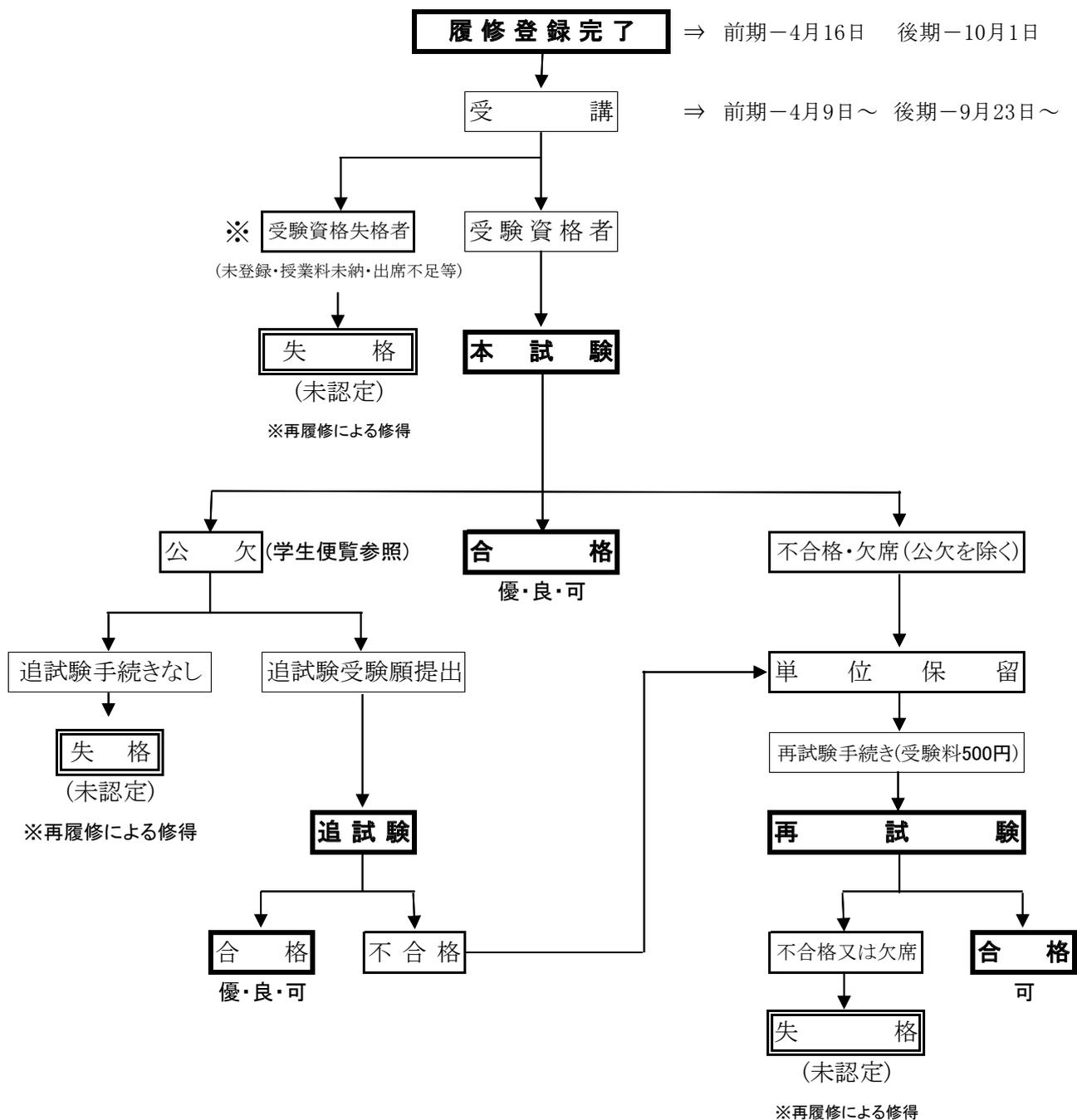
なお、「免許・資格関連科目」(別表第1の2)は、「専門科目」に含まれるもの(○印のあるもの)を除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

(2) 免許または資格

児童教育学科において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

学 科	取得できる免許状・資格	コース		
		小・幼コース	小・保コース	幼・保コース
児童教育学科	小学校教諭二種免許状	○	○	
	幼稚園教諭二種免許状	○		○
	保育士証		○	○
	司書教諭資格	○	○	
	ピアヘルパー受験資格	○	○	○

「履修登録」から「単位認定」までの流れ



I. 「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「成績発表用学生番号」によって
掲示します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

II. 「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「成績発表用学生番号」によって掲示します。

※ 「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

一般教養科目

科目番号	1	授業科目	日本語表現の基礎 (Fundamentals of Japanese Expressions)			担当者	瀬戸口 修
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 最近、指摘される、文章表現力の欠如を打開するため、日本語の表現(書くこと・話すこと)について、表現力(就中、書く力)を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることを、めざす。						
	2. 授業の内容 原稿用紙のつかい方や文字・表記法・用語などについて、具体的に、学習する。さらに、課題作文を中心に、材料集め、文のつづけ方、文章構成、推敲など、文章表現の基本的事項を学び、それを実践する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 自己紹介(話す・書く)						
	② 原稿用紙のつかい方の演練……定着・実践						
	③ 文字(字形、楷書、鉛筆書き、五十音図、いろは歌)について						
	④ 表記法(文体→常体＝デアル・ダ・タ体。ひらがな書きなど)について						
	⑤ 課題作文の提示……① レベル I						
	⑥ 一文の長さ・簡潔さの模範→奨励→実践						
	⑦ 話しことばと書きことばの差異の具体的理解(演練) → 課題作文に活かす。						
	⑧ 課題作文の提示……② レベル II						
	⑨ 文のつづけ方(＝接続のしかた) の理解→演練→実践						
	⑩ 課題作文のチェックとフィードバック						
	⑪ 課題作文の提示……③ レベル III						
	⑫ 段落設定とその工夫……文章構成の理解→実践						
	⑬ 一語作文・一文作文の理解・演練→実践						
	⑭ 文章の推敲について……演練						
⑮ 課題作文の提示……④ (最終作文) レベル IV							
成績評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)						
参考文献等	テキスト：米田明美 藏中さやか 山上登志美 著 『大学生のための日本語表現 実践ノート』 風間書房						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	2	授業科目	倫理学 (Ethics)			担当者	村若 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期		児教	講義	2	選択	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ①具体的な生命倫理の問題を考えることにより、倫理的な思考を身につける。 ②「生命倫理学」という学問分野の基礎を理解する。 ③身近な生命倫理の問題を正確に認識する。 ④生命倫理の問題について、論理的かつ共感的に、自分の考えを自分のことばで表現する。						
	2. 授業の内容 「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について考える学問です。道徳とか倫理とかいうものは、実はすでに皆さんがすでに身につけているものです。倫理学は、その身につけているものを反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題について考えていきます。まずアメリカ流の「生命倫理」の成立史や基本思想を明らかにし、その後、主として医療倫理の諸問題にテーマを絞って解説します。さまざまなテーマについて、ビデオなどを用いて身近な問題として関心を持ってもらい、さまざまな角度から考えるためのヒントを与えます。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 倫理学と「生命倫理」						
	② 生命倫理の成立(1)患者の権利						
	③ 生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史						
	④ 生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則						
	⑤ 尊厳死(1)						
	⑥ 尊厳死(2)						
	⑦ 安楽死(1)						
	⑧ 安楽死(2)						
	⑨ 人工妊娠中絶						
	⑩ 不妊治療技術の利用(1)						
	⑪ 不妊治療技術の利用(2)						
	⑫ 出生前診断(1)						
	⑬ 出生前診断(2)						
	⑭ 脳死と臓器移植(1)						
⑮ 脳死と臓器移植(2)							
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 提出物(感想文等)(20点)						
参考文献等	テキスト:中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂 使用視聴覚機器:VHSビデオデッキ、DVDプレーヤー						
備考							
	オフィスアワー	火曜日					

科目番号	3-①	授業科目	文学 (Literature)			担当者	高島 まり子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 世界を動かす最強国アメリカの文学を、ドラマ映像も活用して楽しみながら歴史に沿って学ぶ。そこからアメリカの文化を理解すると共に、現代の国際社会や自分自身の生き方を考えるヒントを得る。						
	2. 授業の内容 映画化されたアメリカ文学の鑑賞と作品の解説を通し、17世紀植民地時代から独立戦争の18世紀、南北戦争に至る19世紀、黒人公民権運動に至る20世紀へと300年以上の歴史を背景に描かれる社会と文化、人間を見つめる。そこから、現代社会や自分自身の生き方について考えていく。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	『るつぼ』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・レポート作成と提出					
	②	同					
	③	同					
	④	関連して『真実の瞬間』の資料配布・解説・鑑賞・『るつぼ』作品のまとめレポートの作成と提出					
	⑤	『ラスト・オブ・モヒカン』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・レポート作成と提出					
	⑥	同					
	⑦	『ラスト・オブ・モヒカン』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・作品のまとめレポートの作成と提出					
	⑧	『若草物語』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・レポート作成と提出					
	⑨	同					
	⑩	『若草物語』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・作品のまとめレポートの作成と提出					
	⑪	黒人差別と公民権運動の資料提示・解説・作品鑑賞					
	⑫	同・意見交換・レポート作成と提出					
	⑬	『カラー・パープル』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・レポート作成と提出					
	⑭	同					
⑮	『カラー・パープル』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・作品のまとめレポートの作成と提出						
成績評価	受講態度(40%)・レポート等(60%)の総合評価						
参考文献等	○参考文献： 亀井俊介『アメリカ文学史講義』南雲堂 長坂寿久 『映画で読むアメリカ』(朝日文庫) 朝日新聞社 小林憲二 『アメリカ文化の今——人種・ジェンダー・階級』 ミネルヴァ書房 八尋春海編著 『映画で学ぶアメリカ文化』 スクリーンプレイ出版 八尋春海編著 『映画で楽しむアメリカの歴史』 金星堂 福島隆彦 『アメリカの秘密』 メディアワークス 岩元巖編 『アメリカ文学のヒロイン』リーベル出版 ○視聴覚機器(DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)					

科目番号	3-②	授業科目	文学 (Literature)			担当者	伊佐山 潤子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 日本文学史に燦然と輝く『源氏物語』の世界にご招待します。現代人にも共通する人間の感情、人の生き方、とりわけさまざまに魅力的な女性たちの存在に皆さんきっと驚くことでしょう。千年も前の作品がなぜ今も読者をひきつけるのか、その秘密に触れてみます。登場人物たちの人生を追って、いろいろと考えをめぐらせてください。						
	2. 授業の内容 一回完結で読みきれぬ長さの文章を用意します。古文の音やリズムにも少しずつ慣れて行ってください。作家や時代に関するミニ知識、絵巻・コミック・映画等の話も交えながら鑑賞して行きます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 『源氏物語』と紫式部の時代						
	② 光源氏の一生						
	③ 紫の人(1) 桐壺更衣・藤壺						
	④ 紫の人(2) 紫の上・女三の宮						
	⑤ 中の品 空蝉・夕顔・末摘花						
	⑥ 六条御息所と葵の上(1) 車争い						
	⑦ 六条御息所と葵の上(2) 物の怪						
	⑧ 朧月夜						
	⑨ 明石の君						
	⑩ 桐壺帝・朱雀帝・冷泉帝						
	⑪ 光源氏と頭中将						
	⑫ 夕霧と柏木						
	⑬ 薫と匂の宮						
	⑭ 大君・中君・浮舟						
⑮ 『源氏物語』の世界							
成績評価	出席状況と受講態度(講義への取り組み)60%、学期末レポート40%						
参考文献等	<p>テキスト：プリントを配布します。</p> <p>参考文献：山本淳子『源氏物語の時代 一条天皇と后たちのものがたり』(朝日新聞社 2007) 三田村雅子『源氏物語 天皇になれなかった皇子のものがたり』(新潮社 2008) ほかは講義中随時紹介します。</p> <p>DVD等使用</p>						
備考							
	オフィスアワー	随時(伊佐山研究室)					

科目番号	4	授業科目	心理学 (Psychology)			担当者	園田 美保
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この講義の第一の目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つけて欲しい。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。						
	2. 授業の内容 心理学の主な分野を網羅し、紹介する。講義形式であるが、受講者はそれぞれ自分自身の日常生活や身近な他者を想定して、内容の理解を行い、各回のレポートで記述する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション (講義形式、授業計画、心理学イントロ「心理学とは?」)						
	② 心理学の歴史と方法 (心理学成立、影響力の強い考え方三者三様、心理学の方法論と私たちが人間を見るまなざし)						
	③ 動機づけ (各種動機づけ説、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法)						
	④ 情動 (情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害)						
	⑤ 認知 (私たちは環境をどのように知るのか? 感覚、知覚、認知の特性)						
	⑥ 学習 (人間の行動が作られるしくみとは? 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習)						
	⑦ 中間振り返り < 普段の「わたし」の行動を、これまでの心理学で解説してみる >						
	⑧ 知能 (知能の構造、知能の発達、遺伝か環境か?、今からできる創造性を発揮する思考法)						
	⑨ パーソナリティ (人の特徴の捉え方: 類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法)						
	⑩ 適応 (人間を環境との関わりで考えてみると? 不適応反応、ストレス、防衛機制)						
	⑪ 社会と人間1 (集団とは、集団から個人への影響)						
	⑫ 社会と人間2 (個人や少数者が集団に与える影響: 少数意見が通る時/リーダーシップ論)						
	⑬ 臨床の心理学1 (心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解)						
	⑭ 臨床の心理学2 (心理療法のアプローチ四者四様; 精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法)						
⑮ 総括・補足・全体ふり返り							
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度 (65%)・中間レポート (10%)・最終レポート (25%)						
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材: プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト						
備考							
	オフィスアワー	金曜日以外で随時 (研究室)・要事前連絡					

科目番号	5	授業科目	社会学 (Introduction of Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ・人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける。 ・自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつけて考えることができる想像力を身につける。 ・人びとの間に(社会的に)共有される意味や形式の可変性・多様性の理解を深める。						
	2. 授業の内容 自分の視点から離れて世の中を見ることや想像力を働かせることを意識しながら、日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を振り返ることを通して、日常生活や社会の仕組みを解説していく。順序としては、まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に、身近な人間関係の間で繰り返られる行為の分析をし、その後、扱う題材の範囲を広げ、社会の大きな変化と個々人の行為の関係についてみていくことにする。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 社会学とは						
	② 意味と相互主観性						
	③ アイデンティティ(1) 自分探し						
	④ アイデンティティ(2) アイデンティティと社会との関わり						
	⑤ アイデンティティ(3) 自分探しと現代社会						
	⑥ 正常と異常(1) 正常と異常の境界						
	⑦ 正常と異常(2) レッテルを貼る／貼られること						
	⑧ 正常と異常(3) 水俣病に学ぶこと						
	⑨ 予言の自己成就(1) イメージと現実						
	⑩ 予言の自己成就(2) 意図せざる結果						
	⑪ 共同体(1) 家族の現実						
	⑫ 共同体(2) 地域社会の変容						
	⑬ 共同体(3) 新たな関係性						
	⑭ 国家と市民社会(1) 国家とは何か						
⑮ 国家と市民社会(2) 国家と市場と市民 授業のまとめ							
成績評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 友枝敏雄ほか編『社会学のエッセンス[新版]』有斐閣 2007年 参考文献 フロム, E. 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社 1951年 アリエス, P. 杉山光信・杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生』みすず書房 1980年 ほか 一部視聴覚機器(DVD)使用						
備考							
	オフィスアワー	月・火・金曜日 随時(研究室)					

科目番号	6	授業科目	国際化と経済 (Internationalization & Economics)			担当者	大重 康雄
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解でき、グローバル化の進む地域経済で何が今問題で、どう自分は行動すべきか主体的に判断できるレベルを目指す。						
	2. 授業の内容 ・産業と経済・金融の基本的なしくみを学ぶ。 ・国際経済の現状を学ぶ ・国際社会の現状を理解し日本・地域経済の課題について考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について						
	② GDPで考える物価と経済成長						
	③ 金融のしくみと経済						
	④ 貿易取引と決済のしくみ						
	⑤ 国際通貨制度の現状と問題点						
	⑥ 企業のグローバル化(多国籍化の現状)						
	⑦ 地域経済統合(FTA/EPA)の歩み						
	⑧ グローバル・イシュー I (開発と貧困)						
	⑨ グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)						
	⑩ 各国・地域事情ーグローバル化と日本						
	⑪ 各国・地域事情ーアジア・ASEAN						
	⑫ 各国・地域事情ーアメリカ						
	⑬ 各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア						
	⑭ 鹿児島県経済とグローバル化						
⑮ 講義のまとめ							
成績評価	・学期末に実施する筆記試験(90分で実施)の成績及び、授業への取組姿勢等によって評価する。 (授業での発言・取組姿勢10%・定期試験90%)						
参考文献等	○テキスト・・・「私たちの国際経済ー見つめよう、考えよう、世界のこと」 東京経済大学国際経済グループ 著 有斐閣ブックス ○参考文献・・・「グローバルエコノミー」 岩本武和ほか著 有斐閣アルマ ※ 講師作成レジュメ(毎回配布予定)						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	7	授業科目	日本国憲法 (Constitution of Japan)			担当者	池田 哲之
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	講義	2	選択	幼教免・小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、近・現代憲法典の特質を憲法史的観点から明らかにすることを第一の目標に置くが、あわせて現行日本国憲法の制定過程を考察の対象に加えることにより、憲法改正論議の動向をも踏まえ、戦後わが国社会において現行憲法が果たしてきた役割について見極める。その際は、「生活者にとっての憲法」という視点をとくに重視してゆくものとする。						
	2. 授業の内容 憲法典の歴史を、ヨーロッパ封建社会にまで辿りながら、近・現代憲法典生成の背景を解説する。さらに、両憲法典の特徴的人権を具体的に取り上げ、それら人権が人々の日々の暮らしにどのような変化を及ぼすことになったのかを浮き彫りにしてゆく。そのうえで、現行日本国憲法改正論議の動向をも紹介し、あるべき日本国憲法の姿を学生諸君とともに考えてゆきたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① わたし達の生活と憲法ーもし、憲法がなかったらー						
	② 憲法の誕生ーヨーロッパ社会を例としてー						
	③ 近代憲法典の特質						
	④ 現代憲法典の特質						
	⑤ 日本国憲法の特色ー明治憲法との対比からー						
	⑥ 敗戦と米国の占領政策						
	⑦ 日本国憲法の制定過程						
	⑧ 伝統日本文化と日本国憲法						
	⑨ 日本国憲法の人権規定Ⅰー自由権ー						
	⑩ 日本国憲法の人権規定Ⅱー社会権ー						
	⑪ 自由権制約の理論ー公共の福祉概念ー						
	⑫ わが国の統治構造Ⅰー国会ー						
	⑬ わが国の統治構造Ⅱー裁判所・内閣ー						
	⑭ これからの国民・国家像と憲法改正						
⑮ まとめ							
成績評価	定期試験(60分)分に85点、平常点(受講姿勢・態度等)分に15点を配点し、その合算で評価する。受講態度のかんばしくない者は、注意の程度・回数により減点する。						
参考文献等	教員作成のレジユメを、ほぼ毎時配布する。 テキストについては、講義時に指示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(金曜日是对応できません)。					

科目番号	8	授業科目	歴史学 (History)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 民俗学や地理学など他学問との連携も視野に入れながら、歴史学が何を目的とし、どのような方法で研究がなされているかを理解する。「森羅万象学べぬものなし」という研究の精神に基づき、身近な題材から歴史的に考察しようとする意識や態度を養う。						
	2. 授業の内容 地名や人生儀礼といった生活の中で密接なかかわりをもつもの、また、お化けという興味関心が高いものを題材に、歴史研究の在り方について考察する。さらに、歴史学の研究成果が現在、そして未来の自分や社会にどのようにつながっていくかを考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① イン트로ダクション						
	② 地名と歴史研究(1) —難読地名の研究—						
	③ 地名と歴史研究(2) —鹿児島・南九州・沖縄の地名研究—						
	④ 地名と歴史研究(3) —地名研究の意義—						
	⑤ 歌をとおしての地域性研究						
	⑥ お化けの研究(1) —「怪談」を研究する視点—						
	⑦ お化けの研究(2) —お化けの不易と流行—						
	⑧ お化けの研究(3) —柳田國男の研究と町おこし—						
	⑨ お化けの研究(4) —お化け研究の意義—						
	⑩ 人生儀礼の研究(1) —死の文化と歴史—						
	⑪ 人生儀礼の研究(2) —恋愛と結婚の歴史的研究—						
	⑫ 人生儀礼の研究(3) —祭り・芸能の研究—						
	⑬ 人生儀礼の研究(4) —人生儀礼研究の意義—						
	⑭ 食文化の歴史						
⑮ 鹿児島の近現代史							
成績評価	筆記試験(60分で実施)にて評価する。(100%)						
参考文献等	○参考文献は講義中に適宜指示する。 ○ビデオ(DVD)を使用する場合がある						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	9	授業科目	インターンシップ ("Internship" in Companies)			担当者	大重 康雄
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を垣間見る機会を与え、これまで得てきた理論や技術が社会といかなる関連をもっているかを、体験を通して考えさせることである。 ① 社会体験を大学での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立てる。 ② 職業に関する興味、関心、適性が、どこにあるかを自ら考える機会とする。 ③ 実社会の厳しさを体験することによって、社会人となる自覚を持ち、自己啓発に努める。						
	2. 授業の内容 ・事前研修として、研修先企業団体研究、研修内容説明、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導が、本学教員と2～3名の学外講師陣によって行われる。 ・学内での研修を終えた後、主に夏季休業中に1～2週間(受入れ先により期間は異なる)のインターンシップが実施され、事後研修として日誌やレポートの提出および研修報告発表会を実施。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	ガイダンス・インターンシップとは何か					(大重)
	②	研修先企業概要・エントリーシート登録方法説明					(大重)
	③	エントリーシート・自己PRの書き方					(大重)
	④	一次マッチング説明・仕事の基本的心得					(大重)
	⑤	外部講師講演(1)					(外部講師)
	⑥	研修企業の研修内容説明					(大重)
	⑦	来客対応の基本・二次マッチング参加登録					(大重)
	⑧	職場の人間関係・二次マッチング調整					(大重)
	⑨	職場のマナー研修					(学内講師)
	⑩	企業のしくみとコンプライアンス					(大重)
	⑪	研修企業の業界研究					(大重)
	⑫	外部講師講演(2)					(外部講師)
	⑬	本学講師指導:お礼状の書き方					(学内講師)
	⑭	研修日誌・研修のレポート提出					(大重)
⑮	インターンシップ参加報告発表会					(大重)	
	※講義終了後 企業団体へのインターンシップ参加(実習)						
成績評価	・研修報告書、研修日誌、研修総括レポート、事前・事後研修(指導)等で総合的に評価する。 ・受講態度(20%) レポート等提出状況(30%) 参加報告プレゼンテーション内容(50%)						
参考文献等	○講義の都度紹介する						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	10-①	授業科目	キャリアガイダンス I (Career Guidance I)			担当者	児童教育学科 全教員
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・通年	児教	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本演習は、学生個々の自己実現、専門性の向上及び職業適応のために、次のような経験・学習が行われるよう計画されている。 (1) 学生個々が短大生活に十分適応し、自らの特性や目標に沿った学習を積み重ねること。 (2) 保育士・幼稚園教諭、小学校教諭など、各職種の仕事と社会的役割を理解すること。 (3) それぞれの職業に必要な技能、資質、人間性(倫理観)へ向けての道筋をつかむこと。 (4) 地域社会において自らの能力を十分に発揮できるよう自己理解を深め、人生設計を立てること。 授業形態は基本的に合同とするが、必要に応じてクラス単位またはホーム単位で行うこととする。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿っておこなう。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 短大生活の過ごし方と将来へのつながり						
	② 各専門職の職務内容						
	③ 2年生との交流 — 2年生から学ぶ①(短大生活において何を学ぶか) —						
	④ 現在における自己分析, 自己の将来像 — マッチングに向けて —						
	⑤ 夢を語り合ってみよう — 自己実現のために —						
	⑥ 社会人としてのマナー						
	⑦ 2年生との交流 — 2年生から学ぶ②(実習等に向けた準備と心構え) —						
	⑧ これまでの学習の語り合い						
	⑨ 本学科卒業生, 就職内定者・進学者による講話						
成 績 評 価	<p>なお, 本授業の実施時期および内容は, 2年間という限られた期間で効果的な学習をおこなうため, 本学科における他の学習機会(学内研修, 各実習および実習指導, 就職ガイダンス, 附属教育機関や卒業生との連携等)とうまく融和させながら進めていく。</p> <p>・レポート提出および受講態度による総合評価</p>						
参 考 文 献 等	(※ 授業中に適宜紹介する。)						
備 考	なし						
	オフィスアワー	各担当教員の研究室にて随時					

科目番号	10-②	授業科目	キャリアガイダンスⅡ (Career Guidance Ⅱ)			担当者	児童教育学科 全教員
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・通年	児教	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本演習は、学生個々の自己実現、専門性の向上及び職業適応のために、次のような経験・学習が行われるよう計画されている。 (1) 学生個々が短大生活に十分適応し、自らの特性や目標に沿った学習を積み重ねること。 (2) 保育士・幼稚園教諭、小学校教諭など、各職種の仕事と社会的役割を理解すること。 (3) それぞれの職業に必要な技能、資質、人間性(倫理観)へ向けての道筋をつかむこと。 (4) 地域社会において自らの能力を十分に発揮できるよう自己理解を深め、人生設計を立てること。 授業形態は基本的に合同とするが、必要に応じてクラス単位またはホーム単位で行うこととする。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿っておこなう。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 2年次における学習内容と具体的な就職活動						
	② 各領域の専門性について考える — 学習課題の明確化—						
	③ 1年生との交流 — ひとに伝える① (これまでの短大生活をまとめ、伝える) —						
	④ これまでの経験と自己の将来像 — 進路のマッチングに向けて—						
	⑤ 社会人としてのマナー						
	⑥ 自己アピールの方法、保育・教育観の見直し						
	⑦ 1年生との交流 — ひとに伝える② (実習等における自らの経験をまとめ、伝える) —						
	⑧ 卒業後の夢を語り合ってみよう — 将来の人生設計について考える— なお、本授業の実施時期および内容は、2年間という限られた期間で効果的な学習をおこなうため、本学科における他の学習機会(学内研修、各実習および実習指導、就職ガイダンス、附属教育機関や卒業生との連携等)とうまく融和させながら進めていく。						
成績評価	・レポート提出および受講態度による総合評価						
参考文献等	(※ 授業中に適宜紹介する。)						
備考	なし						
	オフィスアワー	各担当教員の研究室にて随時					

科目番号	11-①	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	高島 まり子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 基本的な英語表現を習得しながら、既習の英文法を復習する。基礎を固めることによって、高校までの多様な受講形態による能力差を調整し、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 授業の内容 各トピックについて、解説と練習問題によって着実に文法力を身につけていく。また、「話す・書く・読む・聴く」を総合的に訓練することで自信をつける。また適宜、歌や指遊び、ビデオ等を活用して楽しく学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	<1>文の要素					
	②	同					
	③	<2>基本5文型					
	④	同					
	⑤	<3>第1文型、be動詞、一般動詞					
	⑥	同					
	⑦	<4>動詞の種類					
	⑧	同					
	⑨	<5>第2文型、名詞(1)					
	⑩	同					
	⑪	<6>名詞(2)					
	⑫	同					
	⑬	<7>第3文型、代名詞(1)					
	⑭	同					
⑮	<8>代名詞(2)						
成績評価	受講態度(20%)、提出物(20%)、期末試験(60%)等の総合評価						
参考文献等	○ <i>Make It Clear</i> 「基本文型から学ぶ大学英語」 田中 保・日高 正司・三幣 友行・國府方麗夏 編著、朝日出版社、2012年。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)					

科目番号	11-②	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	吉村 圭
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児童教育 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。						
	2. 授業の内容 基礎的な文法事項を理解しつつ、リスニング、ライティングなどを総合的に学習することで、英語を実際に使用するための基礎を築く。この授業では、テキストで文法事項、リスニング、ライティングの基本を学習をするのに加え、英訳された日本のマンガをリーディングマテリアルとして用い、英語の総合的な理解を目指す。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション(授業説明、テキスト・マンガの紹介、文法導入)					
	②	Unit 1 be動詞(現在形)					
	③	Unit 2 一般動詞(現在形)					
	④	Unit 3 be動詞(過去形)					
	⑤	Unit 4 一般動詞(過去形、規則変化)					
	⑥	Unit 5 一般動詞(過去形、不規則変化)					
	⑦	Unit 6 命令文、There is[are]～、itの特別用法					
	⑧	Unit 7 注意すべき疑問文					
	⑨	Unit 8 進行形					
	⑩	Unit 9 未来形					
	⑪	Unit 10 助動詞(1)					
	⑫	Unit 11 助動詞(2)					
	⑬	Unit 12 名詞・冠詞 基本事項					
	⑭	Unit 12 名詞・冠詞 応用					
⑮	まとめ						
成績 評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考 文献 等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備 考							
	オフィスアワー	研究室(西309)在室時は随時。					

科目番号	11-③	授業科目	英語演習 I (Elementary English Conversation I)			担当者	霧島 S. 怜
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 The aim of the course is a good understanding of spoken sentences and a meaningful conversation. (簡単な英語の話しを正しく理解し、簡単に意味のある会話を試みる)						
	2. 授業の内容 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導によって突然、完璧なウクライナ語、英語やタイ語で喋り始めたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標(例えば、将来の仕事)や強い動機(例えば、素敵な彼氏や何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語やポーランド語も簡単さ)というものが極めて効果的である。...では、楽しく、短大生らしく、勉学に励もう!!						
授業計画	3. 授業計画 ★ 参加者の言語的力量と上達の速度に応じて内容の増減が有り得る。						
	① 演習の内容、方法と成績等について						
	② U1. A College Dean and A Coach (読解と朗読 ◇ 指導の下でミニ会話の練習 ◎)						
	③ U2. The Parents' Expectations (◇ ◎)						
	④ U3. The First Day of Business (◇ ◎)						
	⑤ U4. How Do Know About Me? (◇ ◎)						
	⑥ U5. Can You Identify Yourself? (◇ ◎)						
	⑦ U7. A New Car (◇ ◎)						
	⑧ U8. The Vacations at the Sea Resort (◇ ◎)						
	⑨ U9. A Businessman and A Secretary (◇ ◎)						
	⑩ U10. A Doctor and A Young Man (◇ ◎)						
	⑪ U12. An Impolite Manager (◇ ◎)						
	⑫ U14. A Chat About Kids (◇ ◎)						
	⑬ U15. The First and Perhaps the Last Date (◇ ◎)						
	⑭ Elem. A Young Couple (◇ ◎)						
成績評価	⑮ 受講生が選択したテーマの学習 前期学習のまとめ(Mini-test)等						
	予習 40% と 演習参加内容 60% の合計						
参考文献等	Textbook L.A. Hill, "Advanced Anecdotes in American English", Oxford Univ.Press (ISBN 0-19-502603-9)						
備考							
	オフィスアワー	授業後					

科目番号	12	授業科目	ドイツ語演習 I (Elementary German I)			担当者	武田 輝章
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ドイツ語を使って大きな声であいさつをしましょう。ドイツ語で自分のことを紹介してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざします。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界は同じでしょうか、違うのでしょうか。自分の眼で見てください。						
	2. 授業の内容 全員が同じスタートラインに並んで、ドイツ語の基礎をゆっくりと学んでいきます。英語の苦手な人でも大丈夫です。高校までの無理強いされた外国語とはひと味違う「楽しさ」をバネにして、新しいことばの世界を切り拓きましょう。また、新聞・雑誌・映画・ビデオ・テレビ・ラジオなどのメディアを駆使して、ドイツ語圏のさまざまな情報も提供します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業方針の説明+「みんなが知っているドイツ語」						
	② 勉強の方法(1)「自宅学習をしよう」						
	③ 勉強の方法(2)「考えて学ぼう」						
	④ 発音(1)「大きな声で発音しよう」						
	⑤ 挨拶(1)「大きな声であいさつしよう」						
	⑥ 発音(2)「もっと大きな声で発音」						
	⑦ 挨拶(2)「もっと大きな声であいさつ」						
	⑧ 発音(3)「日本語と比べてみよう」						
	⑨ 挨拶(3)「決まり文句はそのまま覚えよう」						
	⑩ 発音(4)「英語と比べてみよう」						
	⑪ 挨拶(4)「覚えたらすぐ使おう」						
	⑫ 発信(1)「ドイツ語で言ってみよう」						
	⑬ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑭ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑮ 総合「前期のまとめ」						
成績評価	筆記試験(60分で実施)						
	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参考文献等	1 テキストについては授業で指示						
	2 新アポロン独和辞典(同学社)						
	3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社)						
	4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(武田研究室)					

科目番号	13	授業科目	中国語演習 I (Chinese practice I)			担当者	谷口 明夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 初めて中国語を学ぶ人、または中国語を基礎から確実に学びたい人のための科目です。中国語の基礎的な発音と文法。日常の挨拶ことばを学び、簡単な日常会話の力、初歩的な作文力、短い文章を読解する力を養成することを目標とします。						
	2. 授業の内容 中国語は日本語と同じように漢字を使用していますから、日本人には容易に学び始めることのできる外国語です。しかし、発音では、「声調」という独特の調子や、息の出し方の強弱が意味の区別に関係していたり、漢字の意味そのものも日本語と異なっている場合がよくあります。授業では、正確な発音をマスターするために、反復して発音練習をします。そして、同時に、簡単な日常会話とごく初歩的な文法を学んでゆきます。基礎的な発音を学んだら、テキスト本文に入ります。テキストの最後の2課は、本文を読み、新しい単語と文法を学びます。その後は、現代中国の童話を読み、新しい単語や表現方法を学んでゆきます。正確で自然な発音を身につけるために、学習した部分の反復朗読を行います。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	発音 I :声調とは何か。四つの声調と軽声。単母音。挨拶のことばI。数字の1・2・5					
	②	" II :声調の反復練習。複母音。挨拶のことばII。数字の8と7					
	③	" III :声調の反復練習。複母音(続)。簡単な単語と単文。数字の6と9					
	④	" IV :声母とは何か。有気音と無気音の違いは?					
	⑤	" V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10					
	⑥	" VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3					
	⑦	" VII :3声か2声に変化すること。不(bu)と一(yi)が変化すること。声調パターンの練習。					
	⑧	第1課:人称代詞「あなた・わたし・かれ」の言い方。名前の言い方:自己紹介の仕方。					
	⑨	"					
	⑩	第2課:“是”「～である」の用法。“嗎”を使った疑問文。疑問詞疑問文。					
	⑪	"					
	⑫	第3課:動詞述語文:中国語の語順は日本語と違う。「こそあど」の言葉。「～の…」					
	⑬	"					
	⑭	第4課:「想」(～したい)と形容詞述語文。					
⑮	第5課:所有を表す”有”と”没有”。数詞と量詞。家族の呼称。						
成績評価	学期末試験の成績(80%)・受講態度(20%) 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節の声調が流暢に発音できるようになるまでが第一段階です。声に出して読み、紙に書き、CDを聞く努力が大切です。毎日10分以上勉強すれば、学習は格段に進みます。						
	オフィスアワー						

科目番号	14	授業科目	韓国語演習 I (Korean I)			担当者	入佐 信宏
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この授業の目標は、(1)韓国語の文字と発音を正確に習得し、(2)自己紹介ができる、(3)身の回りの物や人について表現できる、(4)予定や習慣について表現できるようになることです。韓国語は日本語と似ている部分が多く、日本人には非常に学びやすい外国語です。韓国語の面白さをぜひ味わってください。						
	2. 授業の内容 この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字(ハングル)と発音から学習します。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 韓国語の文字と発音(子音・母音)						
	② 韓国語の文字と発音(子音・パッチム)						
	③ 韓国語の文字と発音(単語)、韓国語の挨拶						
	④ 日本人の名前のハングル表記・自己紹介						
	⑤ 職業・国籍について話す						
	⑥ 身の回りの物の名称を韓国語で表現する						
	⑦ 身の回りの物の持ち主について表現する						
	⑧ 相手の名前を尋ねる						
	⑨ 自分の持ち物について話す						
	⑩ 家族について話す						
	⑪ 家や学校がどこにあるかについて話す						
	⑫ 物や人の位置関係を話す						
	⑬ 予定について話す						
	⑭ 習慣について話す						
⑮ 総まとめ							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒nirisa@shigakukan.ac.jpまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	15	授業科目	数学基礎 (Basic Mathematics)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 近年、「数学＝パターンの科学」という数学観が注目されており、具体的には、数のパターン、形のパターン、変化のパターン、運動のパターンといった、抽象的なパターンの科学として数学を捉える見方である。また、数学をできあがった知識体系としてよりも、数学を創造する人間の思考活動そのものとして捉える見解もある。この授業では、これまで学んできた数学をもう一度振り返り、その基礎的内容の意味理解を高めるために、数学に関するパターンを発見する様々な数学的活動に、受講生自身が取り組むことをねらいとする。						
	2. 授業の内容 (1) 中学や高校(数I、数A程度)で学んだ数学の内容を中心に取り組む(詳細は授業計画を参照)。 (2) 受講者による問題解決、発表、討論などの学習活動を重視する。 (3) 受講者が興味・関心を持つ、数学に関する内容を取り扱う。 (4) 計算や問題解決など、数学的技能の習熟にむけて、適宜、練習問題に取り組む。						
授業計画	3. 授業計画						
	① ガイダンス:本講義の概要や目標等について						
	② 数の誕生と発展						
	③ 数にまつわる不思議なパターン						
	④ グラフを読み解く:鹿児島の人人口変動とその背景						
	⑤ 数値を読み解く:オリンピック選手を選んでみよう						
	⑥ 順列・組合せ						
	⑦ 確率						
	⑧ 図形:タングラムで様々な形を作ろう						
	⑨ 図形:迷路の解き方・作り方						
	⑩ 図形:様々な図形の角度と面積						
	⑪ 関数:関数とは?						
	⑫ 関数:関数の表現一式、表、グラフ						
	⑬ 不思議な数:フィボナッチ数と黄金比						
	⑭ 微分と積分						
⑮ まとめ							
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)						
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	随時:西館412号室					

科目番号	16	授業科目	理科基礎 (Science)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1) 実験や観察を通し、理科の楽しさに触れ、日常にて科学的な気づきを発見できる能力を養う。 (2) 日常を飛び越えた、マクロな宇宙、ミクロな最先端の科学技術などに触れることで、科学的探究心を培う。						
	2. 授業の内容 (1) 中学や高校(数I、数A程度)で学んだ数学の内容を中心に取り組む(詳細は授業計画を参照)。 (2) 受講者による問題解決、発表、討論などの学習活動を重視する。 (3) 受講者が興味・関心を持つ、数学に関する内容を取り扱う。 (4) 計算や問題解決など、数学的技能の習熟にむけて、適宜、練習問題に取り組む。						
授業計画	3. 授業計画						
	① ガイダンス:科学的な考え方って何だろう						
	② 最先端の科学:科学でわかっていることとわかっていること						
	③ ものの見方:五感を使った観察1;触覚と視覚						
	④ ものの見方:五感を使った観察2;味覚、嗅覚と聴覚						
	⑤ 宇宙の誕生と進化						
	⑥ 地球:その多彩な環境						
	⑦ 生物の進化と多様性						
	⑧ 遺伝するもの、しないもの						
	⑨ 病気:病は気から?						
	⑩ エネルギーの作り方						
	⑪ 疑似科学:科学っぽいけど科学じゃないもの						
	⑫ 化学変化:身の回りの出来事を、化学式で表してみよう						
	⑬ 炎色反応:花火を作ってみよう						
	⑭ 社会と科学						
⑮ まとめ							
成績評価	学期末試験の成績 (50%) レポート等の提出状況 (30%) 受講態度 (20%)			※筆記試験は90分で実施			
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	随時:西館412号室					

科目番号	17	授業科目	分子からみた生物 (Molecular biology)			担当者	横峯 孝昭
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 見えないところでどのような生命現象が起こっているのか、遺伝学の観点から最近のトピックスを交えつついろいろな観点から物事をとらえられる教養を身につける。						
	2. 授業の内容 親と子は容姿・性格とよく似ている。なぜ容姿・性格が似ているのか、その答えは遺伝にある。ではその遺伝とはどのような現象なのかについて簡単に身近な現象をもとに考える。また、遺伝のみならず他の生命現象についても遺伝のトピックスを交えながら理解を深めていきたい。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 生物と細胞						
	② 生き物のからだをつくっているもの①						
	③ 生き物のからだをつくっているもの②						
	④ 細胞の増え方						
	⑤ 精子と卵のでき方						
	⑥ メンデルの遺伝						
	⑦ 血液型で遺伝を知ろう						
	⑧ 遺伝疾患の分類						
	⑨ 男の子、女の子の生まれる可能性						
	⑩ 羊のドリー クローン動物						
	⑪ 遺伝子改変植物の是非						
	⑫ 臓器移植と家畜						
	⑬ ご先祖様と人類(1)						
	⑭ ご先祖様と人類(2)						
⑮ 総括							
成績評価	受講態度(30%)および試験(70%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	18	授業科目	人間と環境 (Human beings and the Environment)			担当者	江崎 一郎
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞り、人間と環境とのあるべき関係を考えると同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察することを授業の目標とする。						
	2. 授業の内容 上記、授業の目標を達成するため、具体的な授業内容は以下の授業計画の通りとする。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション						
	② 環境問題とは						
	③ 地球温暖化						
	④ オゾン層の破壊						
	⑤ 熱帯林の伐採						
	⑥ 砂漠化						
	⑦ 酸性雨						
	⑧ 公害問題						
	⑨ 京都議定書						
	⑩ 気候変動に関する国際連合枠組み条約						
	⑪ 化学物質過敏症						
	⑫ 環境ホルモン						
	⑬ 環境基本法						
	⑭ 新しい人権としての環境権						
⑮ 人間と自然環境との関係							
成績評価	平常点30%、レポート70%。 教科書・ノート忘れ・無断欠席などは、減点。						
参考文献等	教科書:竹下 賢編 『第3版・入門法学』晃洋書房						
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方など)を行うので必ず出席すること。受講生は、事前に教科書を購入し、ルーズリーフを準備しておくこと。						
	オフィスアワー						

科目番号	19	授業科目	海外事情 (Foreign Culture Experience)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ①異文化に接し、異文化への理解を深める。 ②体験的に国際感覚を養う。 ③自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める。						
	2. 授業の内容 外国との文化的及び経済的な交流が進む時代に生きる私たちは異なる価値観を有する人々に接する機会が増えている。日本以外の人々と誠実でお互いに有益な関係と友好は、相手の精神文化、特に「心」の正しい理解なしに有り得ないものである。 この科目の具体化である「国外研修旅行」は外国文化を自分の身で体験する機会を提供し、外国の文化的な遺産の一部を自分の目で見、その社会の雰囲気を楽しむことによって外国の理解を深め、心に視野を広げ、自国文化の長短に気付かせる非常に良い機会である。 この国外研修旅行は本学の教務委員会(海外事情小委員会)によって企画され、その主催が選定した旅行会社に委託され、毎年の早春に実施される予定である。						
授業計画	3. 授業計画						
	①「国外研修旅行」参加者の募集とその届出の提出。						
	②「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導。						
	③「国外研修旅行」の実施。						
	④「国外研修旅行」に関する体験発表とレポート提出。						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	(1)1年生のみ2単位と成績が授与される。 (2)成績と単位は、事前・事後指導の参加(20%)、研修旅行の参加とレポート提出(80%)によって与えられる。						
参考文献等							
備考	要注意： ① 参加希望者数、国内外の治安等の事由で国外研修旅行が行われず、よって「海外事情」を開講しないこともある。 ② 履修届けをする際、この科目の単位(2)を卒業の取得必修単位の内に加算しないこと。						
	オフィスアワー						

科目番号	20-①	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)			担当者	高島 まり子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 基本的な英語表現を習得しながら、既習の英文法を復習する。基礎を固めることによって、高校までの多様な受講形態による能力差を調整し、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 授業の内容 各トピックについて、解説と練習問題によって着実に文法力を身につけていく。また、「話す・書く・読む・聴く」を総合的に訓練することで自信をつける。また適宜、歌や指遊び、ビデオ等を活用して楽しく学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	<8>代名詞(2)					
	②	<9>第4文型、形容詞					
	③	同					
	④	<10>第5文型、副詞					
	⑤	同					
	⑥	<11>冠詞					
	⑦	同					
	⑧	<12>前置詞					
	⑨	同					
	⑩	<13>接続詞					
	⑪	同					
	⑫	<14>関係詞					
	⑬	同					
	⑭	<15>助動詞					
⑮	同						
成績評価	受講態度(20%)、提出物(20%)、期末試験(60%)等の総合評価						
参考文献等	○ <i>Make It Clear</i> 「基本文型から学ぶ大学英語」 田中 保・日高 正司・三幣 友行・國府方麗夏 編著、朝日出版社、2012年。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)					

科目番号	20—②	授業科目	英語演習Ⅱ (English II)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	児童教育 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標及び 内容	1. 授業の目標 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。						
	2. 授業の内容 基礎的な文法事項を理解しつつ、リスニング、ライティングなどを総合的に学習することで、英語を実際に使用するための基礎を築く。テキストは前期と同様Everyday English Grammarを用い文法事項、リスニング、ライティングの基本を学習をするのに加え、英訳版の日本のマンガを応用編として用い、英語理解をさらに深める。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション(前期の復習)						
	② Unit 13 代名詞						
	③ Unit 14 前置詞						
	④ Unit 15 形容詞						
	⑤ Unit 16 副詞						
	⑥ Unit 17 比較(1)						
	⑦ Unit 18 比較(2)						
	⑧ Unit 19 接続詞 基本事項						
	⑨ Unit 19 接続詞 応用						
	⑩ Unit 20 受け身(受動態)						
	⑪ Unit 21 不定詞						
	⑫ Unit 22 動名詞						
	⑬ Unit 23 分詞						
	⑭ Unit 24 現在完了						
⑮ まとめ							
成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考文献等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備 考							
	オフィスアワー	研究室(西309)在室時は随時。					

科目番号	20—③	授業科目	英語演習Ⅱ (Elementary English Conversation II)			担当者	霧島 S. 怜
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 The aim of the course is a good understanding of spoken sentences and a meaningful conversation. (簡単な英語の話しを正しく理解し、簡単で意味のある会話を試みる)						
	2. 授業の内容 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晚や「有名な先生」の指導によって突然、完璧なウクライナ語、英語やタイ語で喋り始めたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標(例えば、将来の仕事)や強い動機(例えば、素敵な彼氏や何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語やポーランド語も簡単さ)というものが極めて効果的である。...では、楽しく、短大生らしく、勉学に励もう!!						
授業計画	3. 授業計画 ★ 参加者の言語的力量と上達の速度に応じて内容の増減が有り得る。						
	① 後期の内容等について。ミニ演習。						
	② U16. The Professor's Bones (読解と朗読 ◇ 指導の下でミニ会話の練習 ◎)						
	③ U17. A Diving Lesson (◇ ◎)						
	④ U19. A Client and A Cashier (◇ ◎)						
	⑤ U20. The First Baby (◇ ◎)						
	⑥ U22. A Lesson of Morals (◇ ◎)						
	⑦ U23. Don't get Excited About Small Things (◇ ◎)						
	⑧ U24. Two Businessmen at A Party (◇ ◎)						
	⑨ U27. A Very Special Restaurant (◇ ◎)						
	⑩ U28. An Artist and A Beggar (◇ ◎)						
	⑪ U29. A Very Special Visit (◇ ◎)						
	⑫ Elem. An Unusual Chat (◇ ◎)						
	⑬ St. Valentine Day (◇ ◎)						
	⑭ 受講生が選択したテーマの学習						
成績評価	⑮ A Group Study						
	後期学習のまとめ(Mini-test)等 予習 40%と 演習参加内容 60%の合計						
参考文献等	Textbook L.A. Hill, "Advanced Anecdotes in American English", Oxford Univ.Press (ISBN 0-19-502603-9)						
備考							
	オフィスアワー	授業後					

科目番号	21	授業科目	ドイツ語演習Ⅱ (Elementary German II)			担当者	武田 輝章
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ドイツ語を使って自分のことを紹介してみましょう。さらに、身のまわりのことや日本のことを簡単に説明してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることが目標です。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界の違いを自分の眼で確かめてみましょう。						
	2. 授業の内容 全員が同じスタートラインに並んで、ドイツ語の基礎をゆっくりと学んでいきます。英語の苦手な人でも大丈夫です。高校までの無理強いされた外国語とはひと味違う「楽しさ」をバネにして、新しいことばの世界を切り拓きましょう。また、新聞・雑誌・映画・ビデオ・テレビ・ラジオなどのメディアを駆使して、ドイツ語圏のさまざまな情報も提供します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 授業方針・授業改善の説明						
	② 前期の復習「忘れたら思い出そう」						
	③ 発信(1)「ドイツ語で自己紹介」						
	④ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑤ 情報収集(1)「分からないことは聞いてみよう」						
	⑥ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑦ 発信(4)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑧ 情報収集(2)「未知の世界を覗いてみよう」						
	⑨ 読む(1)「辞書を引くのは楽じゃない」						
	⑩ 書く(1)「辞書を使うのも楽じゃない」						
	⑪ 読む(2)「辞書が引ければ一人前」						
	⑫ 書く(2)「辞書が使えれば二人前」						
	⑬ 文化(1)「ヨーロッパの歴史と風土」						
	⑭ 文化(2)「ヨーロッパの視点で見る」						
⑮ 総合「後期のまとめ」							
筆記試験(60分で実施)							
成績評価	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参考文献等	1 テキストについては授業で指示 2 新アポロン独和辞典(同学社) 3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社) 4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(武田研究室)					

科目番号	22	授業科目	中国語演習Ⅱ (Chinese practice Ⅱ)			担当者	谷口 明夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 中国語の基礎的な発音、特に声調と母音・子音及び簡単な単語、挨拶ことば、初歩的な文法を学んだことのある人のための科目です。中国語演習Ⅰで学んだ発音と文法の知識を基礎として学習を進め、基本的な読み、書き、話し、聞く力を伸ばすことを目標とします。						
	2. 授業の内容 テキストに沿って、新しい単語と文法、表現方法を学んでゆきます。数字を使った表現、例えば人数、金額、年月日、曜日、時間(～時～分)の表現、「～は～より～だ」等の比較の表現、「いつ～する」、「どこにいる」、「～した」(完了)、「～するのが好きだ」、「～したことがある」(経験)の表現を学びます。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 第6課:「～するのが好き」助動詞「要」						
	② //						
	③ //						
	④ 第7課:曜日の言い方。「あさ・ひる・ばん」などの時間詞。数量を表わす方法。						
	⑤ // V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10						
	⑥ // VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3						
	⑦ 第8課:時刻の言い方。ここ・そこ・あそこ。所在を表す文。「～から～まで」の表現。						
	⑧ //						
	⑨ //						
	⑩ 第9課:完了の表現。「とても・非常に～」の表現。「～しているところだ」						
	⑪ //						
	⑫ //						
	⑬ 第10課:助動詞”会”と”能””できる」の表現。様態補語「～得～」						
	⑭ //						
⑮ //							
成績評価	学期末試験の成績(85%)・受講態度(15%) 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	23	授業科目	韓国語演習Ⅱ (KoreanⅡ)			担当者	入佐 信宏
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 この授業の目標は、(1)趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる、(2)予定や習慣について表現できる、(3)人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる、(4)店や食堂で買い物をしたり、注文したりできるようになることです。						
	2. 授業の内容 この授業は「韓国語演習Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 趣味や職業について話す						
	② 月日を表現する						
	③ 自分の持ち物や家族について話す						
	④ 電話番号を表現する						
	⑤ 数を数える、時間を表現する						
	⑥ 予定や習慣について話す						
	⑦ 〃						
	⑧ 授業時間・営業時間等を表現する						
	⑨ 人や物の姿や性質を表現する						
	⑩ 自分の感じていることを表現する						
	⑪ 移動の手段・所要時間を表現する						
	⑫ 値段を尋ねる・値段を言う						
	⑬ 個数を言って注文する						
	⑭ 食堂での会話						
⑮ 総まとめ							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒nirisa@shigakukan.ac.jpまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	24	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise)			担当者	黒原 貴仁
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	1	選択	小教免・幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 近年、生活習慣病の増加や個人の価値観を尊重する傾向が強くなっていることにともない、健康にかんする関心や行動が重視されるようになってきた。現在注目を集めるQOL(生活の質)の向上は多くの人々に関心がある。本講義では、現代社会において、健康とは何か、また、ストレスによる疾病(心身症)についての知識、さらには、スポーツの意味や価値、健康づくりと運動・生活習慣、ダイエットと運動効果について基礎的理解を図る。						
	2. 授業の内容 前半はパワーポイント等を用い、「健康」、「スポーツ」についての理解を深める。後半はグループ学習等により、対象者の興味・関心に沿って調査を行い、スポーツの意味や価値、健康づくりと運動・生活習慣、ダイエットと運動効果について解説をする。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション(人間にとっての健康と運動)						
	② ダイエットと運動効果						
	③ 現代社会におけるスポーツの社会的意義						
	④ 生涯スポーツとは？						
	⑤ 健康のとらえ方						
	⑥ 生活習慣病とその予防						
	⑦ ヘルスプロモーションの意義						
	⑧ まとめ(45分) 筆記試験(45分)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(70%)及びレポート課題(30%)による						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	25	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)			担当者	黒原 貴仁
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教 (小幼/小保)	実技	1	選択	小教免・幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会において、スポーツは豊かなQOL(生活の質)の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本講義はスポーツをとおして体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとおして積極的にスポーツに参加できるような基礎的な知識、技術、態度を習得し、健康・安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。						
	2. 授業の内容 実技種目として、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球の中から原則として前半、後半各自2種目を選択する。ゲームを中心に展開し、必要に応じてルールを解説し、基本練習(ドリルゲーム・タスクゲーム)を実施する。出席して活動することを重視する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション、前半の種目選択と実践					
	②	ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	③	前半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する] 各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨	後半の種目選択、ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	⑩	後半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する] 各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	参加態度(70%)、ゲーム結果(30%)等を総合して評価する。						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	26	授業科目	「I WE LOVE 鹿児島！」 (Seminar for Local Identity Education)			担当者	高島 まり子他	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	児教	演習	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 受講者の皆さんを鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」を「生きる力」とする「地域活性化の担い手」に育てる取組です。地域に逞しく根を張り、卒業後は職場で鹿児島の過去と現在ばかりでなく未来をも語り、活性化に寄与することのできる人材となるよう支援します。							
	2. 授業の内容 講義と体験型授業を組み合わせ、食文化、文学、自然と環境、歴史、方言、暮らし、防災などのさまざまな分野の専門家から鹿児島について学ぶオムニバス型授業です。これらの学習を通じて自分が関心を持ったことを自主的に調べてプレゼンテーションを行い、地域を活性化するための基盤とします。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	オリエンテーション					(瀬戸・新村・高島)	
	②	講義1					(古川・竹中)	
	③	講義2					(井上・倉重)	
	④	講義3					(池田・宇都)	
	⑤	プレゼンテーション指導					(瀬戸・新村・高島)	
	⑥	講義4					(横峯・瀬戸口)	
	⑦	講義5					(原口・大木)	
	⑧	体験型授業					(坪井・松下・大重)	
	⑨	体験型授業					(原口・高島・瀬戸)	
	⑩	講義6					(久永・児玉)	
	⑪	講義7					(千葉・田村)	
	⑫	講義8					(大重・村若)	
	⑬	体験型授業					(小松・福司山・池田)	
	⑭	体験型授業					(日本赤十字鹿児島支社職員・ボランティア)	
⑮	プレゼンテーション指導					(瀬戸・新村・高島)		
成績評価	学期末のプレゼンテーション試験(75%), 受講態度と提出物(25%)							
参考文献等	*教材:プリント配布、視聴覚教材 *視聴覚機器(PC・プロジェクター・スクリーン)使用							
備考	*諸般の事情により、講義と体験型授業の日程が変更になる可能性がある。							
	オフィスアワー	随時(高島まり子研究室)						

專 門 科 目

科目番号	101	授業科目	音楽 I (Music I)			担当者	新村 元植
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 音楽の基礎的理論と幼児教育、初等教育に必要な音楽教育理論について演習すると共に、幼児曲の歌唱演習を通して音楽の基礎的能力を高める。						
	2. 授業の内容 授業の前半;(45分) 2名の各グループが歌唱援助者と伴奏者を担当し、模擬幼児を対象に器楽 I で使用する幼児曲を歌唱、援助する演習を実施する。1時限あたり5～7グループ程度実施する。 授業の後半;(45分) 音楽の基礎的知識(楽典等) や幼児に対する音楽的援助についての演習する。						
授 業 計 画	3. 授業計画(授業の後半)						
	① 音楽理論1(五線、下線、音部記号、譜表、幹音名)						
	② 音楽理論2(派生音名、変化記号、楽譜の記譜法)						
	③ 音楽理論3(音符、休符、付点、タイ等の音楽に関する記号)						
	④ 音楽理論4(拍子、小節、拍子記号等の音楽に関する記号)						
	⑤ 幼児に対する音楽的援助1(幼稚園教育要領を基にした音楽的援助の考え方)						
	⑥ 音楽理論5(幹音の音程)						
	⑦ 音楽理論6(派生音の音程)						
	⑧ 幼児に対する音楽的援助2((幼児の音楽的な表現のねらいと活動内容)						
	⑨ 音楽理論7(長音階の構造と作成演習)						
	⑩ 音楽理論8(長音階及び短音階の構造と作成演習)						
	⑪ 幼児に対する音楽的援助3(幼児の音楽的能力の発達について)						
	⑫ 音楽理論9(同主調・平行調・属調・下屬調)						
	⑬ 音楽理論10(同主調・平行調・属調・下屬調) の問題演習						
	⑭ 幼児に対する音楽的援助4(保育における指導計画の立案とその考え方)						
⑮ 総合的演習(保育に必要な基礎的音楽知識のまとめ)							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編) 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(新村研究室);要事前連絡					

科目番号	102	授業科目	器楽 I (Piano I)			担当者	中村 礼香 大迫 貴
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	児教 (小・幼/小・保/幼・保)	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 子どもの音楽教材の伴奏ができるように、ピアノ奏法の基本と応用力を修得させる。						
	2. 授業の内容 ピアノ奏法の基本と応用について、個人指導およびMLシステムを用いた集団指導を行う。 基本 バイエル教則本より基礎的な練習曲と音階について学ぶ バイエル修了者はソナチネやソナタなどの個人指導 応用 子どもの音楽教材より歌唱と伴奏を学ぶ 下記に記載した幼児曲はピアノのレベルに関わらず全員必修で履修する。 簡易伴奏版でも「うたとあそび」そのままでもどちらでも良い (「思い出のアルバム」だけは余裕があればで良い)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① グループ分け後、バイエル教則本 3・4・6を中心に個人指導及び集団指導						
	② バイエル教則本 8 / 「みつばちマーチ」を中心に個人指導及び集団指導						
	③ バイエル教則本 14 / 「ちょうちょ」を中心に個人指導及び集団指導						
	④ バイエル教則本 44 (8分音符の練習)・45 / 「手をたたきましよう(簡易伴奏版)」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑤ これまでに履修した曲の総合指導①						
	⑥ バイエル教則本 48 / 「ぞうさん(ハ長調)」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑦ バイエル教則本 58・60 / 「きらきら星」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑧ バイエル教則本 ハ長調音階・66 / (「思い出のアルバム」)を中心に個人指導及び集団指導						
	⑨ バイエル教則本 ト長調音階・74を中心に個人指導及び集団指導						
	⑩ これまでに履修した曲の総合指導②						
	⑪ バイエル教則本 ニ長調音階 / 「あくしゅでこんにちは」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑫ バイエル教則本 78を中心に個人指導及び集団指導						
	⑬ バイエル教則本 ヘ長調の音階・85 / 「七夕さま(簡易伴奏版)」中心に個人指導及び集団指導						
	⑭ 「さんぽ(となりのトロより)」を中心に個人指導及び集団指導						
⑮ 試験曲の為の個人指導及び集団指導							
成績評価	①ピアノの実技試験を行う。 ②バイエル教則本85番以降の任意の1曲または履修した幼児曲1曲から弾き歌いのいずれかを暗譜で演奏する。 ③成績は実技試験(50%)と平常点及び受講態度(50%)の平均とする。						
参考文献等	テキスト : 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノ教則本(バイエル教則本、ソナチネアルバムほか)						
備考	オフィスアワー	随時(中村研究室)					

科目番号	103-①	授業科目	体育 I (Physical Education I)			担当者	小松 恵理子 黒原 貴仁
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ○小学校体育で取り扱う運動について演習を行い、各運動の内容について知識・理解を深める。 ○小学校体育で取り扱う運動の演習を行う。適切な運動実践や安全についての理解を深めつつ、運動に親しみ小学校教員として必要な基礎的技能を養う。						
	2. 授業の内容 陸上運動・ボール運動・器械運動・体づくり運動・表現運動						
授業計画	3. 授業計画						
	①	オリエンテーション・ストレッチ指導法					(黒原)
	②	基本の運動	走・跳の運動遊び、力試しの運動遊び				(黒原)
	③	ゲーム	ゴール型				(黒原)
	④		ネット型				(黒原)
	⑤		ベースボール型				(黒原)
	⑥	器械運動	マット運動				(黒原)
	⑦		跳び箱運動				(黒原)
	⑧	陸上運動	短距離走・リレー及びハードル走、走り幅跳び				(黒原)
	⑨	表現運動	①オリエンテーション 動く楽しさから表現へ				(小松)
	⑩		②即興教育				(小松)
	⑪		③リズム作り				(小松)
	⑫		④リズムとイメージ				(小松)
	⑬		⑤動きの発展—運動の5要素を利用して—				(小松)
	⑭		⑥作品形式・伴奏音編集法				(小松)
⑮		⑦発表・評価				(小松)	
		⑧実技試験					
成績評価	参加態度(70%)及び課題達成(30%)を総合して評価する。(黒原) 授業中の課題(90%)/受講態度(10%)(小松)						
参考文献等	三浦弓杖編著：「ダンス学習指導」光文書院 マリオン・ゴフ著：「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部						
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー	黒原：随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	103-②	授業科目	体育 I (Physical Education I)			担当者	小松 恵理子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児教育における「領域 健康」や「領域 表現(身体表現)」を中心に、多くの場面で必要とされる美しく機能的に動ける身体を育成するとともに、それらの活動において必要とされる創作舞踊の基礎的理論と技術を習得し、指導者としての資質の向上を目指す。						
	2. 授業の内容 基礎的舞踊技術を習得し、創作舞踊理論概論(舞踊の定義・教育的価値・創作理論)を学ぶ。最後に学んだ内容を駆使し、作品創作・発表を行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 基礎的舞踊技術1: 身体感覚を鋭敏にするとともに、動く身体を実感し、動く楽しさを体験する。						
	② 基礎的舞踊技術2: 身体感覚を鋭敏にするとともに、動く身体を実感し、動く楽しさを体験する。						
	③ 即興教育法1 : 楽しく運動を創り出す方法を学ぶ。						
	④ 即興教育法2 : 楽しく運動を創り出す方法を実習する。						
	⑤ リズム原論1: 基礎的専門技術となる『運動を舞踊運動(表現運動)にする方法(動きのリズム)』について学ぶ。						
	⑥ リズム原論2: 基礎的専門技術となる『運動を舞踊運動(表現運動)にする方法(動きのリズム)』について学ぶ。						
	⑦ 空間論1: 表現と空間の意義について学ぶと共に、舞踊運動に活かす効果的な空間の使い方について学ぶ。						
	⑧ 空間論2: 表現と空間の意義について学ぶと共に、舞踊運動に活かす効果的な空間の使い方について学ぶ。						
	⑨ 運動分析論1: ルドルフ・ラバンの研究による運動分析論を学び、舞踊運動(表現運動)の分析や動きの変化・発展を学ぶ。						
	⑩ 運動分析論2: ルドルフ・ラバンの研究による運動分析論を学び、舞踊運動(表現運動)の分析や動きの変化・発展を学ぶ。						
	⑪ 形式論: 作品のまとめ方・伴奏音編集方法について学ぶ。						
	⑫ 作品創作1: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑬ 作品創作2: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑭ 作品創作3: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑮ 作品発表 : グループ毎に創作作品の発表を行う。						
⑯ 実技試験							
成績評価							
参考文献等	三浦弓杖編著:「ダンス学習指導」光文書院 マリオン・ゴフ著:「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部						
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー						

科目番号	104-①	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	必修	小教免・幼教免必修 保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は幼稚園及び小学校の教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲を高まることを期待する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 自らを知ることーオリエンテーション						
	② 教員とは誰かⅠー幼稚園教諭の役割ー						
	③ 教員とは誰かⅡー幼稚園教諭の資質ー						
	④ 教員とは誰かⅢー小学校教諭の役割ー						
	⑤ 教員とは誰かⅣー小学校教諭の資質ー						
	⑥ 法的にみた教員の職務内容等						
	⑦ 子どもを知ることー心理学から見てー						
	⑧ 子どもを知ることー社会学から見てー						
	⑨ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						
	⑩ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						
	⑪ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						
	⑫ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						
	⑬ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅲ)						
	⑭ 幼稚園と小学校の連携を見据えて						
⑮ まとめ							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	使用せず						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	104-②	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	池田 哲之 山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	講義	2	必修	幼教免必修 保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、幼稚園教諭等を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。なお、本講義は前半を山元が、後半を池田がそれぞれ担当する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 教員とは誰かⅠ－教員の役割－						
	② 教員とは誰かⅡ－教員の資質－						(山元)
	③ 自らを知ること						(山元)
	④ 子どもを知ること						(山元)
	⑤ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						(山元)
	⑥ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						(山元)
	⑦ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅲ)						(山元)
	⑧ 乳幼児たちの現在－養育環境の変容－						(池田)
	⑨ 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅰ－その動向－						(池田)
	⑩ 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅱ－具体的ケースから－						(池田)
	⑪ 保育者等の安全配慮義務Ⅰ－債務不履行法理－						(池田)
	⑫ 保育者等の安全配慮義務Ⅱ－不法行為法理－						(池田)
	⑬ 現行幼稚園教育法制－その可否の検証－						(池田)
	⑭ これからの幼児教育と幼稚園教育法制度						(池田)
⑮ まとめ						(山元・池田)	
成績評価	学期末試験に代え、教員各々にレポート(100%)を提出し、それぞれのレポートの評点を合算して評価する。						
参考文献等	池田担当講義では、池田哲之ほか著『人間関係能力育成の研究』(くらすなや書房)を使用。山元は使用せず。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	105	授業科目	保育原理 (Principle of Childcare)			担当者	小津 草太郎
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小・幼/小・保/幼・保)	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育の意味や役割を理解した上で、施設保育(主として保育所と幼稚園における保育)における目的、思想や歴史、内容、方法など基礎的事項を広く学習する。また、保育所保育指針におけるポイントを読み解きながら、現代の保育に求められていることを理解する。また、これらの学習を通して、保育所・幼稚園という職場や保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解することで、保育実習や教育実習などその後の実践的な学習の準備をおこなう。						
	2. 授業の内容 授業は以下の計画に沿っておこなう。 最初に、自分の子ども観を振り返りながら保育の意味について考え、保育所や幼稚園について基礎的な学習をおこなう。そして、保育の様々な思想を歴史とともに学習した後に、保育所保育指針のポイントから現代の保育が目指していることを理解する。最後にあらためて、保育の内容や方法を整理し、保育実践に必要な基礎的な知識を身につけていく。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション (私たちの子ども観と保育について)						
	② 保育の意義 (養護と保育, 子どもの最善の利益)						
	③ 保育の目的 (保育所と幼稚園, 認定こども園, 関連法令)						
	④ 保育の歴史と思想 (1) : 世界の保育史(最初期の保育思想)						
	⑤ 保育の歴史と思想 (2) : 世界の保育史(近代の保育思想)						
	⑥ 保育の歴史と思想 (3) : 日本の保育史, 諸外国における現代の保育						
	⑦ 保育の原理 (1) : 養護と保育の一体性						
	⑧ 保育の原理 (2) : 子どもの遊びと活動, 子どもの主体性, 環境を通じた保育						
	⑨ 保育の原理 (3) : 子育て支援, 保護者に対する援助						
	⑩ 保育の内容 (1) : 保育内容, 内容とねらい						
	⑪ 保育の内容 (2) : 5領域, 総合的な保育						
	⑫ 保育の内容 (3) : 発達過程, 子ども個々に応じた援助						
	⑬ 保育の方法 (1) : 保育のさまざまな形態						
	⑭ 保育の方法 (2) : 保育の計画, 評価						
⑮ 現代における保育の課題 (子どもの生活環境, 現代の子育て, 保育制度の将来, 他)							
成績評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況(20%程度) 2. 学期末筆記試験(80%程度) ※筆記試験は90分で実施 以上による総合評価とする。						
参考文献等	[テキスト] ※配布プリントを中心とする。 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター						
備考	オフィスアワー 授業時間の前後, あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	106	授業科目	教育心理学 (Educational psychology)			担当者	坪井 敏純
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現場での学びに対する動機づけや学習理論を中心に、広く教育・保育に関わるテーマを概説する。理論の裏づけによる実践的な関わりを学ぶことを目標とし、学級運営、教育相談といった子どもや保護者との関わりのあるあり方を学ぶ。						
	2. 授業の内容 教育における学びの動機づけと学習理論を理解し、保育・教育の指導法を学ぶ。また幼児期は遊びによる指導が基本であることから、遊びについて学び、保育のあり方について学ぶ。さらに発達を理解し、学習指導以外の生徒指導や教育相談などの問題も取り上げる。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	動機づけ理論1：動機付け過程とその原理					
	②	動機づけ理論2：内発的動機づけ					
	③	動機づけ理論3(外発的動機づけ)					
	④	学習の理論1(代表的理論の概説)					
	⑤	学習の理論2: 連合理論					
	⑥	学習の理論3：観察学習・認知理論					
	⑦	幼児期の遊びの特徴と意義					
	⑧	学習指導法(発見学習、有意味重要学習、プログラム学習)					
	⑨	記憶のプロセスと「理解」の理論					
	⑩	人格・知能の発達と理論					
	⑪	教育評価の目的とその種類					
	⑫	学級経営における教師の役割と子どもの人間関係					
	⑬	教育相談に関する考え方と指導・援助					
	⑭	子どもの発達的特徴					
⑮	障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程と特別支援教育						
成績評価	1. 授業で出される課題の達成(10%) 2. 筆記試験(75%) 3. 受講態度(15%)						
参考文献等	テキスト;未定 参考資料を適宜、配布するので、ファイリングすること 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30～17:30					

科目番号	107	授業科目	教育制度論 (Educational Law System)			担当者	池田 哲之
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期 2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 わたし達の日々のくらしは、意識するとしないにかかわらず、無数の法的枠組みの中で営まれている。たとえば、食料品をはじめとする日用品の購入は「売買契約」のルールに則り行われ、アパート・下宿を借りて生活することは「賃貸借契約」に基く。また結婚や財産の相続さえも、ある一定の法的手続きにしたがってはじめて有効なものとなる。当講義では、わたし達の生活にとりわけ関わりの深い「民法」という法典の概説をとおり、諸君達に、同法の重要事項を生きた知識として活用できる能力を育みたい。						
	2. 授業の内容 民法典は5編、全1044条からなる大法典であり、かぎられた講義回数の中でそれらをすべて網羅的に取り上げることができないし、またその必要性も薄い。当講義では、実社会を生きてゆくうえで最低限理解していただくことが求められる民法上の諸事項、すなわち権利・義務、意思、契約、損害賠償、婚姻・離婚、財産の相続、といった分野に的を絞って、各々の基本事項の解説を行う。そのなかでも婚姻、離婚、財産の相続といった事柄については、具体事例を紹介しながら、実生活における困難に直面した際に役立つ知識の習得を図ってゆく。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 権利の享有主体						
	② 民法における「意思」の意味						
	③ 制限行為能力者制度						
	④ 代理制度						
	⑤ 所有権と占有権						
	⑥ 契約－契約の成立と契約の種類(Ⅰ)－						
	⑦ 契約－契約の成立と契約の種類(Ⅱ)－						
	⑧ 契約の違反－債務不履行－						
	⑨ 親族制度－親子と親類－						
	⑩ 婚姻						
	⑪ 離婚の3類型						
	⑫ 相続(Ⅰ)－法定相続人－						
	⑬ 相続(Ⅱ)－法定相続分－						
	⑭ 相続(Ⅲ)－遺言－						
⑮ まとめ							
成績評価	レポートの提出をもって定期試験に替える(配点は60点)。平常点(受講態度・意欲)に40点を配す。受講態度のかんばしくない者は、注意の程度・回数に応じ減点する。						
参考文献等	教員作成のレジュメを、ほぼ毎時配布する。 テキストについては、講義時に指示する。						
備考	講義担当者の行政書士、宅地建物取引主任者資格取得の経験を踏まえ、各種国家試験に関する指導も行いたい。シラバスの内容は、受講者数・理解度により変更となる場合があります。						
	オフィスアワー						

科目番号	108-①	授業科目	発達心理学 I (Developmental psychology I)			担当者	小津 草太郎
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	必修	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人は一生涯をかけて成長し、変化し、発達していく存在である。本講義では、人間観と発達観に関する知識を増やし、人間への理解を深めるとともに、対人援助技術への認識も深めていけるよう学習を進めていく。 また、発達の様相を概観するにあたっては、こころの発達に重要なテーマに沿って乳幼児期の発達を解説した後、親や保育者の心の発達についても考え、こころの生涯発達の理解を目指す。						
	2. 授業の内容 授業は以下の計画に沿っておこなう。 最初に発達の考え方を理解し、その後、乳幼児期のさまざまな側面の発達について学ぶ。後半、生涯発達における児童期以降の発達について学び、最後に保育者自身の発達および保育現場における発達援助のあり方について理解を深める。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション (心理学とこころと発達)						
	② 発達の基本的特徴 (発達の特徴, 生涯発達の概念, 保育者のメンタルヘルス)						
	③ 赤ちゃんの能力 (原始反射, 身体/運動の発達, 気質, コミュニケーション能力)						
	④ 愛着関係の発達 (1) : 母子関係, 愛着, 基本信頼感						
	⑤ 愛着関係の発達 (2) : 愛着の感受性, 愛着と対人関係, 保育者の愛着						
	⑥ 知的な発達 (1) : ピアジェの理論, 子どもの思考の発達						
	⑦ 知的な発達 (2) : 子どもの能力と特有の世界観						
	⑧ 自己と情動の発達 (自己意識, 第一次反抗期, 情動調整)						
	⑨ 仲間関係と社会性の発達 (1) : 乳幼児期の対人関係, 遊びの発達, ことばの発達						
	⑩ 仲間関係と社会性の発達 (2) : 他者理解, 思いやり, 自己コントロール, 道徳性の発達						
	⑪ 大人になること (児童期, 思春期から成人期の発達)						
	⑫ 親になること (成人期から中年期の発達)						
	⑬ 老いを迎えること (老年期の発達)						
	⑭ 保育者として生きること						
⑮ 現代の子どもの育ちとこころの援助							
成績評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況 (20%程度) 2. 学期末筆記試験 (80%程度) ※筆記試験は90分で実施 以上による総合評価とする。						
参考文献等	[テキスト] 青木紀久代(編)「発達心理学 子どもの発達と子育て支援」 みらい [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター						
備考	オフィスアワー 授業時間の前後, あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	108-②	授業科目	発達心理学 I (Developmental psychology I)			担当者	平嶋 慶子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	講義	2	必修	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 人の生涯にわたる発達変化を概観し、発達についての基礎理解と、保育における発達援助について学ぶ。 主な内容は ①発達の定義・発達の原則と規定因②各発達段階の特徴 ③子どもの発達と集団保育の重要性 ④発達の遅れと子どもや保護者への支援 ⑤保育者としての生涯発達						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 発達とは①発達の定義と発達の原則						
	② 発達とは②発達の規定因と発達段階						
	③ 発達のはじめ～胎児期～新生児期						
	④ 乳児期						
	⑤ 幼児期前半						
	⑥ 幼児期後半						
	⑦ 児童期①思考と学習						
	⑧ 児童期②社会性の発達						
	⑨ 思春期～青年期						
	⑩ 成人(壮年期～老年期)						
	⑪ 発達を説明する理論①前成説・先決説						
	⑫ 発達を説明する理論②遺伝説・経験説						
	⑬ 発達を説明する理論③相互作用説						
	⑭ 発達のつまづき(遅れ)、発達障がいとその支援						
⑮ 集団保育と発達							
成績評価	試験						
	筆記試験は90分で実施 試験80% 受講態度20%						
参考文献等	保育・教育ネオシリーズ5 発達の理解と保育の課題 無藤隆 編著 同文書院						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	109	授業科目	学校経営と学校図書館 (Management in the Sochool and Sochool Library)			担当者	永窪 一宏
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校教育において中心的な役割を果たすことが期待される学校図書館について、その機能を十分に発揮するにはどのように運営すべきであるのか、学校図書館の経営、そのほか学校教育、職員、地域との関わりについて解説する。						
	2. 授業の内容 学校図書館の機能と学校教育、学校職員や地域との連携、学校図書館の評価と改善などを中心に学習する。その際、司書教諭としての業務だけでなく学校の管理者としての視点から学校図書館の経営について考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 図書館としての学校図書館						
	② 学校図書館の理念						
	③ 学校図書館の教育的意義(1)						
	④ 学校図書館の教育的意義(2)						
	⑤ 教育行政と学校図書館						
	⑥ 学校図書館の経営(1)						
	⑦ 学校図書館の経営(2)						
	⑧ 司書教諭と学校司書						
	⑨ 学校図書館メディアの構築と管理(1)						
	⑩ 学校図書館メディアの構築と管理(2)						
	⑪ 学校図書館活動(1)						
	⑫ 学校図書館活動(2)						
	⑬ 学校内での相互協力						
	⑭ 図書館の相互協力						
⑮ まとめ							
成績評価	受講態度(15%) 筆記試験(60分で実施、85%)						
参考文献等	テキストはなし。プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。						
備考	※単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(要事前連絡)					

科目番号	110	授業科目	社会科教育法 (Teaching Method of Social Studies)			担当者	松崎 康弘
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 小学校の社会科教育の目的・内容・方法・評価について理解する。 ② 小学校社会科の授業を行うのに必要な技能を習得し、将来小学校で実践するための基礎とする。 ③ 本授業で得た知識・技能を他教科教育法に応用できるようにする。						
	2. 授業の内容 上記①の「目標を達成するために、学習指導要領の読み込みを行う。またビデオ等で先進的な社会科教育実践について学ぶ。後半は社会科の授業づくりについて学んだ上で、グループワークにて模擬授業と検討会を行い、実践力を養う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① イン트로ダクション						
	② 中学年の目標・内容と実践事例 (1)						
	③ 中学年の目標・内容と実践事例 (2)						
	④ 第5学年の目標・内容と実践事例						
	⑤ 第6学年の目標・内容と実践事例						
	⑥ 社会科教材開発論 (1)						
	⑦ 社会科教材開発論 (2)						
	⑧ 社会科の授業技術						
	⑨ 社会科の評価						
	⑩ 学習指導案の作成方法						
	⑪ 模擬授業と検討会 (1)						
	⑫ 模擬授業と検討会 (2)						
	⑬ 模擬授業と検討会 (3)						
	⑭ 模擬授業と検討会 (4)						
⑮ まとめ							
成績評価	原則として筆記試験(90分で実施)で評価する。また、模擬授業への取組など受講態度を加味する。 (筆記=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト:文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館) 参考文献は講義中に適宜指示する。 ビデオを使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	111	授業科目	算数科教育法 (Methodology of Teaching Elementary Mathematics)			担当者	内田 豊海
	開講学期		学科・コース	履修方法	単位数		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1)算数科の目標や指導内容、学習指導や評価など、算数教育に関する基礎的知識を理解する。 (2)授業の計画・実施・評価・改善など、授業実践に必要な基礎的能力の基礎を養う。						
	2. 授業の内容 (1)算数・数学の特性、算数教育の現状や課題、学習指導要領における算数科の目標の変遷 (2)学習指導要領における算数科の指導内容やその系統性・領域 (3)学習や理解に関する理論、算数的活動、問題解決、数学的思考方、教具の工夫 (4)算数教育における評価の意義や種類、内容 (5)授業ビデオの鑑賞や討論、学習指導案の作成とそれに基づく模擬授業の実践						
授業計画	3. 授業計画						
	①	ガイダンス:本演習の概要や目標等について					
	②	算数教育の目標①:算数・数学の特性、算数教育の現状と課題					
	③	算数教育の目標②:学習指導要領における変遷					
	④	算数教育の内容①:学習指導要領の指導内容とその系統性					
	⑤	算数教育の内容②:各領域における指導内容					
	⑥	算数科学習指導の基礎①:様々な学習・理解の理論					
	⑦	算数科学習指導の基礎②:算数的活動					
	⑧	算数科学習指導の基礎③:問題解決、数学的思考方					
	⑨	算数科学習指導の基礎④:教具の工夫					
	⑩	算数教育の評価:評価の意義、種類、内容					
	⑪	算数科授業①:算数科授業ビデオの鑑賞・討論					
	⑫	算数科授業②:学習指導案の作成					
	⑬	模擬授業とその検討①					
	⑭	模擬授業とその検討②					
⑮	まとめ						
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(50%) ○受講態度(15%) ○演習での発表や提出物(35%)						
参考文献等	テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版社						
備考							
	オフィスアワー	随時:西館412号室					

科目番号	112	授業科目	保育内容総論 (an introduction to childcare content)			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について、概説する。できるだけ現場の保育と関連付けながら、保育者として乳幼児の指導・援助について解説をする。資料や視聴覚教材を活用し、理論と実践を結び付け具体的に学べるようにする。						
	2. 授業の内容 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について、解説書に沿いながら説明をする。特に環境を通して行う保育の在り方と遊びによる指導を中心に、養護の内容を加えて、乳幼児の保育における指導・援助の理論と具体実践について学ぶ。また育児支援について、その背景と、望ましい援助を学ぶ。なお情報機器及び教材の活用については、授業計画の中で適宜指導する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 幼稚園教諭と保育士について						
	② 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針の保育の基本(総則)1						
	③ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針の保育の基本(総則)2						
	④ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の計画と留意事項1						
	⑤ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の計画と留意事項2						
	⑥ 領域の考え方・5領域の各論						
	⑦ 教育課程・指導計画の編成(食育・特別支援教育、子育て支援についても触れる)						
	⑧ 保育の評価と資質の向上						
	⑨ 保育の観察・記録と評価						
	⑩ 指導計画の作成1(教育課程・保育課程と指導計画)						
	⑪ 指導計画の作成2						
	⑫ 指導計画の作成3						
	⑬ 幼稚園教育実習の概要						
	⑭ 保育所実習の概要						
⑮ 情報機器及び教材の活用							
成績評価	1. 授業で出される課題の達成(20%)						
	2. 筆記試験(65%)						
	3. 受講態度(15%)						
参考文献等	テキスト;未定 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 保育指導案の書き方に関するテキストは未定 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
	単位互換開放対象科目						
備考	オフィスアワー						
	月・木 16:30~17:30						

科目番号	113	授業科目	保育内容(健康) (Health of Early Childhood)			担当者	大村 一光
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児期の運動や遊びは、身体の発育、発達に多大な影響をもたらすのみならず、精神的、社会的発達に対しても大きく影響をおよぼす。したがって、幼児期の発達特性をよく理解し、発育・発達に応じた保育援助のあり方や運動、遊びの持つ特性を理解しておくことは重要なことである。ここでは、上述した観点から、幼児期の健康教育のあり方について学習する。						
	2. 授業の内容 保育内容「健康」の位置づけ、身体の発育発達の特徴、運動機能の発達、季節に応じた健康上の留意点、器具・遊具の安全などについて解説する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	幼児期の健康のとらえ方					
	②	「健康」のねらい、指導の基本					
	③	身体の発育・発達Ⅰ					
	④	身体の発育・発達Ⅱ					
	⑤	運動機能の発達Ⅰ					
	⑥	運動機能の発達Ⅱ					
	⑦	運動機能の発達Ⅲ					
	⑧	保育計画における健康面での留意点Ⅰ					
	⑨	保育計画における健康面での留意点Ⅱ					
	⑩	運動施設における怪我の実態とその対策					
	⑪	運動遊びの実際Ⅰ					
	⑫	運動遊びの実際Ⅱ					
	⑬	運動遊びの実際Ⅲ					
	⑭	運動遊びの実際Ⅳ					
⑮	各種行事と運動						
成績評価	学期末試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)による						
参考文献等	保育内容・健康 健帛社 パワーポイントを使用						
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	114	授業科目	保育内容(言葉) (Childcare Content(Verbal Skills))			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育内容(言葉)の領域について、実技の習得と理解を図る。 実技は4名1グループごとに指遊び、絵かき歌およびお話し(絵本・紙芝居)または折り紙を実演・発表する。また発表用のレジュメ(指遊びの楽譜・遊び方の図、折り方の説明図、絵かき歌の絵)を作成する。保育内容(言葉)の領域についてテキストや配布資料を基に学習する。						
	2. 授業の内容 毎時間、前半はグループごとの実技発表をする。発表1週間前にはグループ全員で最終リハーサルを科目担当教員の前で行い、合格かつレジュメ原稿を提出しなければならない。授業後半はテキストを用いて講義を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション(授業の組み立ての説明とグループ分け、課題の提示)						
	② 領域「言葉」とは						
	③ 模範演示・ことばの働きと特徴						
	④ 実技発表・ことばの発達1: 前言語期						
	⑤ 実技発表・ことばの発達2: 移行期						
	⑥ 実技発表・ことばの発達3: 言語期①文法の獲得						
	⑦ 実技発表・ことばの発達4: 言語期②2次的言葉の習得						
	⑧ 実技発表・ことばの発達5: ことばとコミュニケーション						
	⑨ 実技発表・言語発達を説明する理論①学習説						
	⑩ 実技発表・言語発達を説明する理論②生得説						
	⑪ 実技発表・ことばを育てる環境						
	⑫ 実技発表・保育者の役割と援助						
	⑬ 実技発表・「言葉」のさまざまな活動内容						
	⑭ 実技発表・ことばと発達の関係実技発表・総括						
⑮ 実技発表・総括							
成績評価	実技の発表(①リハーサル②レジュメ作成③発表)80% 受講態度20%						
参考文献等	保育・教育ネオシリーズ5 発達の理解と保育の課題 無藤隆 編著 同文書院						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	115	授業科目	保育内容(表現Ⅰ) (Childcare content (Representation I))			担当者	井上 周一郎	
							松下 茉莉香	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児期から児童期における造形表現活動を考察する。							
	2. 授業の内容 ①幼児期における造形表現活動の教育的意義、発達過程について理解する。 ②多様な実験制作を通して、描画表現の基礎的な表現技能を習得し、表現の豊かさや描く喜びを学ぶ。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	幼児期の造形表現について					(井上・松下)	
	②	絵画表現の多様性を学ぶ : 多様な表現手段・素材の体験					(松下)	
	③	絵画表現の多様性を学ぶ : モダンテクニックを用いた課題制作					(松下)	
	④	色彩と子どもの絵の関わり : 色の3属性と感情効果について					(松下)	
	⑤	自然物の特徴を観察して描く : 自然物のもつ色形の変化や魅力を捉える					(松下)	
	⑥	自然物の特徴を観察して描く : 透明水彩絵の具による着彩					(松下)	
	⑦	自然物の特徴を観察して描く : 作品の仕上げ・鑑賞・総括					(松下)	
	⑧	幼児期の子ども絵に見られる発達の道筋を学習する					(松下)	
	⑨	幼児期の子ども絵に見られる表現様式について					(松下)	
	⑩	保育実践における知識と技能 パネルシアター・ペープサートを見て学ぶ					(井上)	
	⑪	パネルシアターの制作Ⅰ(成形と着色)					(井上)	
	⑫	パネルシアターの制作Ⅱ(しかけ作り)					(井上)	
	⑬	パネルシアター・ペープサートの演じ方と意義を理解する					(井上)	
	⑭	造形のたし算とひき算(折り紙による多様な制作)					(井上)	
⑮	造形のひき算(手を通して思考することの大切さを学ぶ)					(井上)		
成績評価	受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)							
参考文献等	テキスト:「保育をひらく造形表現」 榎 英子 萌文書林							
備考								
	オフィスアワー							

科目番号	116	授業科目	社会福祉 (Social Welfare)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 社会福祉に関する全般的・体系的な知識を身に付ける。 2. 子どもを取り巻く家族支援を視野に入れながら、身近な地域社会との関係や各種の法的制度を理解する。 3. 最終的には支援者の一人として主体的に取り組める資質や能力を育む。						
	2. 授業の内容 本授業は、保育と社会福祉の関係を歴史的、社会的背景から理解し、そうした社会福祉の基本知識を、実社会と照らし合せながら学べる内容にする。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 講義のガイダンス、保育における社会福祉						
	② 社会福祉の概念と理論						
	③ 社会福祉の対象と主体						
	④ 現代社会の特徴と福祉ニーズ						
	⑤ 社会福祉の歴史						
	⑥ 地域福祉計画と地域福祉						
	⑦ 社会福祉制度と体系						
	⑧ 社会福祉の財政と費用負担						
	⑨ 社会保障及び関連制度の概要						
	⑩ 社会福祉従事者の概要と保育士の倫理						
	⑪ 子ども家庭福祉・障害者福祉・高齢者福祉						
	⑫ ボランティアの意義と活動						
	⑬ 社会福祉の動向と改革						
	⑭ 鹿児島県社会福祉						
⑮ まとめ							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する。 ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。					

科目番号	117	授業科目	子どもの保健 I (Child Health I)			担当者	宇都 弘美
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 健康の概念を再確認し、子どもが心身共に健やかに育っていくために、保育者としてまず、小児期の区分や子どもの発達について理解する。次に、統計から見た子どもの健康に関する現状を確認し、それに対する母子保健施策を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気とその対応や、事故防止と安全対策についても理解を深める。						
	2. 授業の内容 健康の概念、子どもの発育・発達と保健、母子保健統計と母子保健行政、子どもが罹りやすい病気と対応、事故防止と安全対策						
授業計画	3. 授業計画						
	①	小児保健の概念・理念、健康の概念、小児の区分					
	②	出生前の成長と出生後の身体発育					
	③	生理機能の発達					
	④	運動機能の発達					
	⑤	精神発達					
	⑥	小児に関する統計					
	⑦	小児(母子)保健行政					
	⑧	新生児・未熟児					
	⑨	出生前の原因による病気					
	⑩	病気の予防、小児疾患の主な症状					
	⑪	小児期の病気①					
	⑫	小児期の病気②					
	⑬	小児期の病気③					
	⑭	小児の事故と対策					
⑮	性感染症						
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	テキスト : 開講時に指示する 参考文献: 授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	118	授業科目	学校図書館メディアの構成 (Composition of School Library Media)			担当者	永窪 一宏
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校図書館は、児童や生徒が学習活動や読書活動を行うために利用される場所である。そのため、「役に立つ学校図書館」を作りあげるために、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について理解をする。						
	2. 授業の内容 学校図書館メディアの意義と役割 学校図書館メディアの種類と特性 学校図書館メディアの選択、収集、組織化 目録作成および分類 学校図書館メディアのり排架						
授業計画	3. 授業計画						
	①	学校図書館メディアの意義					
	②	学校図書館メディアの種類(1)					
	③	学校図書館メディアの種類(2)					
	④	学校図書館メディアの種類(3)					
	⑤	学校図書館メディアの構成(1)					
	⑥	学校図書館メディアの構成(2)					
	⑦	目録作業の概要					
	⑧	目録作業の実践(1)					
	⑨	目録作業の実践(2)					
	⑩	主題分析の概要					
	⑪	件名の付与					
	⑫	件名付与の実践					
	⑬	分類作業					
	⑭	分類作業の実践					
⑮	まとめ						
成績評価	筆記試験(60分で実施, 85%)						
参考文献等	受講態度(15%) テキストはなし。プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。						
備考	※単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時					

科目番号	119	授業科目	社会 (Social Science for Elementary Course)			担当者	松崎 康弘
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 社会科教育法等で学んできたことを踏まえ、授業者として社会科教育実践を行うための応用力を培う。学生による教材開発や討論、見学等を重視し、社会科教育に対する認識を深めるとともに、実践力を養う。						
	2. 授業の内容 前半は社会科教育の先進的な実践を講義形式で紹介し、それをもとに学生による教材開発と討論を行う。後半は鹿児島県の代表的な産業に関わる工場等を見学し、社会科教論として引率することを意識しながら、見学学習の在り方を考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	イントロダクション					
	②	実践研究・教材開発 (1) —マンガの教材化—					
	③	実践研究・教材開発 (2) —恋愛の教材化—					
	④	実践研究・教材開発 (3) —日韓関係の教材化—					
	⑤	実践研究・教材開発 (4) —食育と社会科—					
	⑥	実践研究・教材開発 (5) —地域の歴史教材—					
	⑦	実践研究・教材開発 (6) —法教育—					
	⑧	実践研究・教材開発 (7) —地名教育—					
	⑨	見学学習の実践事例紹介					
	⑩	工場等見学の準備学習					
	⑪	見学・体験学習 (1) —鹿児島県の産業等について—					
	⑫	見学・体験学習 (2) —鹿児島県の産業等について—					
	⑬	見学・体験学習 (3) —鹿児島県の産業等について—					
	⑭	見学学習のふりかえり					
⑮	まとめ						
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館） 参考文献は授業で適宜指示する。						
備考	単位互換開放対象科目 見学体験学習の行先については、社会科教育研究の動向や学生の希望等を踏まえ決定する。						
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	120	授業科目	理科 (Science)			担当者	横峯 孝昭
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校学習指導要領に示されている理科の全体としての目標をとらえたうえで、学年後との目標とそれに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。						
	2. 授業の内容 小学校理科における学習は、児童が身近な自然を対象として、見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事物・現象と科学的に関わる中で、問題解決の能力や態度を育成する活動を養うことを目標としている。実際の体験学習を行うことにより、理解することに結び付けられる内容について考えてみる。(受講人数により、ものづくり模擬授業への移行あり)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 小学校理科の全体目標						
	② 燃焼について						
	③ 化学変化						
	④ 浮沈子-よるものの重さと比重						
	⑤ 熱気球						
	⑥ 天気①						
	⑦ 天気②						
	⑧ 月の満ち欠け						
	⑨ 煮干しの解剖-体の構造						
	⑩ 電気クラゲ-静電気						
	⑪ 電気回路						
	⑫ 力と運動						
	⑬ ばねと力①						
	⑭ ばねと力②						
⑮ 総括							
成績評価	講義中に行う課題の達成(100%)によって評価する。						
参考文献等	テキスト、参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	121	授業科目	家庭 (Elementary Home)			担当者	山崎 歌織
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校における家庭科を指導するために必要な基本的知識や指導法を学び、社会や家庭生活の変化に対応できるようにする。さらに、新しい学力観に基づいて、発達段階に応じた効果的な指導法や教材開発に発展できることを目標とする。						
	2. 授業の内容 学習指導要領に示された家庭科の目標・内容について、科学的な根拠や実践的・体験的な活動を考慮し、多様化する家庭生活に対応できるよう、基礎的内容を中心に進めていく。また、実習を行い実習を取り入れた授業での指導法や注意点についても検討していく。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	家庭科の目標・内容について					
	②)					
	③	日常の食事と調理の基礎					
	④	栄養・食品・調理・献立・食生活に関する指導の基礎					
	⑤	食生活指針について					
	⑥)					
	⑦)					
	⑧	快適な衣服					
	⑨	着方・手入れ・被服材料・製作に関する指導の基礎					
	⑩)					
	⑪	快適な住まい・身近な消費生活と環境					
	⑫	快適な住まい方・物の選び方・購入に関する指導の基礎					
	⑬)					
	⑭	調理実習(調理の基本)					
⑮	全体のまとめ						
成績評価	筆記試験(60分で実施)60%・課題レポート30%・受講態度10%の総合評価						
参考文献等	○テキスト・・・小学校家庭科の指導・中間美佐子, 多々納道子・建帛社 文部科学省著・小学校学習指導要領解説 家庭編・株式会社東洋館出版社 ○参考文献・・・適宜、プリントを配布する ○視聴覚機器・・・ビデオVHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)					

科目番号	122	授業科目	音楽Ⅱ (MusicⅡ)			担当者	新村 元植
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児教育に必要な音楽の基礎理論についてさらに演習すると共に、幼児曲の歌唱演習を通して音楽の一般的能力を高める。また、保育活動に必要な音楽的訓練について演習する。						
	2. 授業の内容 (1) 音楽に関する基礎的事項についての演習。 (2) 幼児曲を使用した歌唱、弾き歌いの演習。 ・各人が単独で器楽Ⅱで使用する幼児曲の弾き歌いを実施し、歌唱を援助する演習の実施。 ・各演習時間6名程度が歌唱を援助する演習を実施する。 (3) 授業の後半では、幼児教育に必要な音楽的基礎理論の演習する。						
授業計画	3. 授業計画(授業の後半)						
	① 音楽理論1(コードネームの基礎知識)						
	② 音楽理論2(長三和音・短三和音の作成演習)						
	③ 音楽理論3(減三和音・増三和音・属七の和音の作成演習)						
	④ 音楽理論4(長・短・減・増の各三和音、属七の和音の総合的作成演習)						
	⑤ 幼児曲によるコードネーム作成演習1						
	⑥ 幼児曲によるコードネーム作成演習2						
	⑦ 幼児曲によるコードネーム作成演習3						
	⑧ 幼児曲による簡易伴奏演習1						
	⑨ 幼児曲による簡易伴奏演習2						
	⑩ 幼児曲による簡易伴奏演習3						
	⑪ 音楽的援助における基礎研究1(事例を基にした音楽的表現活動の研究)						
	⑫ 音楽的援助における基礎研究2(音楽的表現活動の保育指導案における研究)						
	⑬ 音楽的援助における基礎研究3(海外の幼児音楽教育)						
	⑭ 総合的演習1(コードネームの作成演習および評価)						
⑮ 総合的演習2(簡易伴奏作成演習および評価)							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編) 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(新村研究室);要事前連絡					

科目番号	123	授業科目	器楽Ⅱ (PianoⅡ)			担当者	中村 礼香 大迫 貴
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小・幼/小・保/幼・保)	演習	1	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもの音楽教材の伴奏ができるように、ピアノ奏法の基本と応用力を修得させる。						
	2. 授業の内容 ピアノ奏法の基本と応用について、個人指導およびMLシステムを用いた集団指導を行う。 基本 バイエル教則本より基礎的な練習曲と音階について学ぶ バイエル修了者はソナチネやソナタなどの個人指導 バイエルは100番まで履修すれば次のテキストに移行 応用 子どもの音楽教材より歌唱と伴奏を学ぶ 下記に記載した幼児曲はピアノのレベルに関わらず全員必修で履修する。 簡易伴奏版でも「うたとあそび」そのままでもどちらでも良い						
授業計画	3. 授業計画						
	① バイエル教則本 ホ調長音階・92 / 「どんぐりころころ」を中心に個人指導及び集団指導						
	② バイエル教則本 88 / 「さよならのうた」を中心に個人指導及び集団指導						
	③ バイエル教則本 90 / 「お弁当」を中心に個人指導及び集団指導						
	④ バイエル教則本 91・イ調短音階 / 「おかえりのうた」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑤ これまでに履修した曲の総合指導①						
	⑥ バイエル教則本 94 / 「菊の花」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑦ バイエル教則本 95 / 「たき火」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑧ バイエル教則本 96 / 「あわてんぼうのサンタクロース」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑨ バイエル教則本 80 / 「犬のおまわりさん」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑩ これまでに履修した曲の総合指導②						
	⑪ バイエル教則本 97 / 「おもちゃのチャチャチャ」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑫ バイエル教則本 98 / 「線路は続くよどこまでも」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑬ バイエル教則本 99 / 「森のくまさん」を中心に個人指導及び集団指導						
	⑭ バイエル教則本 100 / 「ふしぎなポケット」を中心に個人指導及び集団指導						
⑮ 試験曲の為の個人指導及び集団指導							
成績評価	①ピアノ実技試験はバイエル教則本100番以降の任意の1曲と幼児曲1曲(弾き歌い)を暗譜で演奏する。 ②成績は実技試験(50%)と平常点及び受講態度(50%)の平均とする。						
参考文献等	テキスト : 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノ教則本(バイエル教則本、ソナチネアルバムほか)						
備考	単位互換対象科目						
オフィスアワー	随時(中村研究室)						

科目番号	124	授業科目	図画工作 (Drawing and manual arts)			担当者	井上 周一郎 松下 茉莉香
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期 2年・後期	児教 (小・幼/小・保/幼・保)	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児期から児童期における造形表現活動を考察する。						
	2. 授業の内容 ①幼児期から児童期における造形表現活動の発達過程と教育的意義を学ぶ。 ②多様な制作活動を通して、表現の魅力を十分に味わいながら、専門的な造形表現の技能を習得する。 ③教材研究を深め、指導や支援などのあり方を学習する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	幼児期から児童期の描画表現の発達過程					(松下)
	②	想像を基にした絵画表現		主題から発想したことを基に絵の構想を深める		(松下)	
	③	色形を工夫して表現する					(松下)
	④	子どもの絵の読み取り方について		作品からよさを感じ取る・評価の観点を学ぶ		(松下)	
	⑤	表現につまづく子どもへの援助について考察する					(松下)
	⑥	素材研究	紙の特徴を活かしたカード制作	紙の特徴・加工法を学ぶ	(構想を練り仕掛けを作る)		(松下)
	⑦			制作と総括	(絵や文字で飾る・鑑賞)		(松下)
	⑧	美術の誕生と歴史		美術と人類の関わりを考察		(井上)	
	⑨	保育実践における知識と技能		多様な紙粘土制作		(井上)	
	⑩	紙粘土作品の仕上げ(彩色とニス塗りの方法を習得する)					(井上)
	⑪	粘土遊びの意義と指導法を学ぶ					(井上)
	⑫	造形のたし算(紙の多様な造形法とその意義を理解する)					(井上)
	⑬	造形のたし算(紙の立体的な造形法とその意義を理解する)					(井上)
	⑭	教材研究の在り方		豊かな感性を育むための表現活動(工作活動の発達と傾向を学習する)		(井上)	
⑮	創造的な表現活動(教師の適切な関わり方を学ぶ)					(井上)	
成績評価	出席回数と受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)						
参考文献等	随時資料を配布 参考文献:「表現活動を豊かにする 絵画・製作・造形あそび 指導大百科」 東山 明 ひかりの国株式会社						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	125	授業科目	体育Ⅱ (Physical Education Ⅱ)			担当者	小松 恵理子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼稚園教育要領・保育指針に示される「健康」や「表現」指導の基礎となる音と伴う運動教材の習得や模擬授業等の指導場面の体験を通して、基礎的身体技術・知識や指導方法の蓄積を目指す。						
	2. 授業の内容 幼児を対象とした音を伴う運動教材の習得・保育案作成・模擬授業・教材製作・手具の使用法・集団演技のまとめ方等を習得する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 音を伴う運動教材(幼児体操・フォークダンス・レクダンス等)と幼稚園教育要領・保育指針との関連について						
	② 運動教材の習得・模擬保育1(保育案の作成について)						
	③ 運動教材の習得・模擬保育2(導入方法の実際について)						
	④ 運動教材の習得・模擬保育3(体操・ダンスの示範方法について)						
	⑤ 運動教材の習得・模擬保育4(集団の誘導方法について)						
	⑥ 運動教材の習得・模擬保育5(教材と発達について)						
	⑦ 運動教材の習得・模擬保育6(保育者の位置とコミュニケーションについて)						
	⑧ 運動教材の習得・模擬保育7(安全に対する配慮について)						
	⑨ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作1(製作方法についての説明)						
	⑩ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作2(原型発表/手直し)						
	⑪ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作3(最終発表/VTR撮影)						
	⑫ 手具の使用法(輪)						
	⑬ 手具の使用法(リボン)						
	⑭ 手具の使用法(ボール)						
	⑮ 手具体操の創作と集団演技のまとめ方について						
⑯ 実技試験							
成績評価	授業中の課題の発表・指導案等の提出物(90%)・受講態度(10%)によって行う。						
参考文献等							
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー						

科目番号	126	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また幼児期・児童期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーションー自分たちの過去を思い出そう						
	② 成長するとは？(Ⅰ)ー身体的成長と精神的成長						
	③ 成長するとは？(Ⅱ)ー精神的成長と自立						
	④ 成長するとは？(Ⅲ)ー精神的成長と自律						
	⑤ 成長するとは？(Ⅳ)ー成長と教育の関係						
	⑥ 教育とは？(Ⅰ)ー教育の目指すもの						
	⑦ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その一)						
	⑧ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その二)						
	⑨ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その三)						
	⑩ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その四)						
	⑪ 教育における諸問題(その一)						
	⑫ 教育における諸問題(その二)						
	⑬ 教育における諸問題(その三)						
	⑭ 課題と展望(その一)						
⑮ 課題と展望(その二)							
成績評価	筆記試験(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	127	授業科目	保育者論 (Theory of Childcare worker)			担当者	小津 草太郎
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育士という専門職の役割や責務、倫理について理解した上で、大人が子どもの育ちにできることは何かを考え、保育者のあり方について理解を深める。その後、0歳から6歳までの子どもの発達の特徴を学習しながら、各年齢における子どもの発達に応じた援助のあり方と保育・教育の計画について理解を深め、将来、教育・保育の現場において、子どもと発達を理解して十分に専門性を発揮し、自らが成長・自己発揮していけるような人材を育てることを目標とする。						
	2. 授業の内容 授業は以下の計画に沿っておこなう。 最初に専門職としての保育士について学習した後、子どもの育ちに大切なことは何かについて考える。その後、0歳から6歳までの子どもの発達と援助のあり方を順に、事例を交えながら学び、理解を深める。また、保育記録やエピソード記述など、保育の場で生じることを形にし表現することを通じて子どもの発達や保育に対する感性を高めていく。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション（保育者の資質と専門性について）						
	② 保育者の役割（制度と資格、責務、倫理）						
	③ 保育と子育てにおける基本的姿勢：子どもの育ちとは						
	④ 保育と子育てにおける基本的姿勢：おとなが子どもの育ちにできること						
	⑤ 保育と子育てにおける基本的姿勢：子どもの主体性、個別と集団の援助、トラブルの対応等						
	⑥ 各年齢期における保育援助（1）：3歳児（年少児）						
	⑦ 各年齢期における保育援助（2）：4歳児（年少児）						
	⑧ 各年齢期における保育援助（3）：5歳児（年長児）						
	⑨ 各年齢期における保育援助（4）：0歳から6か月未満児 / エピソード記述						
	⑩ 各年齢期における保育援助（5）：6か月から1歳3か月未満児 / エピソード記述						
	⑪ 各年齢期における保育援助（6）：1歳3か月から2歳未満児 / エピソード記述						
	⑫ 各年齢期における保育援助（7）：2歳児 / エピソード記述						
	⑬ 保育所における協働（1）：職員間の連携、家庭・地域社会との連携						
	⑭ 保育所における協働（2）：小学校との連携、他の専門機関との連携						
⑮ 保育所における職員の成長：自己評価、職員の資質向上、保育者の生活とキャリア発達							
成績評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況(20%程度) 2. 学期末ノート提出(30%程度) 3. 学期末レポート課題(50%程度) 以上による総合評価とする。						
参考文献等	[テキスト] 阿部明子・中田カヨ子(編)「保育における援助の方法」 萌文書林 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ、PC、プロジェクター						
備考	オフィスアワー 授業時間の前後、あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	128	授業科目	教育方法の研究 (Teaching Method)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	1	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 小学校教育および幼児教育で用いられる教育方法について、その歴史や目的及び効果を理解する。 ② 特に小学校の授業を行うにあたって必要な技能について理解する。 ③ 子どもや保護者等にとって効果的な教育実践を行おうとする意識や態度を養う。						
	2. 授業の内容 ① 教育思想家や実践者だけでなく、さまざまな分野の研究者による教育方法論を学ぶ。 ② 授業方法についての先進的な研究に触れ、授業の仕方を学ぶ。授業の組み立て方や評価方法、体験学習の効果的な活用などについて学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	① インTRODクション						
	② 教育方法研究の歴史(日本)						
	③ 教育方法研究の歴史(世界)						
	④ 現代の教育方法(1) —「命の教育」を事例に—						
	⑤ 現代の教育方法(2) —教育実践者の著作から—						
	⑥ 現代の教育方法(3) —教育学以外の視点から—						
	⑦ 保護者・地域の願いと教育方法						
	⑧ 授業をつくる(1) —導入について—						
	⑨ 授業をつくる(2) —教材開発について—						
	⑩ 授業をつくる(3) —発問・板書等について—						
	⑪ 授業をつくる(4) —体験型学習の活用—						
	⑫ 授業をつくる(5) —教育機器の活用—						
	⑬ 教育評価について						
	⑭ 学習指導案の作成について						
⑮ まとめ							
成績評価	原則として筆記試験(60分)で評価する。受講態度も加味する。(試験=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業で適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	129	授業科目	生徒指導・進路指導 (Student guidance and Career guidance)				担当者	松元 理恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数		
区分	1年・後期	児教	講義	2	選択	小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 「生きる力を育てる」という観点より、子どもにどのような援助や指導ができるかを考え、実践にうつすことができる意識を養います。また、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性を活かして豊かな自己実現をはかるための理論を具体的、実践的に学びます。							
	2. 授業の内容 生徒指導の教育的意義と課題、子どもの発達と自我形成、現代の子どもの抱える問題をふまえながら、生徒指導・進路指導をどう行うかについて学習します。授業では、実際の知識と体験的学習を実施しながら、実践に結び付けられる内容を紹介します。							
授業計画	3. 授業計画							
	① 生徒指導の意義と特質							
	② 学校内のシステム構成～組織とその運営、心理教育的援助サービス							
	③ 生徒指導と教育過程や教育経営							
	④ 生徒指導の課題							
	⑤ 生徒指導と教育過程や教育経営							
	⑥ 心理教育プログラム							
	⑦ 道徳・特別活動と生徒指導							
	⑧ 子どもの発達のプロセス							
	⑨ 不登校の理解と指導							
	⑩ 「いじめ」の理解と対応							
	⑪ 非行問題の理解と指導							
	⑫ 進路指導の定義と展開							
	⑬ 進路指導と教育課程							
	⑭ ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論							
⑮ 進路指導の進め方								
成績評価	筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、受講態度(10%)							
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。							
備考								
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡						

科目番号	130	授業科目	障害児の教育・保育 (Education and Childcare for Handicapped Children)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	幼教免・小教免必修 保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育現場では、子どもの発達を促し、症状を改善させ、就学につなげる専門家としての保育行為が求められます。この授業では、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)、学習障害(LD)、PDD(広汎性発達障害)を中心に、障害特性の理解と対応の基礎となる支援スキルについて学びます。また、二次的問題への対応や、保護者への支援、他の相談機関との協力体制についても理解を深めることを目標とします。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行います。また、授業後には授業に関する質問や感想を書いて提出してもらい、そこで出た質問は次回の授業で回答します。						
授業計画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 障害児の教育・保育とは						
	② 障害とは何か(ICIDHからICFへの変遷)						
	③ 広汎性発達障害の理解						
	④ 広汎性発達障害への支援スキル						
	⑤ 注意欠陥/多動性障害の理解						
	⑥ 注意欠陥/多動性障害への支援スキル						
	⑦ 学習障害の理解						
	⑧ 学習障害への支援スキル						
	⑨ 知的障害、運動障害の理解						
	⑩ 知的障害、運動障害への支援スキル						
	⑪ 聴覚障害、視覚障害の理解						
	⑫ 聴覚障害、視覚障害への支援スキル						
	⑬ 保護者への支援						
	⑭ 特別支援教育についての基礎知識						
⑮ 地域の専門機関との連携と小学校への接続							
成績評価	以下による総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	テキスト: 平山諭(編著)「保育士養成テキスト⑫ 障害児保育」 ミネルヴァ書房 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	131	授業科目	子どもと人権 (Human Rights for Children)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 子どもと人権について必要な知識を得た上で思考することにより、人権意識等の、教育者・保育者として、そして社会人として必要な資質を養う。 ② 人権教育・保育の方法を学び、実践を行うのに必要な知識や技能を培う。						
	2. 授業の内容 様々な教育・保育実践や人権を守ろうとする取組、国や自治体による施策などを参照しながら、人権教育の目標・内容・方法・評価等について学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 人権教育とは何か						
	② 異文化理解と人権教育						
	③ 障がい者理解と人権教育						
	④ マンガで学ぶ人権教育						
	⑤ 幼児教育・保育における人権教育の在り方						
	⑥ 学校教育における人権教育の在り方						
	⑦ 人権教育を通じて育てるべき子ども像						
	⑧ まとめ						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(90分)を行う。(100%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献(絵本を含む)は講義中に適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(要事前連絡)					

科目番号	132	授業科目	国語科教育法 (Teaching Method of Japanese Language for the Elementary School)			担当者	瀬戸口 修
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校の国語教諭として必要な知識・力を身につけ、2年次の教育実習や1年後期の小学校での研修(=観察・参加実習)に備える。						
	2. 授業の内容 「国語科教育」の沿革・その目標・内容・方法について、学ぶ。次に、『学習指導要領(小学校国語科)』をとりたて、‘教材分析‘や‘教材研究‘のやり方を学ぶ。さらには、「学習指導案」を作成し、それを手がかりに教壇に立てるよう、「国語教師」の‘基礎‘を身につける。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 「国語科教育」と「国語教育」(cf 「日本語教育」)						
	② 国語科教育の法的規定(憲法・基本法・学校教育法・同施行規則)						
	③ 「学習指導要領」の解説・分析						
	④ 〃						
	⑤ 〃						
	⑥ 「教材分析」						
	⑦ 〃						
	⑧ 〃						
	⑨ 『教材研究』・グループ発表						
	⑩ 〃						
	⑪ 〃						
	⑫ 〃						
	⑬ 『指導計画』・グループ発表						
	⑭ 「学習指導案」の作成						
⑮ 〃 レポート提出							
成績評価	各種レポート(20%)と最終評価用レポート(80%)						
参考文献等	テキスト：野地潤家・湊吉正 著：『新編 小学校 国語科教育法』おうふう						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	133	授業科目	体育科教育法 (Teaching Method of Physical Education)			担当者	小松 恵理子 黒原 貴仁	
			開講学期	学科・コース	履修方法			単位数
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼稚園教育要領・保育指針に示される「健康」や「表現」指導の基礎となる音と伴う運動教材の習得や模擬授業等の指導場面の体験を通して、基礎的身体技術・知識や指導方法の蓄積を目指す。							
	2. 授業の内容 上記目標を達成するために、1～6年の各学年に設定された運動領域について運動の捉え方や運動技能の指導法、指導のくふうについて解説してゆく。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	小学校体育目標					(黒原)	
	②	各学年の運動領域					(黒原)	
	③	低学年における運動とその指導 1					(黒原)	
	④	低学年における運動とその指導 2					(黒原)	
	⑤	低学年における運動とその指導 3					(黒原)	
	⑥	中学年における運動とその指導 1					(黒原)	
	⑦	中学年における運動とその指導 2					(黒原)	
	⑧	中学年における運動とその指導 3					(黒原)	
	⑨	高学年における運動とその指導 1					(黒原)	
	⑩	高学年における運動とその指導 2					(黒原)	
	⑪	体づくりの運動 1(特性について/単元計画や授業計画の立て方について)					(小松)	
	⑫	体づくりの運動 2(学年別指導の実際について)					(小松)	
	⑬	表現運動 1(特性について/英国ナショナルカリキュラムとの比較)					(小松)	
	⑭	表現運動 2(単元計画や授業計画の立て方について)					(小松)	
⑮	表現運動 3(学年別指導の実際について)					(小松)		
成績評価	学期末試験(80%)、受講態度(20%)を総合して評価する (黒原)							
	学期末試験(90%)、受講態度(10%)またはレポートによる (小松)							
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省							
	小学校学習指導要領 体育編 文部科学省							
備考	単位互換科目							
	オフィスアワー							

科目番号	134	授業科目	保育内容(環境) (Education for Early Childhood Relation to the Environment)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期 2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼稚園や保育所の保育内容である5領域のうち「環境」とはどのようなねらいと内容をもつか、具体的に理解することを目標とする。						
	2. 授業の内容 幼児の活動の中にどのような素材を環境として用意し、幼児の遊びをふくらませるようにすればよいかについて、基本的な考え方と具体的な方法を身につけるために、理論と実践の両面から考える。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 保育の目指す方向						
	② 領域「環境」をどうとらえるか						
	③ 指導のねらいとあり方						
	④ 幼児の発達と環境						
	⑤ 指導計画の作成						
	⑥ 指導計画の反省と評価						
	⑦ 動物・植物とのかかわり						
	⑧ 物とのかかわり						
	⑨ 自然事象とのかかわり						
	⑩ 地域とのかかわり						
	⑪ 情報とのかかわり						
	⑫ 文字とのかかわり						
	⑬ 数、量、図形とのかかわり						
	⑭ 他の領域や総合演習とのかかわり						
⑮ 小学校とのかかわり							
成績評価	学期末試験						
	授業態度(30%) 学期末試験(70%)						
参考文献等	テキスト 小田 豊 監修、新子どもと環境－理論編－、三晃書房						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	135	授業科目	幼稚園教育実習 I 指導 (Guidance for Teaching Practice for Preschool I)			担当者	高島まり子・大村一光 附属幼稚園長・主任
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/幼保)	講義	1	選択	小教免・幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 例年、1年次後期に2週間の予定で実施される、本学附属幼稚園での教育実習に関わる事前事後指導を行うことで、幼稚園教員(間接的には小学校教員)として求められる基礎的資質・能力の養成を図る。						
	2. 授業の内容 教育現場の実情をよく理解させる授業とするため、附属園の園長及び各園の主任教諭を中心とした教員を講師に、幼児保育の実際、年少・年中・年長保育の異同、歌・体操・絵画制作などの具体的保育技術に関し、紹介・解説する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 授業の進め方						
	② 園長講話						
	③ 実習の概要説明						
	④ 上記②～③で示した各事項の具体的紹介・解説						
	⑤ //						
	⑥ //						
	⑦ //						
	⑧ 実習終了後の事後的指導:実習 I の反省とそれを踏まえての幼稚園教育実習 II に向けた指導						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	原則として、この授業に全回出席した者以外の評価は行わない。その他の評価基準としては、レポート等の提出物の提出状況(60%)及び各内容、与えられた課題に対する達成状況(40%)等から総合的に評価する。						
参考文献等	講義初回時に紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	136	授業科目	幼稚園教育実習 I (Teaching Practice for Preschool I)			担当者	高島まり子・大村一光 附属幼稚園長・主任
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 (小幼/幼保)	実習	2	選択	小教免・幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1)幼稚園教諭として必要な資質を養成するために実際の保育を経験し、さらに社会人としての基本的な勤務態度を身につける。 (2)幼稚園教諭二種免許状を取得するためにこの実習を実施する。						
	2. 授業の内容 (1)教育実習先; 本学附属のかもめ、なでしこ、すみれの各幼稚園における10日間の実習。 (2)実習内容; 幼稚園教諭として必要な資質を養成するために観察実習、参加実習、担当保育実習を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	以下について実習する。 ① 実習の態度 積極的な取り組み、謙虚な態度、責任ある行動 ② 保育の実践 保育指導案の作成、保育の指導及び援助、保育の環境構成 ③ 実習の記録 観察の視点、表現の適切さ、幼児の理解 ④ 教育実習オリエンテーション 教育実習に関するオリエンテーションが実習中に適宜開催される。					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習園の評価及びオリエンテーションの参加を含めて総合的に評価する。 *実習日数の5分の1を超える欠席は、評価の対象にならない。						
参考文献等							
備考	(1)幼稚園教育実習IIに関するオリエンテーションが適宜実施されるが、全て参加すること。 (2)実習に参加するためには、学生使覧に示された実習参加要件を全て満たすこと。						
	オフィスアワー	実習中、自身で解決し得ない問題が生じた場合は連絡のこと。内容により、適宜、対応する。					

科目番号	137	授業科目	児童家庭福祉 (Child and Family Welfare)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 保育の専門職として備えるべき、児童家庭福祉に関する基本的知識の習得とその背景にある考え方を学ぶ。 2. 人権尊重の立場から、子どもや保護者へ毅然と対応できる資質や能力を育む。						
	2. 授業の内容 少子高齢化が進む現代社会において、子どもの福祉とは何か、その歴史的背景や諸外国との比較において、現況の福祉サービスを概観しながら、福祉専門職としての保育士の資質や役割を再確認する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 講義のガイダンス、保育における児童家庭福祉						
	② 現代社会と児童家庭福祉 I						
	③ 現代社会と児童家庭福祉 II						
	④ 児童家庭福祉の概念と理念 I						
	⑤ 児童家庭福祉の概念と理念 II						
	⑥ 児童福祉法と実施体制 I						
	⑦ 児童福祉法と実施体制 II						
	⑧ 児童家庭福祉施策の現状と課題 I						
	⑨ 児童家庭福祉施策の現状と課題 II						
	⑩ 児童家庭福祉施策の現状と課題 III						
	⑪ 児童福祉施設従事者と関連機関						
	⑫ 児童福祉施設と自立援助						
	⑬ 鹿児島における子育て支援の実際 I						
	⑭ 鹿児島における子育て支援の実際 II						
⑮ まとめ							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する。 ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。					

科目番号	138	授業科目	子どもの保健Ⅱ (Child HealthⅡ)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	1	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもの健康及び安全に係る保健活動の実際について学び、健やかな成長発達を促す関わりや環境作りについて考える。また、子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理についても具体的に理解する。さらに、実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用についても学ぶ。						
	2. 授業の内容 健康な生活習慣づくり(食事、排泄、清潔への援助) 成長発達と健康管理、事故防止と安全管理、応急処置と蘇生法						
授業計画	3. 授業計画						
	① 講義ガイダンス、班分け、乳児の抱き方・寝かせ方						
	② 調乳、授乳の仕方						
	③ 小児各期の発育の評価(身体計測)						
	④ 健康状態の観察方法(バイタルサインの観察)						
	⑤ 感染予防、手洗い						
	⑥ 食事介助						
	⑦ 与薬、罨法						
	⑧ 事故と対策、事故防止グッズの紹介						
	⑨ 応急処置、ケガの手当て						
	⑩ 運搬法						
	⑪ 清潔の援助①(歯磨きの指導、仕上げ磨き)						
	⑫ 心肺蘇生法						
	⑬ 清潔の援助②(おむつ交換)						
	⑭ 清潔の援助③(清拭)						
	⑮ 清潔の援助④(沐浴①)						
⑯ 清潔の援助⑤(沐浴②技術試験)							
成績評価	演習への取り組み状況(授業態度)30%・技術試験等70%						
参考文献等	テキスト : 開講時に指示する 参考文献: 授業の中で適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	139	授業科目	乳児保育 (Childcare under three years old)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 乳児保育の理念や役割について学び、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の成長・発達について学び、保育の実際についても理解を深める。さらに、乳児保育における保育の内容や方法、計画や記録についても学ぶ。家庭や地域、関係機関との連携についても学ぶ。						
	2. 授業の内容 乳児の発達の特徴と保育 3歳未満児の日常生活と保育の実際 保育の計画と記録 保育所実習の準備						
授業計画	3. 授業計画						
	① 乳児保育とは、乳児保育の歴史、家庭保育と集団保育						
	② 家庭生活と園生活						
	③ 乳児の発達の特徴と保育①(自我の発達と保育、ビデオ)						
	④ 乳児の発達の特徴と保育②(運動発達と保育、ビデオ)						
	⑤ 乳児の発達の特徴と保育③(言葉の発達と保育、ビデオ)						
	⑥ 乳児の日常生活と保育の実際①(乳児期前半)						
	⑦ 乳児の日常生活と保育の実際②(乳児期後半)						
	⑧ 1歳児の日常生活と保育の実際						
	⑨ 2歳児の日常生活と保育の実際						
	⑩ 保育における保健活動						
	⑪ 保育計画と記録①						
	⑫ 保育計画と記録②						
	⑬ 保育所実習に向けて						
	⑭ 保育の実際(ビデオ)						
⑮ 乳児保育を支える制度や連携と今後の課題							
成績評価	筆記試験(90分で実施)80%・レポート20%等						
参考文献等	テキスト:「はじめて学ぶ 乳児保育」、志村聡子 他著、同文書院 視聴覚教材:ビデオ「すばらしき36ヶ月」「乳児保育の実際」「低年齢児の保育」「保育実習」 参考文献:授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	140	授業科目	保育所実習 I 指導 (Practice of Nursery School I)			担当者	小津 草太郎 宇都 弘美	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所実習 I へ向けて、保育実習の意義・目的および内容を確認し、子どもの人権と最善の利益、実習施設における子どもの生活、保育士の仕事について理解する。また実習に向け、実習計画、観察、援助、記録の仕方など具体的な方法について学習する。実習後には、自己の課題を確認し、その後の学習の目標を立てる							
	2. 授業の内容 授業は以下の計画に沿っておこなう。 保育所実習 I を充実させるために、まず保育士の仕事とその役割を十分に理解し、専門職を目指す者としての高い意識をもつことから始める。その後、自己の課題を明確にし、観察・援助、保育記録、指導案の作成など事前に必要な学習をおこなう。また並行して、実習のために必要な各種手続きを随時進めていく。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	保育実習の目的と内容, 保育所実習までの流れ					(小津・宇都)	
	②	子どもの人権と最善の利益, 保育所保育における子どもの生活および保育士の仕事					(小津)	
	③	実習に向けた準備と心構え(守秘義務, プライバシー保護, 社会人としてのマナー等)					(小津)	
	④	保育における観察・援助, 実習記録の記入および指導案の作成について					(小津)	
	⑤	実習先への事前訪問および実習前の各種手続きについて					(小津・宇都)	
	⑥	保育所実習 I における目標, 自己の課題および実習計画の立て方					(小津・宇都)	
	⑦	子どもの発達と保育の計画(1) : 0歳から1歳3ヵ月未満児					(小津・宇都)	
	⑧	[事後指導] 実習の総括および自己評価, 今後に向けての課題(実習記録, 報告書の提出)					(小津・宇都)	
成 績 評 価	1. 受講態度および実習準備の取り組み状況 (20%程度)							
	2. 実習終了後の提出物(実習記録・報告書) (80%程度) 以上による総合評価とする。							
参 考 文 献 等	[テキスト] 鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)「保育実習の手引き」 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター, VHS/DVDプレーヤー							
備 考								
	オフィスアワー	授業時間の前後, あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	141	授業科目	保育所実習 I (Teaching Practice for Nursery I)			担当者	小津 草太郎 宇都 弘美
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 児童福祉施設としての保育所の機能、保育士の仕事や職業倫理について学び、実際に子どもや保育士の姿に触れることを通して、子どもの生活や発達、保育者の援助について理解を深める。そうした中で、既習の理論や技能を実践し、自身の知識や技能の及ばないところを見つける。また、保育士を目指す動機は何か、保育者として必要な資質は何か、社会人としての責任ある行動ができるかを確認する。						
	2. 授業の内容 保育所実習 I で求められる学習内容は、①保育所の機能・役割を理解すること、②教科における学習内容を保育の実践現場で確かめること、③乳幼児期にわたる発達と援助について幅広く学習すること、④観察、参加、部分保育などの体験を通して保育技術の実践力を高めること、⑤社会人としての必要な態度を身につけること、等である。						
授業計画	3. 授業計画 保育所実習 I では、保育所における子どもの生活、保育士の保育活動に参加しながら、次のような内容の学習・実践をおこない、乳幼児保育の基本と実際について学ぶ。(小津・宇都)						
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次のこれまでの学習を基に、理論や保育技術が実際の保育現場においてどのように応用され、実践されているかを学ぶ。 2. 0歳から6歳の全年齢層にわたって実習し、乳幼児の発達全般および年齢や発達過程に応じた保育について学ぶ。 3. 実習の方法については、観察はもとより、保育活動に参加しながら(保育士の補助、部分保育、担当保育を含む)、保育技術の実践の体験的理解をはかる。 4. 主な学習課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の目的・役割・機能 (2) 保育所における乳幼児の生活や遊び(1日の保育の流れ) (3) 保育士の援助・かかわり方(保育活動) (4) 一人ひとりの子ども・集団の姿やその発達 (5) 環境構成 (6) 保育課程と保育計画 (7) 保育士とその他の職員の仕事・役割・機能、職員間の連携 (8) 保育所と家庭・地域との関係 						
成績評価	各実習先から提出される「実習評価表」に基づいておこなわれる。 評価の観点は次のとおりである。 ① 実習の態度 ② 保育・援助の実践 ③ 実習の記録 ④ 総合評価						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	142	授業科目	国語 (Japanese)			担当者	瀬戸口 修
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	小教免・幼教免選択必修 保育士証	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校・幼稚園教諭としてふさわしい‘国語教師力’を養成するために、会話表現と文章表現の両面について、必要な基本的事項をとりたてて、その理解を深め、実践力・応用力を身につけさせることをめざす。						
	2. 授業の内容 会話表現では、「あいさつ・敬語の使い方」から、「保育現場での話し方・子どもへのコトバかけ」など、文章表現では、「正しい表記・文章の書き方」から、「実習日誌」「指導案の書き方」など、さらには、実習礼状や就職活動の際の「履歴書・小論文」の書き方など、さまざまな表現力の育成をめざす。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 自己紹介(話す・書く)						
	② 原稿用紙のつかい方の演練・・・定着・実践						
	③ 会話表現(基礎編)話し方・あいさつ						
	④ // 敬語の使い方						
	⑤ 会話表現(応用編) 保育者の発声・自己紹介のしかた						
	⑥ // 実習先との話し方・保育現場での話し方・子どもへのコトバかけ						
	⑦ // 就職面接・保護者との話し方・保育現場での電話						
	⑧ 文章表現(基礎編) 文字について・正しい表記						
	⑨ // 文章作成上の留意点・文章の基本的な書き方						
	⑩ 文章表現(応用編) 実習日誌の書き方・指導計画の書き方						
	⑪ // 礼状など手紙・ハガキの書き方 メールの書き方						
	⑫ // 履歴書の書き方						
	⑬ // 小論文の書き方						
	⑭ // 連絡帳・園便りの書き方						
⑮ 課題作文の提示・・・(最終作文)							
成績評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)						
参考文献等	テキスト：田上 貞一郎著『保育者になるための国語表現』萌文書林						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	143	授業科目	算 数 (Mathematics for Elenentary and Preschool Education)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	小教免・幼教免選択必修 保育士証	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目標 (1)算数科の指導内容について、その数学的背景や教育的意義を理解する。 (2)子どもの発達と算数教育の関連性を把握する。 (3)指導内容に関する様々な教授学習活動について考える。 (4)指導内容に応じた授業設計に必要な実践的能力の基礎を養う。						
	2. 授業の内容 ・小幼・小保コースでは、小学校教育実習や実際の授業を念頭においた、授業開発を視野に入れ、各単元の内容の理解と教材開発を目指す。 ・幼保コースでは、小幼連携を念頭に置き、保育での算数的活動が、小学校での学習にどのように結びつくのかを把握し、子どもの成長に見合った保育における算数教材を開発する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① ガイダンス:本講義の概要や目標等について						
	② 算数を学習することの意義						
	③ 子どもの発達と数概念の発達						
	④ 数と計算①:数を用いた遊び						
	⑤ 数と計算②:小数・分数とその計算						
	⑥ 量と測定①:ものの測り方を考えよう						
	⑦ 量と測定②:測れないものはどうやって測るのか						
	⑧ 量と測定③:大きさ;面積・体積						
	⑨ 図形①:さまざまな形						
	⑩ 図形②:空間の認識						
	⑪ 数量関係①:ものとものが関連し合うこと						
	⑫ 数量関係②:関連し合うものの変化						
	⑬ 算数教育の拡張①:他の教科との関連						
	⑭ 算数教育の拡張②:価値観を取り扱う						
⑮ まとめ							
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)						
参考文献等	テキスト 小幼・小保コース:文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版社 幼保コース:文部科学省『幼稚園教育要領』						
備考							
	オフィスアワー	随時:西館412号室					

科目番号	144	授業科目	生活 (Elementary Life Environmen Studies)			担当者	松崎 康弘
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 主に生活科の学習材開発ができる力を培う。学習指導要領等に示される生活科の教育目的を具現化するために、家庭や地域、自然環境等から学習材を見出す眼を養い、また、実際に学習材の製作をできるようにする。						
	2. 授業の内容 生活科の9つの学習内容に即して、実践事例を参照しながら、学習材開発にかかわる講義を行う。また、体験的な学習をとおして、学習材を開発する感性を磨く。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	イントロダクション					
	②	「学校と生活」の学習材開発					
	③	「家庭と生活」の学習材開発					
	④	「地域と生活」の学習材開発					
	⑤	「公共物や公共施設の利用」の学習材開発					
	⑥	「季節の変化と生活」の学習材開発					
	⑦	「自然や物を使った遊び」の学習材開発					
	⑧	「動植物の飼育・栽培」の学習材開発					
	⑨	「生活や出来事の交流」の学習材開発					
	⑩	「自分の成長」の学習材開発					
	⑪	「地域探検」の実践—大学周辺を歩く—					
	⑫	牧場体験学習(1) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)					
	⑬	牧場体験学習(2) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)					
	⑭	牧場体験学習(3) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)					
⑮	まとめ						
成績評価	試験またはレポートを課す。また、受講態度等を加味する。 (試験・レポート=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版） 参考文献は講義中に適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	145	授業科目	音楽Ⅲ (MusicⅢ)			担当者	中村 礼香 稲森 奈津子
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児教育の現場における音楽的表現の理論やピアノ伴奏法などの演習(45分)とピアノ実技の個別指導(45分)を行い、保育者としての資質を高める。						
	2. 授業の内容 (1) 幼児音楽教育についての理論と子どもの歌唱教材を用いての演習(45分) (2) ピアノ実技の個別指導(45分)						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 歌唱法Ⅰ / 4月のうた 及びピアノ個人指導						
	② 歌唱法Ⅱ / 5月のうた 及びピアノ個人指導						
	③ 歌唱法Ⅲ / 6月のうた 及びピアノ個人指導						
	④ 簡易楽器奏法 / 7・8月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑤ コードネームの基礎Ⅰ / 9月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑥ コードネームの基礎Ⅱ / 10月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑦ 即興的な伴奏法Ⅰ / 11月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑧ 即興的な伴奏法Ⅱ / 12月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑨ 即興的な伴奏法Ⅲ / 1月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑩ 即興的な伴奏法Ⅳ / 2・3月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑪ 器楽アンサンブルⅠ / 生活指導のうた 及びピアノ個人指導						
	⑫ 器楽アンサンブルⅡ / 集団遊びのうた 及びピアノ個人指導						
	⑬ ボディーパーカッションⅠ 及びピアノ個人指導						
	⑭ ボディーパーカッションⅡ 及びピアノ個人指導						
⑮ 弾き歌い試験 及びピアノ実技試験の個人指導							
成績評価	① 平常点(25%)、弾き歌い試験(25%)、ピアノ試験(50%) ② 弾き歌い試験は幼児曲・小学校教材曲の中から任意の一曲を暗譜で演奏する ③ ピアノ試験はクラシックの曲の中から任意の一曲を暗譜で演奏する						
参考文献等	テキスト 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ソナチネアルバム、ブルグミュラー等のピアノ教則本						
備考							
	オフィスアワー	随時(中村研究室)					

科目番号	146	授業科目	児童の健康と保健 (Child Health)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択	小教免・幼教免選択	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小児の保健について総論的に学び、特に学童期の子どもの健康保持・増進のための保健活動については、学校保健活動の目標にそって学習する。さらに、現代の子どもが生活している環境や社会状況から生じる健康問題についても掘り下げ、健康教育のあり方を学ぶ。						
	2. 授業の内容 小児保健総論 学校保健活動 子どもの健康問題						
授業計画	3. 授業計画						
	①	小児期の範囲と区分、小児の成長					
	②	生理機能の発達					
	③	運動機能の発達					
	④	精神発達					
	⑤	小児の栄養					
	⑥	小児に関する統計と小児(母子)保健行政					
	⑦	小児の事故と対策					
	⑧	学校保健の領域構造、学校保健計画、学校における保健管理(健康診断)					
	⑨	健康観察、健康調査、健康相談					
	⑩	小児の健康と環境					
	⑪	生活習慣病					
	⑫	保健教育①(喫煙・飲酒・薬物乱用防止)					
	⑬	保健教育②(命の大切さ、性教育)					
	⑭	小児期の感染症					
⑮	予防接種と学校伝染病予防措置						
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	単位互換対象科目						
備考							
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	147	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)			担当者	松元 理恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教	講義	2	選択	小教免・幼教免必修 ピアヘルパー試験受験必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 現代社会の変容の中で、幼児、児童、生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向もみられます。また近年の子どもの健康に与える家庭の教育力や地域の機能の低下等を概観し、教師としてそれらの子ども・家族・関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学びます。						
	2. 授業の内容 教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を学びながら、問題を抱える子どもの心理状態を把握・理解し、その具体的なかかわり方について話し合います。また、自己理解や他者理解を深めるエクササイズを実施し、その経験をこれからの相談活動に役立てます。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教育相談の理論と方法						
	② 現代生きる子ども達～子どもの行動をどう理解するか						
	③ 子どもの発達理解と相談・支援～乳児期・幼児期						
	④ 子どもの発達理解と相談・支援～学童期・思春期						
	⑤ 子どもの不適応行動とその心理～いじめに対する支援手順						
	⑥ 子ども不適応行動とその心理～集団不適応、非社会的行動(不登校等)に対するかかわり方						
	⑦ 子ども不適応行動とその心理～情緒障害、反社会的行動(逸脱行動等)に対するかかわり方						
	⑧ 保護者への対応～親子の関係づくり、「親育ち」のための発達支援						
	⑨ 保護者への対応～保護者の要望と方針との間で						
	⑩ 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり						
	⑪ 子どもの発達とアセスメント						
	⑫ 虐待について(身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待)						
	⑬ 危機に直面した子どもと心のケア						
	⑭ 教育相談の具体的方法～カウンセリングの基本事項、傾聴(ロールプレイング)						
⑮ 社会資源の活用～関係機関を知る							
成績評価	筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	148	授業科目	情報機器演習 (Computer exercise)			担当者	瀬戸 博幸
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	2	選択	小教免・幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 コンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、デジカメで写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固める。						
	2. 授業の内容 コンピュータの基礎を確認した上で、インターネットの使い方を考える。さらに、園だよりや指導案を作成できるようWordやExcelの操作に取り組む。						
授業計画	3. 授業計画						
	① コンピュータの基本操作						
	② インターネットの歴史						
	③ 電子メール						
	④ ホームページを作ってみよう						
	⑤ ホームページに写真を載せよう						
	⑥ Wordを使うその1						
	⑦ Wordを使うその2						
	⑧ Wordを使うその3						
	⑨ Wordを使うその4						
	⑩ Excelを使うその1						
	⑪ Excelを使うその2						
	⑫ WordとExcelの連携						
	⑬ PowerPoint						
	⑭ 最終レポート その1						
⑮ 最終レポート その2							
成績評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考文献等	テキスト 実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応 noa出版						
備考							
	オフィスアワー	随時(西417 瀬戸研究室)					

科目番号	149	授業科目	保育臨床 (Clinical Nursery Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	幼教免・小教免必修 保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児期・児童期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児・児童に現れる反社会的問題行動、非社会的問題行動、習癖、神経症的な問題行動などに関する理解を深めます。その上で、それらの問題を抱えた幼児・児童に対してどのように対応するかを、自ら根拠に基づいて考えられるようになることを目標とします。						
	2. 授業の内容 基本的に、以下の授業計画に沿って授業担当者が作成したプリントを用いて授業をおこないます。講義では要所で仮定の事例を提示します。その際、事例の呈している問題をどのように理解し、どのように対応していくかを考え、必要に応じて発表してもらいます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション / 保育臨床とは						
	② 子どもの育ち ① (現代社会と子どもの育ち)						
	③ 子どもの育ち ② (幼児期の発達と遊び)						
	④ 保育者の役割と専門性 ① (臨床心理学的な視点)						
	⑤ 保育者の役割と専門性 ② (保育臨床の実践)						
	⑥ 保育者の役割と専門性 ③ (観察と記録、保育者の資質向上を目指した取り組み)						
	⑦ 年少児の問題行動の理解 ① (反社会的行動:盗み、暴力、いじめ、虚言)						
	⑧ 年少児の問題行動の理解 ② (非社会的行動:緘黙、登園拒否、孤立)						
	⑨ 年少児の問題行動の理解 ③ (神経症的行動:チック、爪かみ、指しゃぶり、抜毛)						
	⑩ 年少児の問題行動の理解 ④ (食事、排泄、睡眠に関わる問題行動)						
	⑪ 広汎性発達障害児の理解						
	⑫ 発達障害児の理解(注意欠陥多動性障害、学習障害について)						
	⑬ 保育現場でぶつかる様々な問題 ① (保育の組み立て、子どもへの対応、保護者への対応)						
	⑭ 保育現場でぶつかる様々な問題 ② (実習中の指導・援助、子どもの対応へのわからなさ、園や保育者との関わり)						
⑮ 授業のまとめと質疑応答							
成績評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)						
参考文献等	(参考文献) 小田豊・他(編著)「新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談」北大路書房 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	発達心理学は基本となるので、しっかり復習して授業に臨んで下さい。						
	オフィスアワー	研究室にて随時行います。					

科目番号	150	授業科目	発達心理学Ⅱ (Developmental psychology Ⅱ)			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもの発達と保育の関係や重要性について理解を深める。 特に乳幼児期を中心に ①発達の概観②認知、対人・社会性、動機づけや自己制御の発達 ③子ども集団と保育の関係④生活と遊びを通じて育つもの ⑤発達評価とその意味⑥発達援助の在り方 と連携の必要性などについて学ぶ。						
	2. 授業の内容 以下の授業計画に沿って行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 乳幼児の定義と発達の特徴						
	② 発達の始まり:胎児期～新生児期～乳児期						
	③ 中枢神経系の成熟と運動発達、相互作用の重要性						
	④ 情動・情緒・感情の発達と意欲・動機づけ						
	⑤ 認知・思考の発達:ピアジェ理論を中心に						
	⑥ 言語の発達						
	⑦ 社会性と道徳性の発達						
	⑧ 自己抑制:自律はどのように育つか						
	⑨ 個人内差と個人差						
	⑩ 発達の援助と集団保育①生活と遊び						
	⑪ 発達の援助と集団保育②発達課題に即した保育と援助						
	⑫ 発達をつまづきと発達検査・発達診断						
	⑬ ささまざまな援助の方法①プレイセラピーほか						
	⑭ ささまざまな援助の方法②援助の場とあり方						
⑮ 保護者と保育者の連携							
成績評価	試験						
	筆記試験は90分で実施 試験80% 受講態度20%						
参考文献等	参考文献 ①1年次のテキスト ②乳幼児心理学を愉しむ 宮原和子・宮原英種 著 ナカニシヤ出版 ほか適宜紹介する						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	151	授業科目	家族関係論 (Family Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ・社会の動きにともなう家族の変化を理解する。 ・家族を多角的に捉える視点を身につける。 ・教育現場や医療現場で状況に応じた柔軟な対応ができる態度を身につける。						
	2. 授業の内容 この授業では、前半で、家族に関わる出来事や社会的現象について、普段、一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉えることを通して、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す作業を行う。そして後半では、主に親子関係や子どもの社会化、少子化や子育て支援など子どもをめぐる家族関係や社会情勢、制度など、教育職や保育職に就く上で必要な事項を学ぶ。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 家族とは何か—アンケートからの考察						
	② 家族の特性・定義						
	③ 家族の類型						
	④ 家族の変動(1) 家族と全体社会の変動・家族変動の諸側面						
	⑤ 家族の変動(2) 産業化と戦後家族の変動						
	⑥ 家族の変動(3) 家族変動の行方						
	⑦ 現代の家族問題						
	⑧ 多様化する家族						
	⑨ 家族周期と親子関係						
	⑩ 子どもの社会化と親子関係(1)						
	⑪ 子どもの社会化と親子関係(2)						
	⑫ 少子化と子育て支援(1) 少子化						
	⑬ 少子化と子育て支援(2) 子育て支援						
	⑭ 少子化と子育て支援(3)						
⑮ 授業のまとめ、質疑							
成績評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 木下謙治ほか編『新版 家族社会学—基礎と応用』九州大学出版会 2008年 参考文献 井上眞理子編『現代家族のアジェンダ—親子関係を考える』世界思想社 2004年 厚生労働省『子ども・子育て白書』ほか授業中に紹介 一部視聴覚教材(DVD)使用						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	月・火・金曜日 随時(研究室)					

科目番号	152	授業科目	教師と法 (Teachers and Laws)			担当者	池田 哲之
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校教育制度を支える基本とは何か。教員か、予算か、それとも校舎等の施設・設備か。たしかにそれらも学校教育制度にとってなくてはならない要素であるが、じつは、学校教育制度の維持成立に不可欠なのが「教育法令」という要素である。たとえば学校教育法がなければ、小・中学校等の学校はその制度的な存在基盤を欠くこととなり、教壇に立つ者には教員免許の取得が求められるのも教育職員免許法の規定ゆえである。当講義の目標は、学校教育を支えるそれら法令知識の徹底習得である。						
	2. 授業の内容 当講義では、学校教育上の重要法令に焦点を絞って担当教員が作成した自答式プリントによる演習を通じ、それら法令の基本知識を確実なものとし、あわせて法令運用能力の涵養も図ってゆくこととする。なおプリントの作成・解説に当たっては、平成18年に成立した新教育基本法の理念・特色を念頭に入れながら、小学校教員採用試験への特別対策的講座の意味合いももたせたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 日本国憲法の基本理念						
	② 教育権と学習権						
	③ 旧教育基本法の基本理念						
	④ 新教育基本法の基本理念－旧教育基本法との対比から－						
	⑤ 学校制度の基本Ⅰ－学校教育法を中心に－						
	⑥ 学校制度の基本Ⅱ－学校教育法施行規則を中心に－						
	⑦ 学校制度の基本Ⅲ－平成20年版小学校学習指導要領中心に－						
	⑧ 地方公務員法Ⅰ－公務員の義務・責任－						
	⑨ 地方公務員法Ⅱ－公務員の分限・懲戒－						
	⑩ 教育公務員の研修－教育公務員特例法から－						
	⑪ 地方教育行政法Ⅰ－教育委員会制度－						
	⑫ 地方教育行政法Ⅱ－国と地方教育行政の関係－						
	⑬ 地方教育行政法Ⅲ－教員の人事－						
	⑭ 教員の養成－教育職員免許法から－						
⑮ 学校の安全配慮義務－具体的事件の考察より－							
成績評価	レポートの内容(50%)および受講姿勢(50%)の総合評価による。受講姿勢のかんばしくない者は、注意の程度・回数により減点する場合がある。						
参考文献等	テキストは使用しない(予定)。						
備考							
	オフィスアワー	随時。鹿児島県ほかの教員採用試験受験を考える者の相談・指導には、情報提供を含め積極的に応じる。					

科目番号	153	授業科目	理科教育法 (Teaching Method of Natural Science)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 見通しを持った観察や実験を行う段階で、子どもの学習の構造化の一貫性を考慮した指導内容について理解する。実際に行うであろう実験棟もふまえて再理解へとつなげ、活動するための実践について考える。						
	2. 授業の内容 子どもの学習活動を支援するために必要な基礎的な知識や技能を身につける。また、子どもの学習の実態に即した指導の内容と方法および評価の方法について考える。また、他の学習時間との関わりについてもふれる。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 小学校理科教育の目標と内容						
	② 領域の内容 A区分 B区分の取り扱い						
	③ 第3学年の目標と内容(A区分)						
	④ 第3学年の目標と内容(B区分)						
	⑤ 第4学年の目標と内容(A区分)						
	⑥ 第4学年の目標と内容(B区分)						
	⑦ 第5学年の目標と内容(A区分)						
	⑧ 第5学年の目標と内容(B区分)						
	⑨ 第6学年の目標と内容(A区分)						
	⑩ 第6学年の目標と内容(B区分)						
	⑪ 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い						
	⑫ 学習指導案の作成方法と具体例(1)						
	⑬ 学習指導案の作成方法と具体例(2)						
	⑭ 学習指導案の作成方法と具体例(3)						
⑮ 総括							
成績評価	作成した指導案(70%)および受講態度(30%)によって評価する						
参考文献等	参考文献は講義中適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	随時(横峯研究室)					

科目番号	154	授業科目	音楽科教育法 (Teaching Method of Music for Elementary School)			担当者	新村 元植
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 (1) 小学校音楽科の目標及び内容について理解を深める。 (2) 模擬授業を通して具体的に教材を研究し、指導計画や指導法について研究する。						
	2. 授業の内容 (1) 3名のグループでそれぞれ20分程度の模擬授業を実施する。 (2) 小学校音楽科における教材、指導案、模擬授業を研究する。 (3) 小学校学習指導要領音楽編を研究する。 (4) コードネームによる簡易伴奏法を研究する。						
授 業 計 画	3. 授業計画(授業の後半)						
	① 教材曲を使用したコードネーム作成練習1						
	② 教材曲を使用したコードネーム作成練習2						
	③ 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習1						
	④ 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習2						
	⑤ 小学校学習指導要領音楽編の研究1(新学習指導要領が目指すものとその変更点)						
	⑥ 小学校学習指導要領音楽編の研究2(子どもの音楽的発達と新指導要領)						
	⑦ 音楽授業指導の研究1(指導計画の作成と領域の取り扱い)						
	⑧ 音楽授業指導の研究2(音楽科授業の具体的指導ポイント)						
	⑨ 音楽授業指導の研究3(歌唱活動、器楽活動授業をどのように展開するべきか)						
	⑩ 音楽授業指導の研究4(身体表現活動、創作活動授業をどのように展開するべきか)						
	⑪ 音楽授業指導の研究5(1・2学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑫ 音楽授業指導の研究6(3・4学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑬ 音楽授業指導の研究5(5・6学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑭ 総合的演習1						
⑮ 総合的演習2							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編) 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	随時(新村研究室);要事前連絡					

科目番号	155	授業科目	図画工作科教育法 (Teaching method of drawing and manual arts)			担当者	井上 周一郎 松下 茉莉香	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 幼児期から児童期における造形表現活動を考察する。							
	2. 授業の内容 ①各学年の教育目標に基づいた内容、児童期の造形表現の発達段階を理解する。 ②多様な実験や作品制作を通して、造形表現の基礎的技能を習得する。 ③表現の魅力を味わい、指導のあり方について考察を深める。 ④教員採用試験に応じた知識を学ぶ。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	「クロッキー・デッサンに取り組む～感じて描く～」					(井上)	
	②	彫塑表現Ⅰ「紙粘土制作～心棒作りから荒付け～」					(井上)	
	③	彫塑表現Ⅱ「紙粘土制作～成形から仕上げ～」					(井上)	
	④	図画工作科教育の目的と意義を学習					(井上)	
	⑤	自然物からの発想と制作法について学ぶ					(井上)	
	⑥	彫刻表現Ⅰ「石彫制作～発想から荒彫り～」					(井上)	
	⑦	彫刻表現Ⅱ「石彫制作～成形から仕上げ～」					(井上)	
	⑧	「造形遊び」と「工作に表す」の特質と指導の在り方を学習					(井上)	
	⑨	絵画表現の実験制作と指導の在り方について	水彩絵の具を用いた風景画の制作			(松下)		
	⑩	(遠近法について・構図の組み方・形の捉え方を学ぶ)					(松下)	
	⑪	(様々な表現技法について・描画材の特徴を考察)					(松下)	
	⑫	児童期の描画表現の発達と指導の在り方について					(松下)	
	⑬	版画表現の実験制作と指導の在り方について	一版多色版画を用いた実験制作			(松下)		
	⑭	(版画の種類・道具の扱い・表現技法について学ぶ)					(松下)	
⑮	児童期の版画表現の指導の在り方について	小学校図画工作科の指導案作成に関して			(松下)			
成績評価	出席回数と受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)							
参考文献等	随時資料を配布 参考文献:「新学習指導要領による 図画工作科教育法」 大学美術教育教育法研究会編著 日本文教出版							
備考								
	オフィスアワー							

科目番号	156	授業科目	家庭科教育法 (Teaching Method of Home Economics)			担当者	篠原 祝子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 小学校における家庭科を指導するために必要な基本的知識や指導法を学び、模擬授業を通して授業実践力を育成することをねらいとする。						
	2. 授業の内容 新しい学力観に立ち、家庭科の目標をふまえ、学習指導要領に示された内容をもとに、学習指導計画を立案し、模擬授業および授業研究を行い授業の進め方について考察する。また、実習を取り入れた学習の指導法や評価のあり方についても検討していく。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 家庭科教育の意義・歴史						
	② 家庭科の目標・内容						
	③ 家庭科の内容(A)						
	④ 家庭科の内容(B)						
	⑤ 家庭科の内容(C)						
	⑥ 家庭科の内容(D)						
	⑦ 学習指導法						
	⑧ 家庭科の評価、家庭科の施設・設備						
	⑨ 学習指導計画						
	⑩ 学習指導案の作成						
	⑪ 授業計画と教材研究						
	⑫ 模擬授業発表1						
	⑬ 模擬授業発表2						
	⑭ } 被服実習(小物づくり)						
⑮ }							
成績評価	受筆記試験(60分で実施)40%・課題レポート40%・受講態度20%の総合評価						
参考文献等	○テキスト・・・『わたしたちの家庭科 小学校5・6』開隆堂 文部科学省著・小学校学習指導要領解説 家庭編・株式会社東洋館出版社 ○参考文献・・・小学校家庭科の指導・中間美佐子, 多々納道子・建帛社 ○視聴覚機器 ビデオVHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	157	授業科目	道徳教育の研究 (Study of Moral Education)			担当者	村若 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ①「道徳」とは何かについて、自分なりの考えをもつ。 ②道徳教育の必要性と同時に、その難しさを具体的に理解する。 ③子どもの道徳的発達について理解する。 ④「道徳の時間」の指導案を作り、授業することができる。 ⑤日本の道徳教育の歴史を知り、その問題点を理解する。						
	2. 授業の内容 「道徳」とは何かという問いに始まり、日本の道徳教育の歴史を学んだ上で、「道徳」の授業のあり方、その他の科目を含め、学校生活のなかで行われる道徳教育の実践などについて考えていきます。その中ではまた、子どもの道徳性の発達にも配慮し、年齢に応じた教育内容を考えます。模擬授業もできるだけ取り入れ、実践的な授業を行います。						
授業計画	3. 授業計画						
	①「道徳」とは何か、「道徳」は教えられるか						
	②日本の道徳教育の歴史(1)						
	③日本の道徳教育の歴史(2)						
	④世界各国の道徳教育(1)						
	⑤世界各国の道徳教育(2)						
	⑥道徳性の発達(低学年)						
	⑦道徳性の発達(中学年)						
	⑧道徳性の発達(高学年)						
	⑨道徳教育の理論						
	⑩「道徳の時間」の指導						
	⑪家庭生活と道徳教育						
	⑫学校生活と道徳教育						
	⑬社会生活と道徳教育						
	⑭倫理学と道徳教育						
⑮道徳教育の可能性							
成績評価	基本的に期末テストによりますが、感想文や提出物等を評価に加味します。 学期末テスト(80点) 提出物(感想文等)(20点)						
参考文献等	テキスト: 吉田武男他著『道徳教育の変成と課題 「心」から「つながり」へ』学文社						
備考							
	オフィスアワー	火曜日					

科目番号	158	授業科目	特別活動の研究 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は初等教諭2種免許状の必修科目である。本講義では、学習指導要領に常に依拠しながら、子どもの調和的な発達に特別活動がどのように関わり、どのように指導していくかを考える。						
	2. 授業の内容 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。また、道徳の時間等との関連性も含め、学校での教師の活動全体に関わる特別活動の位置づけも考えていきたい。下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 特別活動とは？－その変遷、概略的内容						
	② 特別活動で望まれるもの(I)－集団の一員としての自覚、好ましい人間関係など						
	③ 特別活動で望まれるもの(II)－社会生活上の基本的モラルの習得、自主的態度など						
	④ 特別活動で望まれるもの(III)－日本人としての自覚と国際協調の精神の涵養など						
	⑤ 小中学校学習指導要領の比較						
	⑥ 学級活動について						
	⑦ 学級活動について－その内容と事例研究(I)						
	⑧ 学級活動について－その内容と事例研究(II)						
	⑨ 児童会活動について						
	⑩ 児童会活動について－その内容と事例研究						
	⑪ クラブ会活動について－その内容と事例研究						
	⑫ 学校行事について(I)－子どもの成長に対する行事の持つ意味						
	⑬ 学校行事について(II)－具体的な学校行事とその事例研究						
	⑭ 特別活動の新しい実践課題と具体策						
⑮ まとめ							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、随時紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	159—①	授業科目	教育課程・保育課程 (Curriculum Research)			担当者	坪井 敏純
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	児教 (小幼・小保)	講義	2	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 教育課程・保育課程についてその意義・目的及び編成に関する基本的な考え方を理解し、教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について学ぶ。						
	2. 授業の内容 ①教育課程・保育課程の意義や基本的な原理 ②教育課程の編成について具体的な事項 ③保育計画(指導計画)の作成と評価 ④教育課程・保育課程の実践から評価・改善のあり方						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	カリキュラムの基礎理論					
	②	教育課程・保育課程の意義と歴史的変遷					
	③	教育課程・保育課程の編成と構造1					
	④	教育課程・保育課程の編成と構造2					
	⑤	教育課程・保育課程の編成と構造3					
	⑥	教育課程・保育課程の編成の留意事項1					
	⑦	教育課程・保育課程の編成の留意事項2					
	⑧	保育計画の実際と作成・展開1(保育の省察と記録)					
	⑨	保育計画の実際と作成・展開2					
	⑩	保育所以外(認定こども園など)の保育の計画と評価					
	⑪	指導要録と保育要録					
	⑫	特別支援教育と教育課程・保育課程					
	⑬	保育の評価(保育所及び保育士)と学校評価(幼稚園・小学校)1					
	⑭	保育の評価(保育所及び保育士)と学校評価(幼稚園・小学校)2					
⑮	教育課程・保育課程の評価と改善						
成績評価	①講義で出された課題(レポート等)(15%) ②筆記試験(70%) ③受講態度(15%)						
参考文献等	テキスト;未定 保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 資料を配布するのでファイリングすること 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	時間は最初の講義で伝える					

科目番号	159-②	授業科目	教育課程・保育課程 (Curriculum Research)			担当者	小津 草太郎
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (幼保)	講義	2	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育課程や教育課程、各保育計画の意義と種類、構成について基本的な学習をおこなった後、0歳から6歳までの子どもの発達の特徴と生活や遊びについて理解を深めながら、長期的な計画の内容と構成について学習する。 さらに、実際に教育課程や保育課程のサンプルを分析しながら、そこに込められた意味を読み取ったり、自ら作成する力を養うことを目標とする。						
	2. 授業の内容 授業は以下の計画に沿っておこなう。 保育課程・教育課程の意義、他の保育計画との関連性などを理解した後、子どもの発達に関連づけて各年齢期における長期的な計画のあり方について学習する。その後、教育課程や保育課程について具体的な事例を分析・考察しながら、その基本的様式や内容のあり方について理解を深める。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① オリエンテーション (カリキュラムの定義と保育計画の意義について)						
	② 保育課程・教育課程： 保育の計画全体における位置づけ						
	③ 保育課程・教育課程と保育計画 (長期指導計画, 短期指導計画)						
	④ 保育所保育指針・幼稚園教育要領との関連性						
	⑤ 保育課程・教育課程の実際 (見本資料の分析)						
	⑥ 保育課程・教育課程編成の実際 (基本的手順, 編成のための留意事項, 園の独自性)						
	⑦ 子どもの発達と保育の計画 (1) : 0歳から1歳3ヵ月未満児						
	⑧ 子どもの発達と保育の計画 (2) : 1歳3ヵ月から2歳未満児						
	⑨ 子どもの発達と保育の計画 (3) : 2歳児						
	⑩ 子どもの発達と保育の計画 (4) : 3歳児						
	⑪ 子どもの発達と保育の計画 (5) : 4歳児						
	⑫ 子どもの発達と保育の計画 (6) : 5歳児						
	⑬ 3歳未満児および特別支援教育における個別指導計画						
	⑭ 異年齢保育および認定こども園における保育計画, その他の保育計画						
⑮ 保育課程・教育課程の評価と見直し							
成績評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況 (20%程度) 2. 学期末ノート提出 (30%程度) 3. 学期末レポート課題 (50%程度) 以上による総合評価とする。						
参考文献等	[テキスト] 金村 美千子(編)「新保育課程・教育課程論」 同文書院 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター						
備考	オフィスアワー 授業時間の前後, あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	160-①	授業科目	保育内容(表現Ⅱ) (Childcare content (RepresentationⅡ))			担当者	小松 恵理子
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期 2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	授業の目標 本授業では、領域「表現」において、特に幼児の自発性・好奇心を重視した遊びや体験活動を取り入れた「運動による表現活動(身体表現)」を通して、幼児の豊かな感性や創造性、ひいては生きる力の基礎を育成する支援の在り方について、どうあるべきかを考える。						
	2. 授業の内容 VTRや教科書を通じて、身体表現指導の基礎的理論び、日常の保育から発表会・運動会までの模擬保育を体験し保育現場での実践力を養う。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 指導要領・保育指針と「領域 表現」とのについて						
	② 幼児の身体表現の実際と発達について(VTR視聴)						
	③ 身体表現指導の基礎理論について						
	④ 身体表現指導の実際1 (模擬保育) 歌遊び・手遊びから表現へ						
	⑤ 身体表現指導の実際2 (模擬保育) 歌遊び・手遊びから表現へ						
	⑥ 身体表現指導の実際3 (模擬保育) 様々な素材から表現へ						
	⑦ 身体表現指導の実際4 (模擬保育) 様々な素材から表現へ						
	⑧ 身体表現指導の実際5 (模擬保育) 季節・生活から表現へ						
	⑨ 身体表現指導の実際6 (模擬保育) 季節・生活から表現へ						
	⑩ 身体表現指導の実際7 (模擬保育) 空想・物語から表現へ						
	⑪ 身体表現指導の実際8 (模擬保育) 空想・物語から表現へ						
	⑫ 身体表現指導の実際9 (模擬保育) オペレッタから表現へ(伴奏音編集及び演出方法を含む)						
	⑬ 身体表現指導の実際10 (模擬保育) オペレッタから表現へ						
	⑭ 身体表現指導の実際11 (模擬保育) 自由な課題から表現へ(伴奏音編集及び演出方法を含む)						
⑮ 身体表現指導の実際12 (模擬保育) 運動会での表現活動へ							
成績評価	実技試験						
	受講態度(10%)・授業中の課題発表・レポート・実技試験等(90%)を総合して評価する。						
参考文献等	井上勝子編著:「新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び」(株)ぎょうせい						
備考	単位互開放対象科目						
	オフィスアワー						

科目番号	161	授業科目	小学校教育実習指導 (Guidance for Teaching Practice for Elementary School)			担当者	松崎 康弘 内田 豊海
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	1	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 6月に実施される小学校教育実習を履修するに当たって必要な知識・技能・態度を養う。具体的には、 ① 小学校教育実習の意義・目的を正しく理解し、ふさわしい態度で実習に臨めるようにすること。 ② 授業実習に必要な指導案作成能力や授業技術、観察力を培うこと。 ③ 生活指導等に必要な知識・技能を理解すること。 ④ 実習の成果を今後の進路に生かそうとする態度を養うこと。である。						
	2. 授業の内容 実習までの7回で、実習に必要な知識・技能を学ぶ。また、実習終了後に「事後指導」を行い、実習の反省を行うとともに、今後の進路選択のための指導を実施する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教育実習の意義と目的(松崎・内田)						
	② 教育実習の準備について(松崎・内田)						
	③ 教育実習の展開について ―観察実習から参加実習へ― (松崎・内田)						
	④ 学習指導案の作成について(松崎・内田)						
	⑤ 授業実習への取り組み方について(松崎・内田)						
	⑥ 生活指導等への取り組み方について(松崎・内田)						
	⑦ 教育実習生としてのマナー(松崎・内田)						
	⑧ 実習事後指導(松崎・内田)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートを課す。受講態度等を加味する。(レポート=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキストとして本学作成の『教育実習の手引』を使用する。 参考文献は講義中に適宜指示する。						
備考	オフィスアワー 随時(要事前連絡)						

科目番号	162	授業科目	小学校教育実習 (Teaching Practice for Elementary School)			担当者	松崎 康弘
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保)	実習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 人間を育てる教師という仕事の責任の重大さと、楽しさややりがいを感じたい。 ② 授業の進め方や子どもとの関係づくりなど、教師という仕事にふさわしい知識や技術を学ぶ。 ③ (小学校)教師になりたいという意欲を再確認し、自分の進路選択、人生についてよく考えるとともに、自分なりの教師観を作り上げる。						
	2. 授業の内容 実習校のご指導の下、教育活動の参加・観察、授業実習、学級経営への参加(生徒指導についての実習)、子どもたちとの交流などを行う。また、実習校の先生方から、小学校教育に関わる各種の講話を聴講する						
授業計画	3. 授業計画						
	①	10日間の実習は、実習校の計画・ご指導の下行われるが、概ね下記の内容となる。					
	②	第1週は授業参観(観察)が中心となるケースが多い。各教科等、各学年の授業を参観しながら、教師の授業展開や技術を学ぶとともに、子どもたちの実態をつかんでいく。また、実習担当教諭から学習指導案作成などの指導を受け、教材研究などの形で授業実習の準備を積んでいく。そして、第1週の後半ごろから、実習生が実際に1単位時間の授業を行う授業実習が開始される。					
	③	第2週にも授業参観(観察)及び授業実習が行われる。授業実習の総仕上げ的なものが「評価授業」(「研究授業」)で、実習生の授業に対する努力が表れる。授業実習の後には授業研究会(反省会)が行われ、実習担当教諭や参観者からさまざまな指摘・ご指導を受けることになる。					
	④	教科等の授業以外に、学校行事への参加を求められるケースも多く、クラス担任の補助をしながら子どもたちにかかわる。学級経営に関しては、講話の形で諸担任教諭等による指導を受けるとともに、実際にクラスにおいて実務に携わり、その目的や方法を学ぶ。給食指導や清掃指導、朝の会・帰りの会などの指導をとおして、その役割を理解する。校長・教頭をはじめ実習校の先生方から学校経営等に関する講話を聴講し、学校教育に対する理解を深める。					
	⑤	実習校の教育方針や年間指導計画、校務分掌などについての理解が求められる。イントロダクション					
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	各実習校が知識・技能・態度に関する本学所定の項目について評価を行い、それをもとに本学で単位認定する。(100%)						
参考文献等	本学作成の『教育実習の手引』を参照すること。						
備考							
	オフィスアワー	随時(要事前連絡)					

科目番号	163	授業科目	幼稚園教育実習Ⅱ指導 (Guidance for Teaching Practice for Preschool Ⅱ)			担当者	山元・松崎・井上
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/幼保)	講義	1	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱについての事前・事後指導である。1年次の基本実習をベースに、各自が実習に向けての意欲や問題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができるように心から願うものである。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 教育実習の意義と目的(松崎・内田)						
	② 教育実習の準備について(松崎・内田)						
	③ 教育実習の展開について ―観察実習から参加実習へ― (松崎・内田)						
	④ 学習指導案の作成について(松崎・内田)						
	⑤ 授業実習への取り組み方について(松崎・内田)						
	⑥ 生活指導等への取り組み方について(松崎・内田)						
	⑦ 教育実習生としてのマナー(松崎・内田)						
	⑧ 実習事後指導(松崎・内田)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートの提出を義務づける。(80%) また、受講態度を重視する。(20%)						
参考文献等	本学作成の「教育実習の手引」を毎回持参すること。また、毎回プリントを配布するので、ファイルして熟読すること。						
備考	幼稚園教育実習Ⅱを履修(再履修等を含む)する者は必ず本科目を履修すること。この事前指導により、実習参加を最終決定するので注意すること。						
	オフィスアワー	火曜日及び授業時を除く随時。ただし要事前連絡。(松崎研究室)					

科目番号	164	授業科目	幼稚園教育実習Ⅱ (Teaching Practice for PreschoolⅡ)			担当者	松崎・山元・井上
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/幼保)	実習	2	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実践現場での実習を通して、以下の目的を達成する。 ①子ども達との遊びやふれあいを通して子どもを知る。 ②子どもとの関わり方を学ぶ。 ③保育の実践技術・技能を高める。 ④職員のチームワークを理解する。 ⑤保育の専門家としての資質を高める。 ⑥社会的な保育ニーズ、近年の幼稚園を取り巻く状況について理解する。 (以上、「教育実習の手引き」参照。)						
	2. 授業の内容 各実習園のご指導のもと、担当保育、評価(研究保育)、保護者や来客者との接触などを通して、上記の日標を達成する。幼稚園教育実習Ⅰと比べて参加実習の比重が大きいと考えられる。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	原則として幼・保コースは6月、小・幼コースは9月上旬～中旬の10日間の日程で実習は行われる。					
	②	実習の展開については、各実習園の指示に従うが、本学としては下記のような一応の目安がある。					
	③	第1段階では観察を中心とした実習を行い、配属されたクラスの1日の流れをつかみ、保育のねらい					
	④	や計画を理解し、教師(保育者)の教育方針(保育方針)を理解する。子ども一人ひとりを知ること					
	⑤	も大事な課題である。ただし、この段階は基本実習で行われるため、本実習では略されることも多い。					
	⑥	第2段階では、担当クラスの保育に参加しながら、教育課程・指導計画のねらいや計画を知る。担					
	⑦	当保育、評価(研究)保育の基礎となる経験を積み上げていく。					
	⑧	第3段階では、担当クラスの指導計画に沿いながら、かつそれらとの関連性を十分に配慮した上で					
	⑨	創意工夫のある指導計画を作成し、それらを実践・展開する。					
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	各実習園が保育の実践に関わる技能や実習記録・指導案などの状況、実習態度などに関する本学所定の項目について評価を行い、それをもとに本学で単位認定する。(100%)						
参考文献等	本学作成の「教育実習の手引」を参照すること。また、各実習園で参考文献等が提示される場合があるので、必ず参照すること。						
備考	所定の条件(実習指導の履修や必要書類の提出、事前指導への参加など)を満たしていない場合、実習に参加できないので注意すること。						
	オフィスアワー	火曜日及び授業時を除く随時。ただし要事前連絡。(松崎研究室)					

科目番号	165	授業科目	社会的養護 (Social Care)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本授業は、下記の5点の達成を目指す。 (1) 社会的養護の意義や歴史から、現状や背景等を理解する。 (2) 社会的養護の体系や児童福祉施設等の関連性及び役割に関して理解する。 (3) 児童福祉施設等における社会的養護の実際に関して理解する。 (4) 社会的養護における児童の人権擁護及び保育士の役割等に関して理解する。 (5) 社会的養護の課題について理解する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 講義ガイダンス、保育における社会的養護とは						
	② 社会的養護の歴史						
	③ 社会的養護の基本原則						
	④ 社会的養護の原則・理論						
	⑤ 子育て家庭の現状と社会的養護						
	⑥ 社会的養護の対象と領域Ⅰ・Ⅱ						
	⑦ 社会的養護の対象と領域Ⅲ・Ⅳ						
	⑧ 社会的養護の対象と領域Ⅴ						
	⑨ 社会的養護の体系と運営						
	⑩ 社会的養護の専門職						
	⑪ 社会的養護の形態と働き方						
	⑫ 子どもの権利擁護						
	⑬ 児童福祉施設の援助者としての資質と倫理						
	⑭ 社会的養護の課題						
⑮ まとめ							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。					

科目番号	166	授業科目	子どもの保健Ⅲ (Child Health Ⅲ)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 子どもが心身共に健やかに育っていくために、保健管理の実際について具体的に学ぶ。また、子どもが生活している自然環境とそこでの健康上の問題点を理解し、健康を維持増進するための援助を考える。さらに、家庭や社会環境における課題についても理解を深め、社会資源を活用した支援を学ぶ。子どもの精神保健とその課題についても理解を深める。						
	2. 授業の内容 保健管理、予防接種 健康と自然・保育環境、健康的な生活習慣と生活習慣病 思春期の問題行動 性教育						
授業計画	3. 授業計画						
	① 保育所・幼稚園の健康管理と健康教育						
	② 健康の保持・増進のための組織的取り組みと家庭・関係機関等との連携						
	③ 日常の健康観察						
	④ 健康と自然・保育環境						
	⑤ 健康的な生活習慣と生活習慣病						
	⑥ 思春期の問題行動						
	⑦ 事故予防と子どもの生活の場における安全管理・衛生管理						
	⑧ 児童虐待防止①						
	⑨ 児童虐待防止②						
	⑩ 子どもの生活環境と精神保健						
	⑪ 精神・神経系の病気						
	⑫ 予防接種について						
	⑬ 命の大切さを教える教育と性教育①						
	⑭ 命の大切さを教える教育と性教育②						
⑮ 命の大切さを教える教育(ビデオ視聴)							
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	テキスト:「子どもの保健Ⅰ」で使用したものを使用する 参考文献:授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	167	授業科目	子どもの食と栄養 (Nutrition Science for Child)			担当者	福島 洋子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1, 小児期の栄養と食生活は健康な生活をおくる上での基礎となるものであり, 生涯にわたる食生活の 2, 保育者として, 保育との関連の中で, 小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる 3, 食生活が家族の健康や生活, 地域との密接な関係があることを理解させる 4, 食生活を通じて, 生活全般や環境の望ましい姿を理解させる						
	2. 授業の内容 1, 小児期の栄養と食生活に関し, 保育士が子どもの心身ともに健康な生活を援助するために, 特に必要とされる知識と技能を学習する 2, 小児の発達段階に応じた食生活について解説し, テーマにより意見交換, コメント, 小論文を提出させる						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 小児期の栄養・食生活の意義と保育士の役割						
	② 保育所給食における保育士の役割と, 集団給食施設・児童福祉施設等について						
	③ 小児栄養の特徴と, 栄養学の基本的事項(栄養素, 基礎食品群, 食事摂取基準, 食生活指針 他)						
	④ 小児の発育・発達(成長)と食生活の意義						
	⑤ 妊娠・授乳期の栄養・食生活と, 小児の発育・発達との関係						
	⑥ 乳児期の栄養と食生活(乳汁栄養・離乳食の基本)						
	⑦ 幼児期の栄養と食生活(献立, 食品構成, 組合せ, 留意点, 他)						
	⑧ 幼児期の栄養と食生活(お弁当, 間食)						
	⑨ 学齢期(学校給食)・思春期の栄養と食生活						
	⑩ 学外実習(保育所他)に向けて, 食教育発表・小児栄養のレポートについて						
	⑪ 栄養教育と食事指導の実際 (食育その1)						
	⑫ 栄養教育と食事指導の実際 (食育その2)						
	⑬ 小児期の主な疾病(食物アレルギー他)・障害と食生活及び児童・保護者への対応						
	⑭ 小児栄養の問題点とその対応						
⑮ まとめ							
成績評価	レポート・コメント・筆記試験等による総合評価 1, 受講態度(レスポンスシート) …10% 2, 課題提出と栄養教育発表状況…20% 3, 期末筆記試験 …70%						
参考文献等	(教科書) 堤 ちはる・土井正子 編著「子どもの食と栄養」 萌文社 2,520円(税込) (参考資料) ○「日本食品成分表」 女子栄養大学出版部など, 出版社の指定は特でない ○「家庭科」教科書; 文部科学省…小学校, 中学校, 高校等で使用したのもよい (開隆堂, 東京書籍他) ○「食育白書(24年度版)」; 内閣府, 「食に関する指導の手引き」; 文部科学省						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	168	授業科目	社会的養護内容 (Contents of Social Care)			担当者	谷川知士・上原康祐 水流源彦・松下利衣	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教	演習	1	選択	保育士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本授業は、下記3点の達成を目指します。 (1) 児童福祉施設や障害者施設の利用者について、日常的に展開されている具体的な生活や支援の内容を理解する (2) 利用者の心身の発達をどのように保障しているかなど、具体的な支援に必要な知識や技能を習得する。 (3) 人間観や施設養護について理解し、家族や利用者への支援観を育成する。							
	2. 授業の内容 ・外部講師(児童福祉施設や障害者福祉施設等の施設長や職員)と共に、下記の授業計画にのっとり実施する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	児童養護施設等	①子どもを受け入れる	-インテークと観察-				(谷川)	
		②子どもへのかかわり	-方針と個別のかかわり-				(谷川)	
		③生活のルールと子どもの意見の尊重	-集団を活用した生活づくり-				(上原)	
		④子どもの行動への対応1	-愛着障害等による行動への対応-				(上原)	
		⑤子どもの行動への対応2	-被虐待、暴力、非行等逸脱行動への対応や専門職との協力-				(谷川)	
		⑥子どものグループと担当居室の運営	-リビングケアと自立支援及びアフターケア-				(谷川)	
		⑦施設の行事と集団活動	-行事等の集団活動とその進め方-				(谷川)	
		⑧親子再統合への取り組み1・2	-ペアレントトレーニング等・親子再統合への準備-				(谷川)	
	障害児者利用施設等	⑨乳幼児の親子支援状況	-鹿児島市の状況-				(松下)	
		⑩乳幼児の親子支援事例	-鹿児島市の状況-				(松下)	
		⑪障がい児・者施設等の運営状況	-全国、鹿児島県の状況-				(水流)	
		⑫障がい児・者施設等の支援事例1	-鹿児島県の状況-				(水流)	
		⑬障がい児・者施設等の支援状況	-全国、鹿児島県の状況-				(水流)	
		⑭障がい児・者施設等の支援事例2	-鹿児島県の状況-				(水流)	
⑮職場の運営と職員のチームワーク		-組織と役割、職員の姿勢と信頼-まとめ				(谷川)		
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点							
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。							
備考								
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。						

科目番号	169	授業科目	施設実習 I 指導 (Practical Guidance on Welfare I)			担当者	谷川 知士 松下 茉莉香	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教	演習	1	選択	保育士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 児童福祉施設への実習にむけて、施設種別とその施設の役割について理解する。 2. 各学生が希望する施設への理解を深めながら、利用者への支援方法について理解していく。							
	2. 授業の内容 各福祉施設の法的根拠等を調べ、最新の情報を入手し、知識を深めていく。また、児童養護施設等の現場職員を招き、実習での注意点を確認する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	児童養護施設について					(谷川・松下)	
	②	特別講義 A. 児童養護施設の実際					(岩元)	
	③	知的障がい児・障がい者施設について					(谷川・松下)	
	④	特別講義 B. 知的障がい施設の実際					(水流)	
	⑤	乳児院について					(谷川・松下)	
	⑥	特別講義 C. 乳児院の実際					(谷川・松下)	
	⑦	その他の児童養護施設について					(谷川・松下)	
	⑧	施設実習事後指導					(岩元)	
成績評価	・レポートと受講態度(100%)により評価する。							
参考文献等	・参考文献や必要な冊子等については、随時提示する。							
備考								
	オフィスアワー	随時(谷川研究室): できれば事前連絡をしてください。						

科目番号	170	授業科目	施設実習 I (Welfare Practice)			担当者	谷川 知士						
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考							
	2年・前期	児教	実習	2	選択	保育士資格必修							
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所以外の児童福祉施設等で行う本実習では、以下のことを目標とします。 (1)実習を通し、社会福祉における価値・理念を体験的に捉える。 (2)施設で暮らす方々や通って来る方々とのかかわりを通して、その生活や課題への理解を深める。 (3)施設職員の専門的なかかわり・支援の方法を学びながら、社会福祉従事者としての資質向上を図る。 (4)保育所以外の児童福祉施設等において、多様な職種の中で保育士が担う役割や機能を学ぶ。												
	2. 授業の内容 実習施設で行われている内容に準じる。												
授業計画	3. 授業計画												
	①	}											
	②												
	③												
	④												
	⑤												
	⑥												
	⑦												
	⑧							実習施設で作成されている学習プログラムに沿って行う。					
	⑨												
	⑩												
	⑪												
	⑫												
	⑬												
	⑭												
⑮													
成績評価	本学所定の評価表(A=優 B=良 C=可 D=不可)により、各実習施設側が下記の視点で評価する ①実習の態度 ②保育・援助の実践 ③実習記録												
参考文献等	鹿児島女子短期大学児童教育学科「保育実習の手引き」												
備考													
	オフィスアワー												

科目番号	171	授業科目	保育所実習Ⅱ指導 (Practice of Nursery School Ⅱ)			担当者	宇都 弘美 小津 草太郎	
			開講学期	学科・コース	履修方法			単位数
区分	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士資格選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。							
	2. 授業の内容 保育所実習Ⅰでの課題の確認、実習計画と保育計画、保育所と家庭・地域との連携実習の総括と自己評価、課題の確認							
授業計画	3. 授業計画							
	①	保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認					(宇都・小津)	
	②	子どもの活動の季節的な変化と発達について					(宇都)	
	③	各自の保育所実習Ⅱの目標の作成について					(宇都)	
	④	実習計画と保育計画について					(宇都)	
	⑤	事前訪問について					(宇都・小津)	
	⑥	腸内細菌検査およびぎょう虫卵検査について					(宇都)	
	⑦	検査結果配布と実習準備の確認					(宇都)	
	⑧	実習事後指導(実習の総括と自己評価、課題の確認)					(宇都)	
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績評価	実習準備の取組み状況とレポート(実習の終了報告書)100%で総合的に評価する							
参考文献等	テキスト:鹿児島女子短期大学児童教育学科編『保育実習の手引き』							
備考								
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)						

科目番号	172	授業科目	施設実習Ⅱ指導 (Practical Guidance on WelfareⅡ)			担当者	谷川 知士 松下 茉莉香	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士資格選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 2回目の児童福祉施設等の実習を希望する学生に対して、前回の反省等を踏まえ、より専門的な技術や能力を身に付ける。 2. 各学生が希望する施設への理解を深めながら、個別支援計画に基づいた利用者やその家族への支援方法について理解する。							
	2. 授業の内容 前回実習した各福祉施設の現状を再整理し、より専門的な知識を深めていく。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	児童養護施設について					(谷川・松下)	
	②	障がい児施設について－知的障害児－					(谷川・松下)	
	③	障がい児施設について－身体障害児－					(谷川・松下)	
	④	障がい者施設について－知的障害者－					(谷川・松下)	
	⑤	障がい者施設について－身体障害者－					(谷川・松下)	
	⑥	児童厚生施設について					(谷川・松下)	
	⑦	乳児院について					(谷川・松下)	
	⑧	その他の施設について					(谷川・松下)	
成績評価	・レポートと受講態度(100%)により評価する。							
	・参考文献や必要な冊子等については、随時提示する。							
備考								
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。						

科目番号	173	授業科目	保育所実習Ⅱ (Teaching Practice for NurseryⅡ)			担当者	宇都 弘美 小津 草太郎
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士資格選択必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。						
	2. 授業の内容 各実習先の指示するスケジュールに従って、主に以下の項目について学習する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 保育所の社会的役割と責任						
	② 保育所での生活や子どもの状態と保育士等の動きや実践						
	③ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・評価						
	④ 入所している保護者支援や地域の子育て家庭への支援						
	⑤ 多様な保育の展開と保育士等の業務と連携について						
	⑥ 地域社会との連携						
	⑦ 実習を通して、保育士としての自己の課題の明確化						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	<p>本学の定めた評価表に従って、各実習先が評価する。その評価の観点、以下の3項目である。</p> <p>① 実習の態度 ② 保育・援助の実践 ③ 実習の記録 (100%)</p>						
参考文献等	テキスト:鹿児島女子短期大学児童教育学科編『保育実習の手引き』						
備考							
	オフィスアワー	火曜日以外随時(宇都研究室)					

科目番号	174	授業科目	施設実習Ⅱ (Practice for Welfare Work)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士資格選択必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所以外の児童福祉施設等で行う本実習では、施設実習Ⅰを踏まえ以下のことを目標とします。 1. 実習を通して、社会福祉における価値・理念を体験的により深く捉える。 2. 個別支援計画等に基づき、施設利用者との関わりを通してその生活や課題へ取り組みを理解し、社会との関係を考えていく。 3. 施設職員の専門的なかかわり・支援の方法をより深く学ぶことで、福祉の専門家としての資質向上を図る。 4. 保育所以外の児童福祉施設等において、他職種との連携を学び、保育士が担う役割や機能をより深く理解する。						
	2. 授業の内容 実習施設で行われている内容に準じる。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	実習施設で作成されている学習プログラムに沿って行う。					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	本学所定の評価表(A=優 B=良 C=可 D=不可)により、各実習施設側が下記の視点で評価する ①実習の態度 ②保育・援助の実践 ③実習記録						
参考文献等	鹿児島女子短期大学児童教育学科「保育実習の手引き」						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	175	授業科目	体育Ⅲ (Physical Education Ⅲ)			担当者	黒原 貴仁
	開講学期		学科・コース	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は、小学校体育授業について基礎的理解を深める。具体的には、小学校低学年・中学年・高学年における「ゲーム領域」の教材を分析し、ゲーム構造の理解を基盤とした様々なゲーム教材を 実践し、その内容の理解と習得を旨とする。さらに、自らゲーム教材を考え、実践することにより、教授 方法の習得や発展的理解を深める。						
	2. 授業の内容 ゲーム・ボール運動						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	ゲーム	ボールゲーム(ボール投げゲーム・ボール蹴りゲーム)				
	②	ゲーム	ゴール型ゲーム				
	③		ネット型ゲーム				
	④		ベースボール型ゲーム				
	⑤	ボール運動	ゴール型				
	⑥		ネット型				
	⑦		ベースボール型				
	⑧		まとめ				
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	参加態度(70%)及び課題の達成等(30%)を総合して評価する。						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	随時(ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					

科目番号	176	授業科目	外国語活動に関する指導法 (Teaching Method for Communication Activities with Foreign Languages)			担当者	高島 まり子 吉村 圭
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 児童が易しい英語に慣れ親しみ、コミュニケーションへの意欲を高め、異文化への関心を深めるよう指導する技法を学ぶと同時に、自ら開拓していく。						
	2. 授業の内容 英語の知識を磨き、英語を用いたコミュニケーションの意欲を自ら高める。並行して、小学校学習指導要領に沿って外国語活動の目標を理解した上で、児童の異文化への興味・関心を育む、生き生きとした楽しい活動を指導するための知識・技能を学ぶと共に、グループ単位で独自に工夫する。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	小学校における外国語活動についての解説, 授業の実態や課題の提示					
	②	授業内容の紹介DVD視聴, 内容についての考察, 外国語活動に活用できるゲーム・指遊び・体操・歌など					
	③	同					
	④	同					
	⑤	同					
	⑥	同					
	⑦	同					
	⑧	小学校における外国語活動の見学					
	⑨	見学の振り返り					
	⑩	模擬授業の準備					
	⑪	模擬授業の準備					
	⑫	模擬授業, 自己評価, 相互評価					
	⑬	同					
	⑭	同					
⑮	同, 模擬授業の総括						
成績評価	受講態度と毎回の授業振り返りシート提出(60%), 模擬授業(40%)の総合評価						
参考文献等	神保尚武 監修 『やさしく歌える英語のうた』NHK出版 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(文部科学省)東洋館出版社 『Hi, friends! 1・2』(文部科学省)東京書籍株式会社						
備考							
	オフィスアワー	随時(高島・吉村 研究室)					

科目番号	177	授業科目	カウンセリング入門 (Introduction to Counseling)			担当者	松元 理恵子
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	2年・後期	児教	講義	1	選択	ピアヘルパー試験受験必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 学校教育をカウンセリングの視点から見た際に、悩みを持つ子どもや保護者に対しどのようにかわってあげればいいのかを自分の心で感じ、みつめていけることが大切になります。悩みを抱えている心に触れ、人間性の尊重を軸とした心理的援助が行えるように、援助に必要な相談・面接技法を学び、身につけることを目指します。						
	2. 授業の内容 カウンセリングの基礎的理論と実技を講義とロールプレイングで学びます。カウンセリングにおける「みたて」の問題やさまざまな技法の目的について説明し、演習を行います。「聴く」練習や受容、共感、信頼関係、自己理解、他者理解を具体的に体験しながら実施します。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① エンカウンターについて						
	② カウンセリングの理論(精神分析、自己理論)						
	③ カウンセリングの理論(行動療法、論理療法、その他の療法)						
	④ カウンセリング技法(受容、繰り返し、明確化)						
	⑤ カウンセリング技法(支持、質問)						
	⑥ カウンセリングの非言語的技法						
	⑦ 対話上の諸問題への対処法(ケースに基づいたロールプレイ)						
	⑧ 青年期の課題(グループワーク、ロールプレイ)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート提出(60%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(30%) 受講および演習態度(10%)						
参考文献等	テキスト : 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』 図書文化 2009年 参考文献 : 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』 図書文化 2009年 パワーポイントを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	178	授業科目	生涯学習論 (Longlife Learning)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本講義は教育機関に就職をしようとする者がそれぞれの成長期の関わりを持つと共に、自らの成長を自ら支える生涯学習の意義を探るものである。「知る楽しさ」、「知る面白さ」を味わうと共に、知的好奇心を持った社会人であることを目指す。						
	2. 授業の内容 生涯学習はまだ生まれて間もないものである。したがって、それはまだ試みの段階であると言える。しかし、その構想の理念には教育そのものへの重要な問いかけを含んでいる。本講義ではそうした根本的な考え方を理解することを目指して、学生自らが生涯にわたって学ぶことの意味を考えてもらいたい。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 知るとは？学ぶとは？－学校教育における「学び」						
	② 知るとは？学ぶとは？－高等教育機関における「学び」						
	③ 知るとは？学ぶとは？－生涯学習における「学び」						
	④ 学び続けるとは？						
	⑤ 生涯学習のおこりとその特徴						
	⑥ 生涯学習支援の施設とその活動						
	⑦ 生涯学習の具体的内容(I)－教養としての生涯学習①						
	⑧ 生涯学習の具体的内容(II)－同上②						
	⑨ 生涯学習の具体的内容(III)－同上③						
	⑩ 生涯学習の具体的内容(IV)－知識の更新としての生涯学習①						
	⑪ 生涯学習の具体的内容(V)－同上②						
	⑫ 生涯学習の具体的内容(VI)－倫理性を伴った自己教育としての生涯学習						
	⑬ 生涯学習の現状とその課題						
	⑭ 生涯学習の総括と展望						
⑮ まとめ							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、随時紹介する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	179	授業科目	生活科教育法 (Teaching Method of Life Environment Studies)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・コース	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 ① 生活科教育の目的・内容・方法・評価について理解する。 ② 先進的な生活科教育実践を学び、実践に必要な能力を培う。 ③ 生活科教育を核にして保幼小連携について学び、その目的や方法等を理解する。						
	2. 授業の内容 学習指導要領を読み込み、生活科教育の目的等について学ぶ。また、ビデオ等をとおして、先進的な実践を学ぶ。さらに、学習内容の模擬体験等をとおして、実践的な技能を習得する。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① インTRODクション						
	② 「学校と生活」の目的・内容と実践事例						
	③ 「家庭と生活」の目的・内容と実践事例						
	④ 「地域と生活」の目的・内容と実践事例						
	⑤ 「公共物や公共施設の利用」の目的・内容と実践事例						
	⑥ 「季節の変化と生活」の目的・内容と実践事例						
	⑦ 「自然や物を使った遊びの工夫」の目的・内容と実践事例						
	⑧ 「動植物の飼育・栽培」の目的・内容と実践事例						
	⑨ 「生活や出来事の交流」の目的・内容と実践事例						
	⑩ 「自分の成長」の目的・内容と実践事例						
	⑪ 生活科の評価論						
	⑫ 保幼小連携と生活科 (1)						
	⑬ 保幼小連携と生活科 (2)						
	⑭ 生活科と総合的な学習の時間						
⑮ まとめ							
成績評価	原則として筆記試験(90分で実施)で評価する。また、模擬授業への取組など受講態度を加味する。 (筆記=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版） 参考文献は講義中に適宜指示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(研究室)・要事前連絡					

科目番号	180	授業科目	保育指導法の研究 (How nursing research)			担当者	坪井 敏純
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教	講義	2	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 環境を通して行う保育と遊びによる指導を基本に、乳幼児の理解に基づく望ましい指導・援助のありかたをさまざまな具体的な場面を通して学ぶ。さらに、育児に関わる支援について基本的な考え方と援助について学ぶ。						
	2. 授業の内容 乳幼児を理解する力をつけ、それに基づいて指導・援助方法の種類とその特徴を明らかにし、望ましい保育者の関わりを学ぶ。さらに子どもの主体的活動を生み出す環境構成のありかた、保育形態と保育者の関わりについて理解し、実践力を身につけたため、問題の討議から具体的な援助行動を導く参加型の授業を行う。						
授業計画	3. 授業計画						
	①	幼児理解と指導法					
	②	遊びと保育者の関わり(見守り)					
	③	遊びと保育者の関わり(直接・間接的指導・援助)					
	④	遊び環境と保育の指導1					
	⑤	遊び環境と保育の指導2					
	⑥	葛藤(いざこざ)の援助					
	⑦	保育形態の考え方と指導(設定保育と自由保育)					
	⑧	保育形態の考え方と指導(年齢別保育と異年齢保育)					
	⑨	生活(日課)と保育の指導					
	⑩	保育と行事					
	⑪	障害のある子ども・外国籍の子どもの受け入れと保育のあり方(障害児の支援計画についても触れる)					
	⑫	保育計画の意義と必要性					
	⑬	保育の評価と方法(保育士の自己評価及び教育要領・保育要録にも触れる)					
	⑭	保育制度と子育て支援のあり方					
⑮	保育における情報機器の活用と教材の作成						
成績評価	①講義で出された課題(レポート等)(25%) ②受講態度(15%) ③筆記試験(60%)						
参考文献等	テキスト;「保育方法の実践的理解」久富・梅田(著) 萌文書林 適宜、資料を配布する 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30~17:30					

科目番号	181	授業科目	保育内容(人間関係) (Childcare content(Human relationship))			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所保育指針・幼稚園教育要領に沿って、「人間関係」の指導・援助について概説し、具体的な問題を取り上げて、理解を深める。						
	2. 授業の内容 ① 保育内容「人間関係」のねらいと内容の解説 ② 「人間関係」の指導・援助の具体的方法と理論 ③ 社会性の発達と人間関係の形成						
授業計画	3. 授業計画						
	① 子どもの社会性の発達と「人間関係」						
	② 領域「人間関係」のねらいと内容1						
	③ 領域「人間関係」のねらいと内容2						
	④ 領域「人間関係」のねらいと内容3						
	⑤ 領域「人間関係」のねらいと内容4						
	⑥ 領域「人間関係」の配慮事項1						
	⑦ 領域「人間関係」の配慮事項2						
	⑧ 人間関係の指導計画						
	⑨ 子どもの社会の発達						
	⑩ 異年齢保育とその指導・援助						
	⑪ 個と集団						
	⑫ 保育の中の人間関係の援助						
	⑬ 社会性の発達と人間関係(向社会性発達)						
	⑭ 社会性の発達と人間関係(道徳性の発達)						
⑮ 外国籍の子どもと保育							
成績評価	① 講義で出された課題(実技・レポート等)の達成;20% ② 受講態度;15% ③ 筆記試験;65%						
参考文献等	テキスト;幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説 解説のための資料を配布するので、ファイリングすること 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30~17:30					

科目番号	182	授業科目	保育内容(表現Ⅲ) (Childcare content (RepresentationⅢ))			担当者	中村 礼香 上谷 裕子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 身体表現(リミック)や楽器による表現を体験し、幼児の音楽表現指導法を修得する。						
	2. 授業の内容 領域「表現」の視点から捉えた即興演奏や身体表現(リミック)についての演習(45分)とピアノ奏法の個人指導(45分)を行なう。 ①即興遊び 領域「表現」と即興演奏、身体表現、ボディーパーカッション、子どもの歌、器楽合奏 ②ピアノ奏法 ピアノ教本や、「うたとあそび」等の音楽歌唱教材を用いて、それぞれのレベルに応じて個人指導を行う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 領域「表現」概要講義 及びピアノ個人指導						
	② リミックⅠ 及びピアノ個人指導						
	③ リミックⅡ 及びピアノ個人指導						
	④ リミックⅢ 及びピアノ個人指導						
	⑤ こどもの歌Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑥ こどもの歌Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑦ こどもの歌Ⅲ 及びピアノ個人指導						
	⑧ 器楽合奏Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑨ 器楽合奏Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑩ 幼児教育音楽(ダルクローズ、オルフ、コダーイ等)について 及びピアノ個人指導						
	⑪ ボディーパーカッションⅠ 及びピアノ個人指導						
	⑫ ボディーパーカッションⅡ 及びピアノ個人指導						
	⑬ 即興演奏Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑭ 即興演奏Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑮ リミック等のまとめ 及びピアノ個人指導						
成績評価	①平常点(50%)、ピアノ実技試験(50%) ②ピアノの実技試験はクラシック曲の中から任意の1曲と、幼児曲または小学校教材の中から任意の1曲(弾き歌い)で暗譜で演奏する。						
参考文献等	テキスト 新編幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノ教則本(ソナチネアルバムなど)						
備考							
	オフィスアワー	随時(中村研究室)					

科目番号	183	授業科目	保育・教職実践演習 (Senior Seminar for Prospective Teachers)			担当者	坪井敏純・池田哲之・大村一光・平嶋慶子・山元有一・新村元植・松崎康弘・小松恵理子・井上周一郎・小津草太郎	
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	児教 (小保/幼保)	演習	2	選択必修	幼教免選択必修 保育士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実習等の反省を踏まえ、プロとしてふさわしい子ども理解・保育技術の深化を図るとともに、自分なりの教師・保育者観を確立する。							
	2. 授業の内容 前半は、実習等をふりかえり、自分の成果と課題を明確にする。その上で、前半は教職としての職務と子ども理解に重点を置き、討論等を通して理解を深める。後半は模擬保育をとおして、教職としての実践力を高める。最後に、自分なりの保育観をまとめ、発表する。							
授業計画	3. 授業計画							
	①	幼稚園教育実習・保育所実習・施設実習のふりかえり					(池田・新村・山元・松崎・小津)	
	②	教員・保育者の職務内容についての講義					(坪井・山元・平嶋・小津・松崎)	
	③	教員・保育者の職務内容についてのグループ討論					(坪井・山元・平嶋・小津・松崎)	
	④	子ども理解についての講義					(坪井・山元・平嶋・小津)	
	⑤	子ども理解についてのグループ討論					(坪井・山元・平嶋・小津)	
	⑥	子どもへの対応についてロールプレイング					(坪井・山元・平嶋・小津)	
	⑦	保育内容等の指導力についての講義					(坪井・大村・小松・井上)	
	⑧	保育内容等の指導力についてのグループ討論					(坪井・大村・小松・井上)	
	⑨	模擬保育案の作成					(新村・平嶋)	
	⑩	模擬保育①(幼児を対象とした劇など)					(小松・新村・平嶋・井上)	
	⑪	模擬保育②(幼児を対象とした劇など)					(小松・新村・平嶋・井上)	
	⑫	模擬保育についてのグループ討論(現職教諭による指導を含む)(小松・新村・平嶋・井上)						
	⑬	教職(幼児教育)の意義についての講義(坪井・山元)						
	⑭	教職(幼児教育)の意義についてのグループ討論 (坪井・山元)						
⑮	まとめ (担当全教員)							
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート = 90%、態度 = 10%)							
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は講義中に適宜指示する。							
備考								
	オフィスアワー	教員によって異なる。						

科目番号	184	授業科目	教職実践演習(幼・小) (Senior seminar for Prospective Teachers)			担当者	坪井敏純・池田哲之・大村一光 村若修・山元有一・新村元植・ 松崎康弘・小松恵理子 井上周一郎・小津草太郎	
			開講学期	学科・コース	履修方法			単位数
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択必修	幼教免選択必修 小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 実習等の反省を踏まえ、プロの教師としてふさわしい学習指導力と学級経営能力を養うとともに、自分なりの教師観を確立する。							
	2. 授業の内容 まずは実習等を振り返り、自分の成果と課題を明確にする。その上で、学習指導について討論し、学校現場の視点を取り入れつつ、そのあり方を探る。後半は主に学級経営について体験的に理解を深める。最後に、自分なりの教師観をまとめ、発表する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	小学校教育実習・幼稚園教育実習のふりかえり					(松崎・山元・池田・新村)	
	②	教員の職務内容についての講義・グループ討論					(池田・山元・松崎)	
	③	教科内容等の指導力についての講義					(小松・大村・松崎・井上)	
	④	教科内容等の指導力についてのグループ討論					(小松・大村・松崎・井上)	
	⑤	小学校長(幼稚園長)による指導—授業・保育参観に向けて—					(池田・松崎)	
	⑥	小学校(または幼稚園)参観 ①					(池田・松崎)	
	⑦	小学校(または幼稚園)参観 ②					(池田・松崎)	
	⑧	参観の成果についてのグループ討論(授業の再現等を含む)					(池田・松崎)	
	⑨	児童理解・学級経営についての講義					(坪井・山元・小津)	
	⑩	児童理解・学級経営についてのグループ討論					(坪井・山元・小津)	
	⑪	学級経営案の作成					(坪井・山元・小津)	
	⑫	学級経営のロールプレイ					(坪井・山元・小津)	
	⑬	教職の意義に関する講義					(池田・山元・松崎)	
	⑭	教職の意義に関するグループ討論					(池田・山元・松崎)	
⑮	まとめ					(担当全教員)		
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート = 90%、態度 = 10%)							
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は講義中に適宜指示する。							
備考								
	オフィスアワー	教員によって異なる。						

科目番号	185	授業科目	保育研究法 (study of nursing method)			担当者	坪井敏純
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教 (小保/幼保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 保育所及び幼稚園における保育の実践的研究に関する研究方法を身につける。						
	2. 授業の内容 実践研究の意義と目的を理解し、観察、実験、調査、事例研究などの基本的な方法を身につける。さらに結果の処理方法として統計的な手法の理解、研究論文の書き方やその発表の仕方などを学ぶ。また、良い実践論文を見るときともに、文献検索の方法を知る。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 研究の意義とエビデンス						
	② 研究の手順(問題提起から展望まで)						
	③ 観察法による実践研究と統計的手法1						
	④ 観察法による実践研究と統計的手法2						
	⑤ アンケート調査法による実践研究1						
	⑥ アンケート調査法による実践研究2						
	⑦ 事例研究						
	⑧ 園内研修と保育研究						
	⑨ 実践論文の書き方1						
	⑩ 実践論文の書き方2						
	⑪ 実践論文の書き方3						
	⑫ 発表の方法1						
	⑬ 発表の方法2						
	⑭ 文献検索の方法						
⑮ 文献検索による実際の資料の収集							
成績評価	受講態度 授業で出された課題の達成						
参考文献等	テキストは使わない 講義資料は適宜配布する 発表論文等(適宜配布する)						
備考							
	オフィスアワー	最初の授業で知らせる(火曜日放課後を予定)					

科目番号	186	授業科目	相談援助 (Social Work)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	児教	演習	1	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 子どもの保育や養護と共に、保護者や地域の子育て支援の担い手としての知識を身に付ける。 2. このような役割・機能を果たしていく上で必要なソーシャルワーク(社会福祉援助技術・活動)に関する知識や技能を習得し、その基盤となる考え方を学ぶ。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	①	講義ガイダンス、保育における社会福祉援助技術とは					
	②	社会福祉における援助活動の意義					
	③	ソーシャルワークの理論と動向					
	④	ソーシャルワークの意義と体系					
	⑤	保育におけるソーシャルワーク					
	⑥	ケースワークの意義・定義					
	⑦	ケースワークの原則					
	⑧	ケースワークの方法					
	⑨	保育におけるケースワーク					
	⑩	グループワークの意義・原則					
	⑪	グループワークの展開					
	⑫	保育におけるグループワーク					
	⑬	コミュニティワークの意義・原則					
	⑭	コミュニティワークの展開と実践					
⑮	まとめ						
成績評価	以下の2点により、総合的に評価する。 ①試験またはレポート等:70点+下記の点を加味する。 ②受講態度・発表:30点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(谷川研究室):できれば事前連絡をしてください。					

科目番号	187	授業科目	家族支援論 (Family Support for Childcare)			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教 (小保・幼保)	講義	2	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 3歳までは母親が家庭で子育てするべし」という考えの中には、どんな問題が存在するのだろうか。現代の家族と子育てを取り巻く現状を理解し、家庭保育と幼稚園・保育所そのほかの保育施設が相補しながら子どもを含む家族の発達を保障する、という課題を考える。さらに適切な子育て支援を行うために「地域に開かれた幼稚園」、多様化した保育ニーズに対応する「子育て支援の役割を果たす保育所」における家庭支援の在り方を学ぶ。また就学前の乳幼児の教育・保育の一元化の問題について考える。						
	2. 授業の内容 講義を通して家庭支援の概念を理解する。各月ごとに設定された4つの課題レポートを作成することによって、家族のありようの変化や、子育ての問題点、子育て支援の実際を自身の問題としてとらえる。保育・教育の専門職として家族援助に取り組めるように学習を展開する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 家族福祉と家族援助①						
	② 保育施設の役割と機能						
	③ 子育て支援とは						
	④ 子育て・保育をめぐる諸問題						
	⑤ 家族を取り巻く社会:その歴史的変化						
	⑥ 家族の変化・今日の家族関係						
	⑦ 食生活から見る現代の家族						
	⑧ 家族福祉と家族援助②援助を必要とする家族						
	⑨ 家庭をどのように支援するのか						
	⑩ 子育て支援の方法と内容						
	⑪ 地域における子育て支援:ソーシャル・ネットワークの構築						
	⑫ 関係法令と施策①新エンゼルプラン以降						
	⑬ 関係法令と施策②保育所保育指針と幼稚園教育要領の中の子育て支援						
	⑭ 関係機関と施設						
⑮ 総括:実習のまとめと職業的自立にむけて							
成績評価	試験						
	筆記試験は90分で実施 毎月のレポート課題の提出(4回)と定期試験 80% 受講態度20%						
参考文献等	児童の福祉を支える 家庭支援論 吉田真理 萌文書林						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	188	授業科目	保育相談支援 (Counseling and Support in Child Care)			担当者	谷川 知士
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教	演習	1	選択	保育士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本と原則を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際を学び、チームワークや連携について理解する。						
	2. 授業の内容 下記の授業計画による。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 講義ガイダンス、保育相談支援とは						
	② 保護者に対する保育相談支援の意義						
	③ 保育士の特性と専門性を生かした支援とは						
	④ 子どもの最善の利益と福祉との関係						
	⑤ 子どもの成長と喜びの共有						
	⑥ 保護者の養育力向上に向けた支援						
	⑦ 信頼関係を構築するための支援原則						
	⑧ 社会資源の活用と関係機関との連携						
	⑨ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅰ：内容						
	⑩ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅱ：方法や技術						
	⑪ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅲ：インテーク～アセスメント						
	⑫ 保育所における具体的な保育相談支援						
	⑬ 保育所における特別な対応を要する家庭への支援						
	⑭ 児童養護施設や障がい児施設及び母子生活支援施設等の要保護児童の家庭に対する相談支援						
⑮ まとめ							
成績評価	以下の2点により、総合的に評価する。 ①試験またはレポート等：70点＋下記の点を加味する。 ②受講態度・発表：30点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	随時(谷川研究室)：できれば事前連絡をしてください。					

科目番号	188	授業科目	学習指導と学校図書館 (Management in the School and School Library)			担当者	川戸 理恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 教育課程において学校図書館がどのような意味を持つのか、また学校図書館という施設やそこで収集されたメディアをどのように活用し効果的な学習指導を行うことが可能か実践的に理解する。そして、学校全体の取り組みとして司書教諭と科目担当教員の協働による授業展開のあり方についても理解をする。						
	2. 授業の内容 教育課程において学校図書館がどのような意味を持つのか、また学校図書館という施設やそこで収集されたメディアをどのように活用し効果的な学習指導を行うかということに主眼を置く。そして、学校全体の取り組みとして司書教諭と科目担当教員の協働による授業展開のあり方についても扱う。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 学校教育における司書教諭の役割						
	② 学習指導要領と学校図書館						
	③ メディアの種類と特性						
	④ 学校図書館メディア活用能力						
	⑤ 学校図書館メディア活用能力の育成計画						
	⑥ 図書館利用教育の実際・1						
	⑦ 図書館利用教育の実際・2						
	⑧ 学校図書館における情報サービス						
	⑨ レファレンス資料の種類と特性						
	⑩ レファレンス資料の活用・1						
	⑪ レファレンス資料の活用・2						
	⑫ パスファインダー等の作成・1						
	⑬ パスファインダー等の作成・2						
	⑭ 学習成果の表現と相互評価						
⑮ まとめ							
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※ 筆記試験は70分で実施 受講態度(10%)、授業中の指示した課題の提出(10%)						
参考文献等	テキスト：なし。講義中にプリントを配布する。						
備考	※ 単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	随時(要事前連絡)					

科目番号	190	授業科目	読書と豊かな人間性 (Human Life with Books)			担当者	伊佐山 潤子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 本をめぐるさまざまな話題を提供します。それに合わせて、本についていろいろな角度から考えてみてください。読書が人生にどのような喜びや楽しみ、豊かさを与えるものであるか、改めて感じてもらいたい時間です。						
	2. 授業の内容 読書や本に関する資料をまず読んでもらいます。その後、それらについて考察します。また、実際に自分で本を選んだり、紹介文を書いたり、いろいろな作業を通して考えを深めて行きます。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 「本を読む」ということ						
	② 本ができるまで(1)						
	③ 本ができるまで(2)						
	④ 図書館(1)						
	⑤ 図書館(2)						
	⑥ 絵本・こどもの本						
	⑦ 読み聞かせ						
	⑧ ストーリーテリング						
	⑨ ブックトーク(1)						
	⑩ ブックトーク(2)						
	⑪ ブックトーク(3)						
	⑫ 学生・大人の本						
	⑬ 読めているか						
	⑭ 読書の意味						
⑮ 本のある生活							
成績評価	出席状況(30%)と各時間の課題への取り組み(提出物)(70%)で評価します。						
参考文献等	テキスト：プリントを配布します。 参考文献：松田哲夫『編集狂時代』(新潮文庫 2004) 田口久美子『書店風雲録』(ちくま文庫 2007) 向井元子『すてきな絵本 たのしい童話』(中公文庫 2003) ほかは講義中に随時紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	随時(伊佐山研究室)					

科目番号	191	授業科目	情報メディアの活用 (Practical use of information media)			担当者	瀬戸 博幸
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目標 インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在において図書館で情報メディアをどのように活用すべきか考えてもらう。						
	2. 授業の内容 情報メディアについて、ビデオなどで具体的な例を紹介し、その意義を考察する。						
授業計画	3. 授業計画						
	① 情報メディアってなんだろう						
	② ラジオ放送がどのように誕生したか						
	③ インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくろう						
	④ テレビの誕生						
	⑤ 地上デジタル放送とは						
	⑥ 映像の記録メディア						
	⑦ 南極からのハイビジョン生中継						
	⑧ 月からのハイビジョン映像						
	⑨ メディアについて現在の状況を眺めてみよう						
	⑩ OPAC						
	⑪ 国会国立図書館						
	⑫ WebCat						
	⑬ 国立情報学研究所						
	⑭ 今後の図書館について						
⑮ 最終レポートについて							
成績評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考文献等	参考文献「情報メディアの意義と活用」(樹村房) 大串夏身編著 使用視聴覚機器(コンピュータ、DVD、教材提示装置)						
備考							
	オフィスアワー	随時(西417 瀬戸研究室)					

目次(科目名50音順)

【い】	インターンシップ	18	児童家庭福祉	80
【う】	WE LOVE 鹿児島!	40	情報メディアの活用	135
【え】	英語演習Ⅰ	21	社会学	14
	英語演習Ⅰ	22	社会	62
	英語演習Ⅰ	23	【す】 数学基礎	27
	英語演習Ⅱ	32	図画工作	67
	英語演習Ⅱ	33	図画工作科教育法	98
	英語演習Ⅱ	34	【せ】 生活	87
【お】	音楽Ⅰ	41	生徒指導・進路指導	72
	音楽Ⅱ	65	生活科教育法	123
	音楽Ⅲ	88	【そ】 相談援助	130
	音楽科教育法	97	【た】 体育講義	38
【か】	韓国語演習Ⅰ	26	体育実技	39
	海外事情	31	体育Ⅰ	43
	韓国語演習Ⅱ	37	体育Ⅰ	44
	家庭	64	体育Ⅱ	68
	カウンセリング入門	121	体育Ⅲ	119
	家族関係論	94	体育科教育法	76
	家庭科教育法	99	【ち】 中国語演習Ⅰ	25
	家族支援論	131	中国語演習Ⅱ	36
	外国語活動に関する指導法	120	【と】 特別活動の研究	101
	学校経営と学校図書館	52	ドイツ語演習Ⅰ	24
	学校図書館メディアの構成	61	ドイツ語演習Ⅱ	35
	学習指導と学校図書館	133	道徳教育の研究	100
【き】	器楽Ⅰ	42	読書と豊かな人間性	134
	器楽Ⅱ	66	【に】 日本語表現の基礎	9
	教職概論	45	日本国憲法	16
	教職概論	46	人間と環境	30
	教育原理	69	乳児保育	82
	教育心理学	48	【は】 発達心理学Ⅰ	50
	教育方法の研究	71	発達心理学Ⅰ	51
	教育相談	90	発達心理学Ⅱ	93
	教育制度論	49	【ふ】 文学	11
	教師と法	95	文学	12
	教育課程・保育課程	102	分子からみた生物	29
	教育課程・保育課程	103	【ほ】 保育者論	70
	教職実践演習(幼・小)	128	保育原理	47
	キャリアガイダンス	19	保育臨床	92
	キャリアガイダンス	20	保育内容総論	55
【こ】	国際化と経済	15	保育指導法の研究	124
	国語(書写を含む)	85	保育内容(健康)	56
	子どもと人権	74	保育内容(環境)	77
	国語科教育法	75	保育内容(人間関係)	125
	子どもの保健Ⅰ	60	保育内容(言葉)	57
	子どもの保健Ⅱ	81	保育内容(表現Ⅰ)	58
	子どもの保健Ⅲ	110	保育内容(表現Ⅱ)	104
	子どもの食と栄養	111	保育内容(表現Ⅲ)	126
【さ】	算数	86	保育・教職実践演習	127
	算数科教育法	54	保育研究法	129
【し】	心理学	13	保育相談支援	132
	障害児の教育・保育	73	保育所実習Ⅰ指導	83
	生涯学習論	122	保育所実習Ⅰ	84
	社会科教育法	53	保育所実習Ⅱ指導	115
	社会福祉	59	保育所実習Ⅱ	117
	小学校教育実習指導	105	【よ】 幼稚園教育実習Ⅰ指導	78
	小学校教育実習	106	幼稚園教育実習Ⅰ	79
	社会的養護	109	幼稚園教育実習Ⅱ指導	107
	社会的養護内容	112	幼稚園教育実習Ⅱ	108
	施設実習Ⅰ指導	113	【り】 倫理学	10
	施設実習Ⅰ	114	理科基礎	28
	施設実習Ⅱ指導	116	理科	63
	施設実習Ⅱ	118	理科教育法	96
	児童の健康と保健	89	【れ】 歴史学	17
	情報機器演習	91			